

愛知文教大学論叢

第 21 卷

2018

愛 知 文 教 大 学

目 次

論文

エリザベス・ギヤスケルと大英帝国
— 『女だけの町』 から 『ルース』 まで —

金丸千雪 1

アプリ開発とスマートスピーカーについて

早川 渡 19

大学の中途退学に関するデータ分析
— 学生が持つ授業イメージからのアプローチ —

小林正樹 31

愛知文教大学におけるループリックへの取り組み
— 自己評価アンケート（外国語分野）の試行 —

西口智也 41

康有為の留学教育思想

馬 燕 53

研究室ノート

71

~~~~~  
地域史教育における地理情報の補足に関する試論

内田吉哉 三五 (102)

古文教授方法論③  
— 補助符号の使用とレイアウトの工夫による古文学習 —

高橋良久 二 (116)

国宝『源氏物語絵巻』装束データベース

畠山大二郎 一 (136)

~~~~~

エリザベス・ギaskellと大英帝国
—『女だけの町』から『ルース』まで—

金丸千雪

はじめに

夏目漱石(1867～1916)が英国留学時に触れていた西洋の作家といえば、シェイクスピア、あるいはジェイン・オースティンが有名であるが、その他ミルトンやゴールドスミス、ローレンス・スターンをよく読んだことが知られている。帰国後に世に問うた『文学論』において、漱石はエリザベス・ギaskell(1810～1865)の『克蘭フォード』すなわち日本の翻訳では『女だけの町』(*Cranford* 1851～52)をかなり評価している。漱石は2年半に及ぶ英国留学から帰国した後、自身の文学的立場を明らかにする中で、『克蘭フォード』の文学的な技法を解説している。

このギaskell夫人(当時はそう呼ばれていた)は本国では知られているものの、1980年代に至るまで日本ではほとんど研究対象として顧みられることはなかった存在である。一方、漱石が当時の文部省より「英語研究」の名目で渡英した時代、エリザベス・ギaskellは英国の知識人層に実によく読まれていた作家であり、彼女が書いた小説は人気のある雑誌に連載されていた。ギaskellは漱石よりも57年早く生まれているので、両者は半世紀も異なる世代に当たる。しかし、彼らが生きた時代は共通して、封建的な体制から「自由放任」という経済原理が取り入れられた時代であり、産業革命がもたらした科学万能主義とそれに続く、行き過ぎた競争が個人に不安感を与えている。

さて、この『克蘭フォード』は週刊誌の *Household Words* に連載されていたが、掲載が途切れている時期がある。それは1852年4月3日号から1853年1月8日号までのおよそ9カ月である。これは人気作家ギaskellが、この間に『ルース』(1853)にかかり切りになっていて、*Household Words* のための原稿を書く暇がなかったからである。世界最大の工業国と

なった「大英帝国」において、読者を楽しませる作家の力量を示した『克蘭フォード』でギヤスケルはその地位を確かなものとした。この小説は新旧相克の時代の特徴がよく捉えられ、旧世界の道徳や倫理感に郷愁ともいべき感慨を読者が抱くように仕向けられている。この段階では、まだそれほど過激な作者の思想は発揮されていない。だが、次に手掛けた『ルース』で、階級社会が厳存する「大英帝国」の体質、すなわち社会的な弱者の尊厳を平気で踏みしめる態度に作者は懐疑の念を表明する。国内にあっては低賃金で雇われる下層階級の労働力、海外においては帝国主義の下植民地支配で成り立つ制度そのものが問題となる。それは投資と経営という合法的な制度であったために、表立って疑問を投げる者はいないが、さまざまな特権や政治的な圧力や独占などによって、利益がブルジョア階級以外には入らないという強力なシステムを構築している。

本稿では、『ルース』の革新性を検証することで、大英帝国という体制の内部に属しながらも、内部の人間が体制を批判するという特有の難しさを明らかにしたい。ギヤスケルは世間からの批判を最小限にするために言葉を慎重に選んでいる。その微妙なセンスを伝えるために、『ルース』については英文そのままを本稿に多く使用することをお断りしておく。また、本論のタイトルに「大英帝国」を使用したか、「イギリス」という日本語に該当する英語がないように、「大英帝国」に該当する英語もない。あえて訳するならば、Great Britain か、British Empire であろう。ヴィクトリア女王の治世が始まった 1837 年以降、産業革命の成果を享受する階級が存在した反面、貧困をはじめとする社会問題が次の世代へと先送りされる。この時代が生んだ不正行為を小説で示唆することで、政治の仕組みそのものよりも個人がより良心的に生きることによって帝国を変革しようとした作家の意図を探ってみたい。

1. 『克蘭フォード』の社会的な背景

ギヤスケルは若い頃、自然に囲まれた古き良き時代を想起させる田園生活の「旧世界」、すなわち小説『克蘭フォード』の舞台である平和なナッツフォードに住んでいた。フィクションの克蘭フォードという場所は、新興勢力（ブルジョアジー）が登場した 19 世紀半ばにおいて、まだ昔ながらの人情と豊かな自然が残されている田舎町である。克蘭フォード（ナッツフォード）という町は、激しい競争原理に支配された商業都市ドラムブル（モデルは産業革命のスタートを切ったマンチェスター）から距離的には近いのだが、とりたてて事件もなく平和である。重要なのは、小説の語り手がドラムブルで精力的に働くスミス氏の娘、20 代の独身女性メアリなのである。メアリ・スミスは大都市の力強さと激しい競争原理を実感していると同時に、田舎町的美徳も理解できている。都会育ちのメアリが女性の視点から田舎町で見聞した出来事が、ユーモラスに描かれている。この語り手のアイデンティティは作者ギヤスケルのものでもある。のどかなナッツフォードで少女時代を過ごしたギヤスケルは、結婚してからは産業革命の中心地マンチェスターで生活をし、産業社会の到来を告げる「新世界」に身を置くことになったのである。彼女はこの牧歌的な町で育ち、のちに屈指の商工業都市マンチェスターで、牧師夫人として劣悪な労働条件で働く最下層の不熟練労働者の生活を見聞する。そこでの経験と周囲の人々の観察から貧富の差の実体を取り込んだ小説の創作により、職業作家への第一歩を踏み出した。続いて、ギヤスケルは週刊誌への連載というチャンスをつかみ、『克蘭フォード』の連載で主婦から公的領域へと出ていくのである。

ギヤスケルは自己の分身をテキストに解放し、それによって自己の衝撃的な体験、すなわちマンチェスターで出会った極貧生活で喘ぎながらも良き隣人であろうとする労働者たちの善意を再認識し、秩序だて、意味あるものとして自己の内面に収めたのではないだろうか。それを明確にするために、『克蘭フォード』で語られる象徴的なエピソードを分析する必要がある。この田舎町の住民は、老年の未婚女性か、子供のいない未亡人ばかり

である。彼女たちは皆、親切であり、18世紀的な風習を大事にして近所同士のお茶の会を開くことにより、女性同士の絆を結び合い助け合いの精神を保つ。貴族的な彼女たちは一見、とりすました上品さを保ってはいるが、その生活はかなりの儉約をしないと維持できない悲慘なものである。男性不在の生活では、食べていくだけでも精一杯であるが、それをひた隠しにしている。事のつまりは貧乏であり、彼女たちは現実には持てないものを持っているふりをしているだけなのだ。ある日、この女だけの町に、退役軍人であり鉄道に勤務するブラウン大尉が、二人の娘とともに引っ越してきて、男性ながらこの共同体の仲間に入る。彼はボズ（チャールズ・ディッケンズの若い頃の匿名）の小説が連載されている月刊誌を読むのが大好きである。これに対して、町の世話役であるデボラは、時の勢いに乗る流行作家よりも古典文学の巨匠のジョンソン博士を支持する。この文学上の論争で二人は対立するものの、デボラは病弱の娘を介護するブラウン大尉の心の優しさに敬意を払っている。やがて、ブラウン大尉はその優れた人間性を発揮し、すっかりこの町に溶け込んでいく。そのようなある日、彼は汽車を待っている間に新しく刊行されたばかりのボズの小説を夢中で読んでいてふと目を上げると、女の子が母親の方へ行こうと線路を渡っているのに気づく。急いでその子を助ける時に、ブラウン大尉は足をすべらせ汽車にひかれて即死する。

近代的な機械を代表するものとして、蒸気機関車がある。絶え間なく黒い煙を吐き、大きな音をたて進む汽車は、大量で迅速な物資の運搬で効率のよい人間生活へと変える。この強力なエネルギーは、生産、取得、蓄積を行うシステムにおいて、市場経済の場に激しい競争をもたらす。雇い主は契約通り賃金を支払ったのだから、雇い人の個人事情などには無関心であり、それにまとわる関係にも関知しないと突き放す。近代人の間に消えたのは、家族的な相互扶助の精神と道徳心である。資本家と労働者とがそれぞれに組織を作って対立し、チャーチスト運動という名のもとに無秩序と混乱を引き起こしている。その結果、イギリスでは1832年に続いて1867

年、1884 年行われた選挙法改正によって都市そして農民労働者の大多数に選挙権が与えられる。折しも 1900 年には組合運動の影響を受けてイギリス労働党の母体が結成された年でもある。その時すでにギaskellはこの世を去っていた。大衆文化が成熟する草創期、その新時代にギaskellはどのような体験をしているのか、少し説明が必要である。

ギaskell一家が住んだマンチェスターは、綿工業を舞台にここで成立した新しい産業制度から生まれた二大階級からなる新興階級都市であり、この労・資両階級は居住区や生活様式が完全に分断された別世界の住民であった。1830 年にマンチェスターとリヴァプールとの間に鉄道が開通し、マンチェスターで生産された綿織物はリヴァプール経由で、世界中に輸出された。マンチェスターとリヴァプールを結ぶルートには、すでに道路と運河による交通サービスが需要に應えていた。そこに後発の交通機関である鉄道が挑戦するには、高速、大量・安価な輸送という付加価値で顧客に訴えなければならなかった。他国に先駆けて鉄道輸送が達成できた大きな原因は、蒸気から動力を引き出したことである。

こういった現実のなかの事実を、作家は再生産したのではない。ギaskellは想像世界において、鉄道に勤務経験のある、年金暮らしの退役陸軍大尉ブラウンという象徴的な人物を創出する。ブラウンは現代流行作家ボズ（B o z）の小説を読みふけていた時に、幼児の救出で身代りの死を遂げるというプロットに、近代化による勢力とその裏側にある不安が存在するため、彼の死は単なる不慮の事故死では片付けられない。ブラウンはかつて法律と科学技術を動員して、白か黒か、肯定か否定かといった二元論で態度を明確し線引きをした近代化推進の男性である。公的領域から退いた後も、彼は実利的から離れた古典文学ではなく、工業を確立した時代の息吹を感じる流行作家の本を親しむ。一方、助けた相手は、西欧近代の合理主義からはほど遠い、いや、あのどこか懐かしい無垢なる母と女の子である。ゆっくりと物事を考え、内面に自然と湧き出てくる感情や思いをしっかりと受け止める点においては、母と子という存在は極めて人間的で

ある。では、助けた側と助けられた側は相反する要素を持っていたかと言えば、そうではない。クランフォードの女性たちは、初めは他の町から移ってきたこのブラウンに抵抗感を示すが、彼の人なつこい態度と思いやり深さを尊敬するようになる。彼は病弱な娘の看病で苦労を重ね、人間関係のしがらみに妥協して生きている。日々の生活において、近代人特有の効率の良さを追求できない身の上なのだ。つまり、近代社会では、雇主が労働者に求めるのは、交換価値という測定可能な単位によって評価される男性的な労働力であって、個人的な事情や感情を考慮することはない。ゆえに、機械の効率が充分によければ、労働者の首などは簡単に切ってしまう。近代人はこれを冷静に受け取り、処理する強靱な精神を持たざるをえないのだ。

女性作家には求められていない政治や経済に対しては意識的に距離をおいたギヤスケルだが、彼女は家庭小説執筆で人間の精神的な価値を探究していくにつれて、さらに視野を広げ過酷な競争世界での敗者に示される勝利者たちの思いやりのなさを問題視する。ある意味で、ブラウンは鉄道に代表される新しい産業時代を生き抜く力が欠如しているとも読める。一方で、我を忘れて他者を助ける生き方を貫く人間の存在自体が否定されるというやり切れなさが、ここで十分に語られている。純粋な魂を葬った「汽車」とは無言のモノであるのだが、それは政治家の演説よりはるかに雄弁に「近代」の本質について語っている。

2. 『ルース』の社会的な影響力

『ルース』は、ギヤスケルがマンチェスターで見聞した社会問題を扱っている。家庭婦人が公的な領域に影響を与えるようなことを発言するのは好ましくないという当時の風潮を、ギヤスケルは十分に認識しているので、次のような手紙を残している。それは、「I am so glad you liked 'Ruth'. I was so anxious about her, and took so much pains over writing it, that

I lost my own power of judging, and could not tell whether I had done it well or ill.”¹ である。実際、「墮落した女」の問題を扱ったこの作品は物議を呼んだ。教会でこの書は焼かれ、ギaskellは自身のことを「矢を打たれ木に縛られたセバスチャン (St. Sebastian tied to a tree to be shot at with arrows)²だと述べている。マンチェスターのユニタリアン派の牧師の妻として、ギaskellはまさに “she was exposed to articulate personal criticism.”³とされたのである。『ルース』のヒロイン、ルースは誘惑され妊娠する。彼女を救うのが牧師であり、彼とその家に住む者たちが、ルースを未亡人だと嘘をつくことで、彼女を社会的な迫害から防御し母親として子育てができる環境を作る。この当時、上流、中産階級の結婚した男性は売春婦 (prostitute) から性的なサービスを受けるのはよくあることである。1850年代、ギaskellのマンチェスターでの友人 W. R. Greg は *Westminster Review* に「売春」と題する記事を載せている。金銭で買われる女性を憂い、 “a brutal desire on the one side only, and a reluctant and loathing submission, purchased by money, on the other” (450).⁴と述べる。これは結婚していない女性が処女でなくなれば、家から勘当され必然的に「町の女」の生活を余儀なくされるのを意味する。ヴィクトリア朝社会における工業化の過程で、自身をたたき上げ実力をつけてきた階層は勤勉さを尊ぶ。

ではなぜ、中産階級の立場にいるギaskellが性の話題となる「町の女」、すなわち “outcasts, Pariahs, lepers”(450)⁵ の問題に手をつけたのだろうか。この小説が書かれる2年前に、ギaskellは海外移住をさせられる16歳の売春婦を助けている。作家仲間の Charles Dickens へ宛てた手紙において、監獄までその少女に会いに出かけたこと、そしてそこで同情の気持ちが起こったことを、次のように書いている。 “. . . and she looks quite a young child (she is but 16,) with a wild wistful look in her eyes, as if searching for the kindness she has never known,--and she pines to redeem herself”⁶ この時、男性から誘惑され棄てられた女性の悲

惨な生活を、ギaskellは何とか改善できないものかと思っている。処女性を失った未婚女性は自殺をするか、罪の意識に苛まれながら極貧生活をするか、売春婦に転落し生計をたてるかといった筋書きが当時の常識である。この型を崩すために、まずこの小説ではお針子のルース・ヒルトンは“ignorant innocence”⁷という状況で罪を犯すと設定されている。さらに結末は罪への罰を意味する死であっても、ルースは伝染病患者を看病する看護師となりその仕事ぶりで、町の聖女のような存在となり、彼女の死は誰もが哀悼の念を捧げる立派な最後となる。端的に言えば、『ルース』は“the history of Ruth’s adolescence, seduction, fall, and redemption”⁸そのものと言える。その一方で、ヒロインのルースに思い入れを強める作者は、文学作品としての芸術性を忘れていているという批判もある。当時の偽善的な社会へのメッセージを発信したいという書き手の情熱が中立性を保つのを難しくしたゆえに、幾人かの批評家たちをして“Ruth is not free from faults of artistry”⁹と言わしめたのであろう。確かに、Craik の評するように、この作品は「ギaskellの全作品の中で一番読まれていない、一番成功を収めていない」（“the least read and least successful of all Gaskell’s full-length novels”）¹⁰のである。しかしながら、小説で繁栄する大英帝国の栄光の裏にある影の部分を見せつけ、社会を変革に向かって読者に何らかの影響を与えようとした作家の意欲は十分に理解できる。

3. ヒロインの描かれ方

始めに登場するヒロイン、ルースはステンドグラスを通して月光を浴びている。彼女は夜遅くまで、貴婦人たちが着る洋服を縫っている。「月」は変化するので、心変わりの象徴であり、妻の裏切り行為である不倫を意味すると、Nina Auerbach は「月」が創る世界を“a certain inherent power of metamorphosis which allows the wife to destroy and reconstruct her world.”¹¹と言う。ルースは窓ガラスに額をつける姿は「鳥かごの柵の身

を押しつける鳥」 “as a bird presses against the bar of its cage” (4)のようである。拘束時間が長く、低賃金で働くお針子の厳しい現実が描かれる。ルースは孤児であり、生きるには自分の労働がすべてである。彼女のため息、“Oh! How shall I get through five years of these terrible nights! In that close room!” (8) は劣悪な環境で暮らす労働者階級の女性の嘆きと悲しみである。

では、ルースはどうして富裕階級の Bellingham と知り合いになれるのだろうか。美人であるが故に、ルースは舞踏会で淑女のドレスのほころびに備えて控えておく付き人に選ばれたのだ。この舞踏会にルースは淑女のメイドとして出向き、見るもまぶしい催しに心躍らせる。ここでルースは紳士ベリンガムの相手の女性のドレスを修理する。思いもかけなく、紳士ベリンガムはお礼を言い椿の花をルースに差し出す。彼の行為は暗に彼のパートナーである女性の横柄な態度と、うぬぼれが強くルースを見下げる気位の高さを批判している。上、中流階級の女性とルースの立場の違いはここで明確に示される。ルースは労働者である若い女、後ろ盾のない孤児であり必然的に常時、あらゆる面で服従が求められ訓練される。Pearsall はそれを次のように説明する、“the lives of working women demonstrate an extra dimension in submissiveness. Theirs was a world where the strong equably beat the weak, where the wife was a skivvy who did the chores and an object to be used for sex, where even the courtship ritual had a perfunctory prosaic animal quality”¹² 孤児のルースは誰からも気かけられずに、母親から性教育を受けていないので善と悪の区別が曖昧である。

そのような彼女に、ベリンガムは純粹で雪のように白い椿を与えたのだ。彼女はあまりの嬉しさで恋心から夢を見る。

“She is dreaming of last night,” thought Jenny. It was true she was; but one figure flitted more than all the rest through her

visions. He presented flower after flower to her in that baseless morning dream, which was all too quickly ended. The night before she had seen her dear mother in her sleep, and she wakened weeping. And now she dreamed of Mr. Bellingham, and smiled (18).

ここですでにルースは紳士から棄てられることが予測されている。ヴィクトリア朝社会では、紳士は欲望から装飾品である愛人を持つが、あくまで正妻との結婚生活が核でありそれは確固たるものである。ベリングガムは美人で年若いルースに情緒的な好意を寄せて、彼女の内なる部分に豊かな自然美を感じ取るにすぎない。自然世界と関わるルースの官能的な魅力は、次のように描かれている。

She stood in her white dress against the trees which grew around her; her face was flushed into a brilliancy of colour which resembled that of a rose in June; the great, heavy, white flowers drooped on either side of her beautiful head, and if her brown hair was a little disordered, the very disorder only seemed to add a grace(74).

ルースが周りの自然に反応する場面は非常に多い。それを Uglow は、“Ruth’s inner struggles are powerfully conveyed by the untamed aspects of the natural world, wild mountains, storm and water”.¹³ と指摘する。ルースはベリングガムから愛され、彼が自分に救いの手を再述べてくれると思いこみ、大都市ロンドンまで彼に同行し性的な間違いをしてしまったのである。そうすると、Ganz の意見、「ベリングガムだけが彼女の転落の責任を与えられる」¹⁴は正しい。

同時に、この小説を男女関係に限定した愛情物語よりも、むしろ社会間

題を重視して読むと、物質的に発展する帝国への作者の懐疑的な眼差しが見えてくる。ここで、ルースの転落の原因の一つに、彼女の雇い主メyson夫人の冷酷さが関与していることを挙げなければならない。メイソン夫人が監督する職人、ルースを追い出した原因は、ルースがこともあろうに若い男性ベリングラムと歩いていたところを目撃したからである。それはただちに性的な墮落とみなされ、怠けと悪徳、犯罪の温床につながっていると断定される。その結果、その場でただちにルースは解雇され、行き場を失うのである。語り手はメイソン夫人の不注意さを次のように述べる。

Mrs. Mason was careless about the circumstances of temptation into which the girls entrusted to her as apprentices were thrown, but severely intolerant if their conduct was in any degree influenced by the force of these temptations (53).

さらに重要なのは、メイソン夫人は資本主義のシステムにおいて、激しい競争にさらされている雇い主だということである。彼女の商売敵の洋装店が価格を下げ、迅速に仕事をすれば、彼女の仕事はすべて持って行かれ生き残れない状況にいる。住み込みが条件であるお針子たちの賃金を引き下げ、休憩を与えず彼女たちが衰弱しても深夜まで情け容赦なく酷使するという児童・婦人虐待でうまく利益を捻出し、現状維持の生活を確保している。この様子が『ルース』では詳細に説明されている。それはまさに大英帝国が巨大な利益を上げるために、海外に武力進出し植民地化していく姿と重なり合う。さらに、時代の拝金主義はベリングラムの母親の態度に見てとれる。母親は息子の不祥事を「うまく処理する」“do the thing handsomely” (91)のために二人のいる場にやってくる。ベリングラムの母親は、将来的に家長となる息子が築く上流家庭の団欒と絆を望んでいるので、ルースに敵意をむき出しにして息子から完全に分離させる手段を取る。身元引受人がなく処女の資格を剥奪されたルースは町の女以下であるとみなさ

れ、ルースに輕蔑の視線が冷たく向けられる。それは、Mrs Bellingham looked at her with cold, contemptuous eyes, whose glances were like ice-bolts, and made Ruth shiver up away from them” (85). というように「氷」の冷たさで表現される。ベリンガムの母親は、ルースと心のこもった会話を一切せずに、手切れ金として 55 ポンド紙幣を渡す。ルースは失望して紙幣を床に置くさまは、“the banknote lying quite promiscuous, like waste-paper, on the floor”(106) が示すように、そのお金は雑紙にすぎない。Patricia Beer の言葉を借りれば、“She acts like a devoted dog”¹⁵ であり、ルースが頼ろうとした男性は自分勝手に、馬車に乗って彼女の元から完全に去っていく。その馬車を目で追うルースの哀れさは、ここで充分描かれている。次に続くのがルースの自殺願望であるが、ストーリーはこのマイナスの局面から、どのようにしてヒロインを回復させ上昇させるのか、次の章でそれを解明しよう。

4. ルースと家庭生活

ルースが自らの命を断つことを決心することは、“Her only hope was to die, and she believed she was dying” (93)である。しかし、彼女の可能性を開いてくれる人物が創出されている。それが、身体に故障を抱えた年配の牧師、Thurstan Benson である。独身であるベンソンは姉の Faith Benson と女中 Sally と三人で慎ましく暮らしていて、このグループがルースの主体性回復に大きな役割を果たす。ルースの自殺は思い留められたが、彼女はすでに妊娠していたのである。フェイスは当惑し ‘badge of her shame’、つまり恥さらしの私生児を思いめぐらす、本人は母親となる喜びが自然に湧き出て、“Oh, my God, I thank Thee! Oh! I will be good!” (117) と言う。貞淑な妻となり母となるためには、性的な無垢こそが大切とする道徳、ヴィクトリア朝の教えが刷り込まれている中産階級の人々にとって、ルースは浮ついた快樂を求め、安っぽいモラルしか持ち合わせてい

ない「堕ちた女」にすぎない。だが、ベンソン牧師は全く罪のない子ども、これから誕生する赤ん坊の身の上に同情するがために、疎外される運命にある母親ルースを世間から守り子育てができる環境に置こうとする。熟考の末、ルースの身の上を隠し未亡人と偽って共同体に入り、町の有力者ブラッドショウ氏 (Mr. Bradshaw) の屋敷で家庭教師として雇ってもらうことにする。

この決断は熱心なキリスト教徒の牧師にとって、真実を曲げて嘘をつくことであり耐え難い良心の呵責に苦しむ。語り手はそれを “For himself, he was brave enough to tell the truth; for the little helpless baby, about to enter a cruel, biting world, he was tempted to evade the difficulty” (121) と説明する。牧師はかわいそうな赤ん坊が未来に受ける試練を取り除こうと、“Ah, temper! Unconscious temper! Here was a way of avoiding the trials for the poor little unborn child, of which Mr. Benson never thought” (121) となる。Lansbury はこの心理的な葛藤を、“Benson never ceases to be troubled by the lie he has told, but he is content to let divine providence determine its consequences”.¹⁶ と批評する。つまり、牧師ベンソン一家はイエス・キリストが説く赦しという点で、この問題を解決しようとする。彼らにとって重要なのは、教義という抽象論ではなく日々の行動であるのだ。従って、ベンソンはルースが子どもを育てるに際して “she must strengthen her child to look to God, rather than to man’s opinion.” (120) と述べる。彼は赤ん坊の母親ルースの無知を改善し知的水準を高めると、自らの子どもを教育できるようになると考えルースに知的な教育を授ける。

その一方で、女中サリーは堅実に日常生活の家事全般を教える。1890年代には家庭科の充実と必修化の動きがある。帝国の繁栄を促進するために、娘たちには家事と育児に専念する未来の主婦、母たることを自覚させる教育が学校で実施されるようになる。サリーはルースが未亡人などではないことを知っているのも、彼女はルースから他者依存的な精神を取り除

き、家事労働の義務に忠実であるように導く。生まれたばかりの赤ん坊の顔にルースの涙が落ちるのを見て、彼女は “My bonny boy! Are they letting the salt tears drop on thy sweet face before thou’rt weaned! Little somebody knows how to be a mother---- I could make a better myself...” (172) と言う。ここには、論理や知性の書き言葉とは無縁の女中が、日々の暮らしと実践のなかで家庭の神聖さを自覚し自分の義務に忠実である姿がある。このベンソン家とサリーは現実にはめったに存在しない人々であることは、 Craik が “are people to whom very little happens, who are yet full of life and delight”¹⁷ と指摘している。

このようにして、ルースは Eccleston の町で “Ruth Hilton” ではなく、“Mrs. Denbigh” の名前で未亡人のふりをしてブラッドショウ一家で高い評価を得る仕事をする。神への篤い信仰心を持ち、ルースは懸命に息子の Leonard を育てていく。そんな折、ルースはブラッドショウの娘二人を海辺のアバマスに転地療養に連れていく。この町ではまもなく選挙があり、議員としてダン (Donne) と改名した Henry Bellingham が選出されようとしている。ルースを弄んだかつての恋人のベリンガム、すなわち現在のダンに彼女はそこで出会う。ダンはそれまで彼女の運命に思いを馳せることもまったくなかったが、数年後にルースと会い彼女が美しく気品に満ちているのに驚く。彼は巧妙に彼女に近づき自分の慰めのために妾となるように誘惑するが、それは拒絶される。すると、金銭と妻という社会的地位を保証した結婚をルースに申し込む。上流、ならびに中産階級の慈悲深い女性というモデルは、無垢で寡黙で家庭を大事にして家事に専念し、夫から保護される妻である。結婚によりルースに安泰の地位が与えられるばかりか、息子の将来も約束されるにもかかわらず、ルースはそれを受諾しない。この場面において、ギヤスケルはルースが若き日の彼への愛着、彼への消し難い想いに揺れる複雑な心理を、「波」のイメージで次のように描き出す。

On the hard, echoing sands, and distinct from the ceaseless murmur of the salt sea waves, came footsteps---nearer---nearer. Very near they were when Ruth, unwilling to show the fear that rioted in her heart, turned around, and faced Mr. Donne (293).

過去に屈辱の涙を流したルースは、男性に主導権を渡さずに自分の意志に従って行動する権利を優先したのである。さらに、大英帝国は自由競争の時代に突入しているので、実力が伴わなければ高い地位から転落することもある。ヴィクトリア朝の特徴を端的に述べると、“The *Laissez-faire* economic philosophy invited everyone to become property owners while, at the same time, defining some as ineligible to achieve that status”.¹⁸ となる。

必然的に、ルースの秘密は知れ渡り、彼女は自分の恥辱が息子に及ぶのを恐れ息子を置いて、自分の母親が結婚前に住んでいた場所に移ろうとする。しかし、ベンソンから事実をありのままに受け入れて強く生きるように説得され、ルースは働き口を探す。折から、疫病が大流行し、看護師の仕事の口がかかる。ルースの献身的な看護で、患者の心は癒され、徐々に彼女は町の人々の信頼を得ていく。チフスの蔓延で医師も一人感染死すると、もはや高額な報酬であろうと看護師になる人はいなくなる。そこでルースは危険な所であれ志願して、貧しく病んだ隣人たちを優しく看護をする。この時点で彼女は救いの天使として住民から敬愛され、息子も称えられる母を誇りにできるほどになる。数週間後、チフスが沈静化すると町の恐怖もおさまリ、疲労困憊のルースは休息する。それもつかの間、ダンが感染したとの知らせにルースは自ら看護を申し出る。

その結果、ダンは危機を脱するが、ルースは感染する。死の間際、彼女は気が狂い、「a sweet, child-like insanity within (444)」の状態で歌を歌う。正統な規範からすると、ルースの死は「墮落した女」への罪であり、

意識のない状態での終末には政治的な発言も皆無である。小説のなかから革新的な思想を除いたと、“the failure of the novel’s conscious ideological project”,¹⁹ という批評は正しい。換言すれば、ある特定のイデオロギーを持ちあげた小説ではない。ルースの死後、ベリンガムが金に糸目はつけないという条件で息子を引き取りに来るが、ベンソン家や周囲の努力でレナードにはキャリアの道が開けている。上流階級のベリンガムであってももはや何ら術を持たないばかりか、影響力も失っている。地域社会で見捨てられ、墮落の烙印を押されたルースが実践力でよみがえるストーリーの枠組みで、人間による人間の搾取と疎外が続く帝国の姿が映し出される。除け者という社会の鏡を通して浮かび上がった女性の実行力、自らの利害を捨て去る行為を問う小説なのである。七つの海、五つの大陸にまたがる帝国領土と、自由放任主義の発展する経済力が近代化のモデルだろうか。漱石が眼を見張った文明にも人間の弱さと罪が現れ、この不完全さを人間が自覚しない限り、いつまでも「近代」社会は到来しないのだとギヤスケルは訴えているのである。

NOTES

¹ Letter to Richard Monckton Miles, cited in Angus Easson, ed., *Elizabeth Gaskell: The Critical Heritage* (London: Routledge, 1991), 203.

² J. A. Chapple and A. Pollard, ed., *The Letters of Mrs. Gaskell* (Manchester Univ. Press, 1966), 61. Subsequent quotations from this book are cited as *The Letters*. For the book-burning incidents, see *The Letters*, 226.

³ This passage is cited in Alan Shelston’s introduction to the World’s Classics edition of *Ruth* (Oxford: Oxford UP, 1985), ix.

⁴ Greg, William Rathbone, “Prostitution”. *Westminster Review* 53(1850), 450.

⁵ *Ibd.*, 450.

⁶ *The Letters.*, 61. This matter is also given by Winifred Gerin, *Elizabeth Gaskell: A Biography* (Oxford: The Clarendon Press, 1976), 128.

⁷ A. W. Ward(ed.), *The Works of Mrs. Gaskell The Knutsford Edition*, (1906; rpt., New York: AMS press, 1972), I, 283. 作品からの引用はすべてこの版による。以下、文中に頁数を記す。

⁸ Ruth Y. Jenkins, *Reclaiming Myths of Power: Women Writers and the Victorian Spiritual Crisis* (London: Bucknell UP), 100.

⁹ Annette B. Hopkins, *Elizabeth Gaskell: Her Life and Work*, (London: John Lehmann, 1952), 119. , Geoffrey J. Sharps, *Mrs. Gaskell's Observation and Invention: A Study of Her Non-Biographic Works.* (London: Linden Press, 1970), 150.

¹⁰ W. A. Craik, *Elizabeth Gaskell and Provincial Novel*, (London: Methuen, 1975), 47.

¹¹ Nina Auerbach, “The Rise of the Fallen Woman” in *Nineteenth-Century Fiction*, (Vol. 35., No. 1., 1980), 35.

¹² Ronald Pearsall, *The Worm in the Bud: The World of Victorian Sexuality*, (Phoenix Mill: Sutton Publishing, 2003), 78.

¹³ Jenny Uglow, *Elizabeth Gaskell: A habit of Stories.* (London: Faber & Faber, 1993), 331. Several critics have pointed out that nature is used as reflection of Ruth's states of mind. See W. A. Craik, *Elizabeth Gaskell and Provincial Novel*, (London: Methuen, 1975), 60., See also Arthur Pollard, *Mrs. Gaskell: Novelist and Biographer.* (Manchester: Manchester UP, 1965), 94-95., E. Holly Pike, *Family and Society in the Works of Elizabeth Gaskell.*(New York: Peter Lang, 1995), 55-59.

¹⁴ Margaret Ganz, *Elizabeth Gaskell: The Artist in Conflict.* (New York: Twayne Publishers, 1969), 117.

¹⁵ Patricia Beer, *Reader I Married Him: A Study of the Women Characters of Jane Austen, Charlotte Bronte, Elizabeth Gaskell and George Eliot*. (London: The Macmillan Press, 1974), 144.

¹⁶ Coral Lansbury, *Elizabeth Gaskell: The Novel of Social Crisis*. (London: Paul Elek, 1975), 62.

¹⁷ W. A. Craik, *Elizabeth Gaskell and Provincial Novel*, 76.

¹⁸ Elsie B. Michie, *Outside the Pale: Cultural Exclusion, Gender Difference, and the Victorian Woman Writer*. (Ithaca and London: Cornell UP), 175.

¹⁹ Patsy Stoneman, *Elizabeth Gaskell*. (Brighton: The Harvester Press, 1987), 116.

1. はじめに

昨年から、テレビコマーシャルでも多く見られるようになってきたキーワードにはいろいろあるのだが、プログラミングでの開発に関係があり、気になるものは、「スマートスピーカー」である。検索サイトを利用し、「スマートスピーカー」を検索すると、約 27,100,000 件が表示された。昨年発売されたものが多くあり、それに関する情報がとても増えてきているように感じている。

スマートスピーカーは、AI スピーカーとも呼ばれ、対話型の音声操作に対応した AI アシスタント機能を持つスピーカーのことである。内蔵されているマイクで音声を認識し、情報の検索や連携家電の操作を行うことができる。初めて利用する場合でも基本的なことは使用可能であるが、さらにいろいろなことができるようにスマートスピーカーの提供する企業によって名称は異なるが、アプリやスキルを導入し、拡張して利用することができる。また今回、アプリやスキルを開発することができるので、スマートスピーカーとのユーザインタフェース (UI) として用いられる音声ユーザインタフェース (VUI) の開発方法について見ていくことにする。その開発方法によって、将来どのような使い方ができるのか、また問題点などもあわせて考えていきたい。

2. スマートスピーカーとは

スピーカーとしての発話や音楽再生などのほか、マイクを内蔵して音声認識による入力デバイスとして機能するものがスマートスピーカーである。これにより、これまで PC やスマートフォンなどの端末から行っていたキーやタッチによる入力操作を音声で補完することができる。スピーカーは

Wi-Fi、Bluetooth 等の無線通信を経由してスピーカーメーカーが提供する AI アシスタントのサーバとピアツーピアのネットワークを形成している。サーバ側では、自然言語処理された音声認識結果をディープラーニングによって応答の最適解を常に機械学習しており、そのときの最適解をタスクの実行や発話で入力を行ったスピーカーから応答する。実行するタスクには、サーバにインターネットで接続しているさまざまなプラットフォーム上のサービスが利用できるが、近年の AI アシスタントは、技術革新で多層ニューラルネットワークの学習効率向上がめざましく、よりの確かなサービスの選択が可能になっている。

2-1. 主なスマートスピーカー

ここでは、主なスマートスピーカーの概要を簡単にまとめる。

2-1-1. Amazon Echo

Amazon 製で、AI アシスタントは「Alexa」を使用する。IFTTT との連携は可能である。日本での発売は、2017 年 11 月である。

2-1-2. Google Home

Google 製で、AI アシスタントは「Google アシスタント」を使用する。IFTTT との連携は可能である。日本での発売は、2017 年 10 月である。

2-1-3. LINE Clova WAVE

LINE 製で、AI アシスタントは「Clova」を使用する。IFTTT との連携は可能である。日本での正式版の発売は、2017 年 10 月である。

2-1-4. HomePod

Apple 製で、AI アシスタントは「Siri」を使用する。

2-1-5. Invoke

Microsoft 製で、AI アシスタントは「Cortana」を使用する。日本では、サービス開始はしていない。

2-2. スマートスピーカーでできること

現在発売されているスマートスピーカーでは、以下のようなことができる。ただし、特定のスマートスピーカーであったり、機種によって、あるいは開発企業によって異なることがある。

2-2-1. ニュースや音楽を聞く

「ニュースを読んで」とお願いすれば、その日のニュースを読み上げることができる。また、「クラシック音楽を流して」と言えば、音楽配信サービスから適したプレイリストを探してきて再生してくれる。インターネットラジオに対応するスピーカーもある。

2-2-2. 家電を操作する

ロボット掃除機などの家電製品と連携することで、家電に音声で命令を出すことができる。電源のオンオフや、簡単な操作が可能となる。

今回は、実機と同時にテレビに命令を送ることができるデバイスを用意することができた。これによって、VUI を使って検索した動画の再生などがスムーズに行えるようになる。

2-2-3. メモなどを入力する

「牛乳をショッピングリストに追加」などお願いすれば、クラウド上の買い物リストに項目を追加することができる。買わなければいけないもの、やらなければいけないことなどを思いついたら、忘れないうちにすぐにスマートスピーカーにお願いして追加することができる。

2-2-4. 調べ物をする

スマートスピーカーの多くは検索エンジンと接続しており、調べ物をお願いすることができる。例えば「〇〇の開店時間は？」などと質問することができる。

3. VUI とは

ユーザが声でコンピュータや端末をコントロールできるようにするのが、音声ユーザインタフェース (Voice User Interface: VUI) である。声で「頼む」だけで、速く、簡単に、そして楽しく操作ができるようになるので、今までにない世界に変わろうとしている。

今日の VUI はスマート化が急速に進んでいる。例えば、ユーザの話し方を徐々に学習し、独自のボキャブラリーを作り出すなど、めざましい速さで進化している。

4. アプリ開発

開発するための環境を確認し、実際に日本語で「ハローワールド (Hello World!)」と発声するアプリを開発することにする。

4-1. 開発環境の例

ここでは主な開発環境の概要を以下にまとめる。

4-1-1. Actions on Google

Help users get things done across Google

Engage billions of users across the Google Assistant and soon Google Search, Android, and other surfaces by developing Actions and linking them with our ever-growing intents catalog.

4-1-2. Alexa Skills Kit Developer Console と AWS

Alexa スキルとは

Alexa は、Amazon Echo、Echo Dot をはじめとする数多くのデバイスで中枢的な働きをする Amazon の音声サービスです。Alexa が提供する機能やスキルを利用した製品を使用することによって、ユーザーは、よりパーソナライズされた操作性を実現することが可能になりました。世界では 4 万以上、日本では 950 以上のスキル（2018 年 6 月時点）が開発されており、スキルの数は日々増え続けています。

Alexa Skills Kit とは

設計者や開発者、企業は、Alexa Skills Kit (ASK) を使って、魅力的なスキルを開発し、数多くのユーザーにアピールすることができます。ASK とは、皆様が簡単に、そして短時間で Alexa にスキルを追加できるよう、セルフサービスの一連の API、ツール、ドキュメント、コードサンプルをまとめたものです。ASK を使えば、Amazon が長年培ってきた音声設計技術分野のノウハウと先駆的成果を今すぐに活用することができます。

4-1-3. Clova Developer Center 8

「Clova」は、「Clova WAVE」や「Clova Friends」などに搭載される AI アシスタントで、生活を便利で楽しくする機能＝スキルにより、音声操作だけで音楽やニュース、天気を開けたり、コミュニケーションアプリ「LINE」と連携して家族や友だちとのメッセージのやり取りや無料通話ができたりと、ユーザーに様々な体験を提供してまいりました。

そして、2018 年 6 月 28 日に開催した LINE の事業戦略発表会「LINE CONFERENCE 2018」にて、スキルをサードパーティの外部企業や一般の開発者が作成できる「Clova Extensions Kit」（以降「CEK」）の同年 7 月中一般公開を発表し、本日 2018 年 7 月 12 日に開発関連ドキュメン

ト等を記載した Web サイト「Clova Developer Center」を公開し「CEK」の一般公開を開始いたしました。

4-2. 「ハローワールド (Hello World!)」の開発

今回は、「Actions on Google」と「Alexa Skills Kit Developer Console と AWS」の2種類で開発を行うこととした。なお、Clova Developer Center B は、B 版であることと開発するためには、LINE のアカウントが必要であるため、今回は見送ることとした。

開発は、「こんにちは」と話すと、「ハローワールド」と答えて終了することとした。

4-2-1. Actions on Google

開発環境で確認可能である。また今回は Google Home を導入したので実機での確認も可能である。

ただし、導入するうえでいくつかの問題があり、大学内での研究がすすめられなかった。Google Home では、IP アドレスを固定にすることができないこともあり、学内での利用に制限がかかってしまった。また Google のアカウント登録については、G Suite でのアカウントでは開発環境を整えることができなかった。そのため、自宅のネットワークを利用することと Google アカウントを新規に作成することで実行することができた。また、動画再生に関しても、大学内でのテレビの利用ができなかったこともあり、これも自宅での利用で対応可能になった。

以下のように進めていくことで開発することができる。

- ・プロジェクト追加 (自由につけられる) 「helloworldvui」
- ・セットアップ Quick Setup
- ・アクション追加
- ・デフォルトランゲージ Japanese

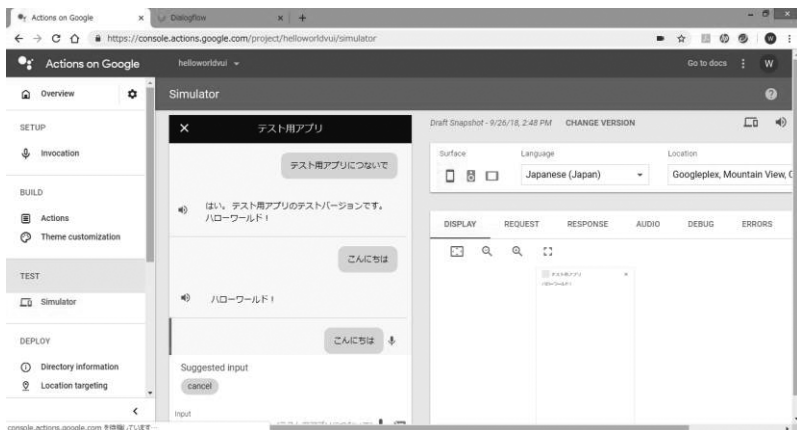


図 1 Actions on Google 画面

- ・ Intents 設定
- ・ Default Welcome Intent
- ・ Training phrases 「こんにちは」
- ・ Responses DEFAULT Response 「ハローワールド」
- ・ 「SAVE」
- ・ TEST Simulator Language 「Japanese (Japan)」
- ・ 「こんにちは」 → 「ハローワールド」 (図 1)

4-2-2. Alexa Skills Kit Developer Console と AWS

実機を導入していないが開発環境内で確認が可能である。2つの環境の両方を設定してはじめて動作をするので注意が必要である。

以下のように進めていくことで開発することができる。

【Alexa Skills Kit Developer Console】

- ・ 「スキルの作成」
- ・ スキル名 「ハローワールドブイユーアイ」

- デフォルトの言語「日本語（日本）」
- 「スキルを作成」
- スキルの呼び出し名「ハローワールドブイユーアイ」
- カスタムインテントを作成「helloworldvuiintent」
- サンプル発話「こんにちは」
- 「モデルのビルド」
- 「スキル ID」の確認

【AWS】

- AWS Lambda 関数
- AWS サービス Lambda 起動
- 関数の作成
- 「一から作成」
- 名前（自由につけられる）「helloworldvui」
- ランタイム「Node.js 8.10」
- ロール（自由につけられる）「AlexaRole」
- ポリシーテンプレート「シンプルなマイクロサービスのアクセス権限」
- 「関数の作成」
- トリガーの追加「Alexa Skills Kit」を選択
- トリガーの設定「有効（推奨）」を選択
- 「スキル ID」の入力
- 「追加」
- 「保存」
- Node.js のプログラムを入力（プログラミング）
- 「保存」
- ARNを確認

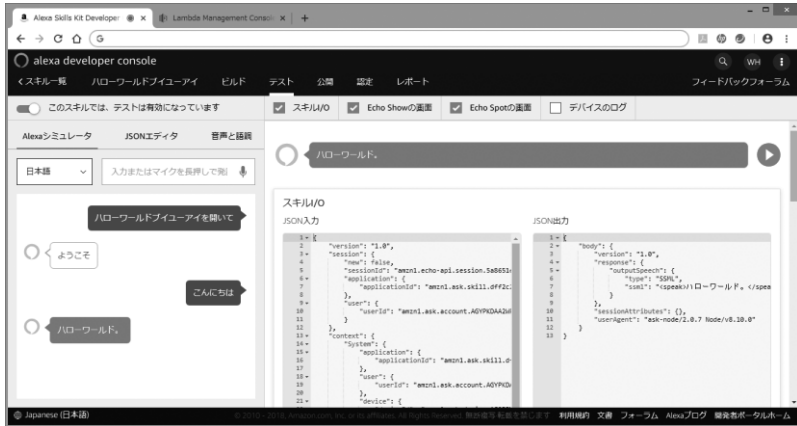


図 2 Alexa Skills Kit Developer Console 画面

【Alexa Skills Kit Developer Console】

- ・「エンドポイント」
- ・「AWS Lambda のARN」
- ・デフォルトの地域 ARNを入力
- ・「エンドポイントの保存」
- ・テスト
- ・「ハローワールドビューアイを開いて」→「ようこそ」
- ・「こんにちは」→「ハローワールド」(図2)

5. VUI の問題とは

開発できることがわかったので、今後どのようなことが問題になるかを考えていくことにする。そこで現在わかっている VUI の問題について調査することとした。

便利なスマートスピーカーの利用にあたって避けられないのはセキュリティの問題である。ネットにつながるスマートスピーカーにはハッキングによる情報漏えいや不正操作など、従来 PC やスマートフォンで注意しなけ

ればいけなかったことと同様のリスクがある。

例えば、スマートスピーカーが収集し、クラウドに蓄積するさまざまな情報の中には、他の人に知られたくないプライベートな情報や、買い物をするために登録したクレジットカード情報などが含まれることがある。これらがサイバー攻撃の標的になってしまうと、情報が漏えいしたり意図せず悪用されてしまったりする可能性がある。

6. まとめと今後について

いろいろなスマートスピーカーについての概要と開発環境についてみてきた。すべての開発環境が整ったとはいえないが、今後整っていくことに間違いはないであろう。また、開発環境も本格的に運用されるようになり、今後もさらに進歩を遂げていくことになるであろう。

また実際に開発を行ってみると簡単な受け答えのみであれば、プログラミングをしなくても可能であることがわかった。ただし、それ以上のアプリやスキルを考えるのであれば、しっかりとしたプログラミングをしなければならない。

今回は、実機と同時に Google Chromecast を用意することができた。これによって、VUI を使って動画の再生させるための指示がスムーズに行えることがわかった。ただし、実際に再生される動画については、個人の思いとかけ離れることもあり、この点については、学習することで成長していくことになるだろう。

現在、移動体通信加入者は全世界で 45 億人を超え、近未来には物と物が直接無線で通信する Internet of Things (IoT) デバイスも 275 億個あり、2020 年には 400 億個に達することが予想され、爆発的なデータ量の増加が確実視されている。

今後は、IoT の社会ともいわれるように、いろいろな進化を遂げてくことになる。そのなかでスマートスピーカーのように声で対応する家電などが増えていくことで、便利な社会が実現できるようになることではあるが、

VUI の問題でも述べたように、現在の情報機器、スマート家電などと同様に、まだまだ不安な面も存在している。

7. 終わりに

今回は、スマートスピーカーをキーワードに、VUI の開発を実際に行った。日本では、昨年から次第に増えているデバイスとともに、そこで使われるアプリやスキルも徐々に増えてきている。アプリやスキルについてはまだ企業が開発するものが多いというのが現状であるが、今後は開発環境の進歩によって個人での開発も増えていくことになるであろう。これが将来の開発者として育っていくかは不透明であるが、期待したいこととして、現在の IT 技術者の不足を解消するような方向に進むことを願っている。

本文中の製品名およびサービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の商標または登録商標である。

参考文献

1. Amazon | Echo - スマートスピーカー

https://www.amazon.co.jp/dp/B071ZF5KCM?tag=yahhyd-22&hvadid=295896385915&hvdev=c&ref=pd_sl_3ilhs9hlq3_b

(最終検索日：2018 年 9 月 25 日)

2. スマートスピーカー、エンターテインメント システム - Google ストア

https://store.google.com/jp/category/home_entertainment

(最終検索日：2018 年 9 月 25 日)

3. LINE Clova 公式サイト

<https://clova.line.me/> (最終検索日：2018 年 9 月 25 日)

4. Google アシスタント - あなただけの Google

https://assistant.google.com/intl/ja_jp/#?modal_active=none

(最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

5. Alexa | アレクサ | Amazon 開発者ポータル

<https://developer.amazon.com/ja/alexa>

(最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

6. Alexa Skills Kit Developer Console

<https://developer.amazon.com/alexa/console/ask>

(最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

7. クラウドならアマゾン ウェブ サービス **【AWS 公式】**

<https://aws.amazon.com/jp/> (最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

8. Actions on Google | Actions on Google | Google Developers

<https://developers.google.com/actions/>

(最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

9. Clova Developer Center

<https://clova-developers.line.me/#/> (最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

10. 2018 年版 情報通信白書

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h30.html>

(最終検索日 : 2018 年 9 月 25 日)

大学の中途退学に関するデータ分析 ー学生が持つ授業イメージからのアプローチー

小 林 正 樹

1. はじめに

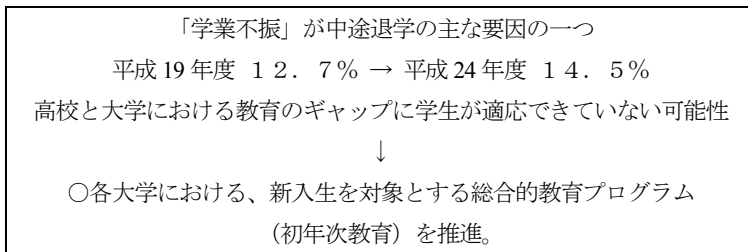
大学において、中途退学（以下、論文等のタイトルでない限り中退と記す）者が増加しているという。なかでも経済的理由によるものが多く、対策も様々なに施されている。しかし経済的な理由以外についてはあまり言及がなく、そのための施策も、初年次教育を充実するといった方針が示されているだけにすぎない。論者は中退の一因が、学生の「大学のイメージが予想とは異なった」点にあると考え、アンケート調査によりその実態を把握、さらにそのイメージがどこから高校生に浸透しているかの原因を究明し、今後の方向性を探ることによって、中退者の減少につなげる方法を検討する。

2. 研究の背景

毎年、学生たちは希望を持って大学に入学をしてくるものの、年月を経て不本意ながら中退していく学生が少なくない。文部科学省（以下、文科省と記す）も、5年に一度の割合で調査を行っており、前回は平成26年に実施を行っている（文科省、「学生の中途退学や休学等の状況について」、参考文献[1]）。このデータによれば、平成24年度の大学における退学者は全国で79,311人であり、平成19年度の退学者63,421人に比較し、5年間で1万5千人以上も増加をしている。全体に対する割合で比較しても、平成19年度の2.4%から2.65%と増加をしており、状況が悪化していることが見て取れる。

それではその原因はどこにあるのであろうか。同データにある退学理由のうち「その他」を除き多い順に並べると、1位が経済的理由で20.4%、2位が転学で15.4%、3位が学業不振で14.5%、4位が就職で13.4%であり、以下、病気・けが・死亡（5.8%）、学校生活不適応（4.4%）と続く。いっぽう平成19年度のデータでは、1位が転学（14.9%）、2位が就職（14.4%）、3位が経済的理由（14.0%）、4位が学業不振（12.7%）、以下、病気・けが・死亡（6.1%）、学校生活不適応（5.1%）である。このように主な原因は「経済的理由」「転学」「学業不振」「就職」の4

つであり、文科省の分析でも触れられているとおり、経済的理由が大きな事由として採り上げられている。しかし就職については、一概に前向きに捉えることは出来ず、そのなかには経済的理由によって就職を行わざるをえないという事由が含まれていると推察できる。これは大学に入学をしたものの、授業料やその他の納入金を支払うことが出来ずに学業の継続が不可能となり、結果的に就職をすることで、借りていた奨学金の返済を行うといった例も内包しているであろう。この理由については本人からの申告も多いが、大学事務の担当者がどの理由であるかを決めている場合も少なくなく、果たしてそれが正しいものであるかどうかは甚だ疑問である。今回ここで問題にすべきであるのはその点ではなく、大学、また文科省として取り組むべき点が、(就職も含めた) 経済的理由がほとんどである点である。事実、前出の報告書によれば、「大学等における経済的支援の取組状況等」として、①学生からの経済的支援に関する相談体制、②授業料減免や奨学金等の経済的支援に関する学生相談件数の状況、③学生の経済的なことに関する相談の内容、④学生への経済的支援に関する情報提供、⑤情報提供の具体的な周知方法、を問うており、他の理由については、



文科省、『学生の中途退学や休学等の状況について』、平成 26 年 9 月より

と触れられているのみである。退学理由は前出の 4 点で、63.7%と全体の約 3 分の 2 を占めている。そこから経済的理由を除いた「転学」「学業不振」「就職」の割合は、全体の 43.3%、人数にして 3 万 4 千人以上がこれに相当する。稿者は、この対策として初年次教育のみでは有効ではないと考えるだけでなく、実際に効果は出ていないと推察する。したがって現状においては、中退者の数を抜本的に減少させることは難しいと考えた。

今回、その根本的な原因を探る。論者の二十年以上にわたる大学教員歴の中

で、その一因が、大学の学生が高等学校（以下、高校とする）時代までに植え付けられてきた大学のイメージと、入学後における大学の現実との、そのギャップにあると考えた。高校の生徒時代に持っていたイメージが、大学入学後の現状と異なることによって、良い意味での差異はプラス材料となるが、悪い意味での違いは、大学生生活に対してマイナス材料となり、それが積み重なることによって退学につながるのではないかと推察している。そこで大学入学後の学生にアンケートを行い、これまで持っていた大学に対するイメージと、そのイメージがどこから出てきたものかというデータを採取することとした。

3. アンケートデータの取得と分析

アンケートは、稿者が担当する授業の出席確認の時間を利用し、2018年6月から7月にかけて、3つの授業において主に1年次生を対象に行った。履修者全体に対して、①高校時代に抱いていた大学の授業のイメージ、②そのイメージはどこから来たか、の2点について自由記述形式で記載の協力を依頼し、合計174人の回答を得た。今回は文字での記載とした。これはアンケート実施側で項目を提示してしまうと、学生が「ああそうだった」「それも一理あるな」と感じてしまい、正確な学生のイメージが取れないと考えたからである。したがって、単語1語で回答した学生から、長文で詳細に記載した学生まで様々であった。その内容を精査し、同様な内容のコメント数を計測した。まず大学の授業に関するイメージについて、結果を表3・1に示す。

表3・1 大学の授業のイメージ 集計結果

大学の授業のイメージ		回答数	割合	累積
1	自由である	51	21.7%	21.7%
2	大教室で大人数講義	27	11.5%	33.2%
3	好きな科目、学びたい科目だけ履修	25	10.6%	43.8%
4	学生が高い意識で真剣	12	5.1%	48.9%
5	難しい、大変	11	4.7%	53.6%
6	楽しい、面白い	10	4.3%	57.9%
	遊べる	10	4.3%	62.1%

大学の中途退学に関するデータ分析
 ― 学生が持つ授業イメージからのアプローチ ―

8	出席は取らない, 出なくて良い	9	3.8%	66.0%
	簡単	9	3.8%	69.8%
	専門的な内容	9	3.8%	73.6%
11	友人や恋人に出会える	8	3.4%	77.0%
12	教員と学生が討論	3	1.3%	78.3%
	グループワークが多い	3	1.3%	79.6%
	教員がうまく教える	3	1.3%	80.9%
	役立つ, 為になる内容	3	1.3%	82.1%
	ゼミが希望通りに入れる	3	1.3%	83.4%
	課題・レポートが多い	3	1.3%	84.7%
	サークル活動	3	1.3%	86.0%
	バイトに明け暮れる	3	1.3%	87.2%
	パソコンを使いこなす	3	1.3%	88.5%
21	忙しくない	2	0.9%	89.4%
	様々な種類の授業	2	0.9%	90.2%
	最先端の発展的な内容を学ぶ	2	0.9%	91.1%
	プレゼン・発表が多い	2	0.9%	91.9%
	ゼミばかり	2	0.9%	92.8%
	自分でやる	2	0.9%	93.6%
	朝が遅い	2	0.9%	94.5%
28	ノート講義だけ	1	0.4%	94.9%
	コミュニケーションが活発	1	0.4%	95.3%
	規則がゆるい	1	0.4%	95.7%
	先生が熱心	1	0.4%	96.2%
	綺麗でおしゃれな建物	1	0.4%	96.6%
	課題・レポートが無い	1	0.4%	97.0%
	就職に有利な内容	1	0.4%	97.4%
	フィールドワークで生きた授業	1	0.4%	97.9%
	退屈な時間	1	0.4%	98.3%

	勉強に遊びにバイトに忙しい	1	0.4%	98.7%
	ゆるい	1	0.4%	99.1%
	華やか	1	0.4%	99.6%
	休みが多い	1	0.4%	100.0%

(コメント総数 235)

アンケートは大学の授業に関してのみ行ったが、結果的に授業の枠を超え大学全体についての問題にまで踏み込んだ回答が多くなった。このイメージについては、自由記述のために複数回答である。大学の授業に対する最多の回答は「自由」なイメージであった。これは「自由」と言う単語を自ら記載した学生が、全体の 21.7%であったことを意味する。上位 4 項目でおおよそ 5 割を占め、おおよそ半分の学生が、「自由に、大教室で大人数講義のなか、好きな科目・学びたい科目だけ履修をし、周囲の学生も高い意識で真剣に授業を履修する」と言うイメージを持っていると想像できる。3 位の「好きな科目、学びたい科目だけ履修」というのも一種の自由であろうが、これは必修科目を多く設定している大学側の趣意とは相反するものであろう。大学はある程度の必修科目や選択必修科目を設け、カリキュラムにしたがって学生が系統的に授業を履修することを期待している。学部・学科ごとにカリキュラム・ポリシーが設定されている昨今においては、その到達目標を充足することが重要であり、ディプロマ・ポリシーを保持させることが必要である。さらに近年では内部質保障の問題も重要視されてきており、この点を整然と達成する必要がある。

すこぶる学部経営の話に偏向してしまったが、4 位に挙がっている「周囲の学生に対する意識」がたいへん興味深い。この回答は、当初全く予定をしていなかった。すなわち現代の学生は、周りの学生の目を大変気にし、大勢のその雰囲気の中で楽しく自由に学ぼうとする傾向を持つものと考えられる。友人や友達だけで無く、その学年やクラスを作る集団が、勉学意識が高く真剣で真面目であると、自分もそうせねばならないという意識の表層である。これは教員にとっては、授業運営の上で忘れがちになってしまう点であろう。問題はその逆の例であり、授業中に学生が怠惰で寝てしまったり、スマートフォンで他の作業を行ったり、教室への出入りが自由になってしまったりすると、それを見

た他の学生の授業へのモチベーションが下がってしまうことがあり得るということである。さらにそれが他の学生へも波及することにより、クラス全体の授業への意識が低下してしまうと言う点である。以前に稿者の授業において、履修者全員が全授業に出席と言うことがあった。その際には、途中から全員出席を意識し始めて以来、学生の間では決して授業を休まないという団結力が生まれ、結果的に全員全出席が達成された。最終試験の成績も例年以上に良く、学生の大きな成長を見ることが出来たことがあった。このように、クラス全体の雰囲気というものは、あまりこれまで議論されていないものの、たいへんに重要であると考えられる。論者の経験からすると、授業の雰囲気はおおよそ1ヶ月で決定する。その授業における序盤のうちに、確固たる授業イメージを創出することが重要であると考えられる。

その他の意見としては、「難しい、大変」と「楽しい、面白い」、「遊べる」と言った内容が拮抗している。これは一般的には相反する事象であるが、難しくてもたいへんであっても知的に楽しく、面白い内容の学修も存在する。今回は主として大学に入学して間もない1年次生を主体にアンケートを行ったこともあろうが、前出のように1年次生では必修科目等に制約されている場合が多く、好きな科目や学びたい科目をまだ履修できる段階では無い。また少数意見にもあるが、大学ではゼミを行うというイメージがあるが、専門的な内容のゼミは通常2年生の後半もしくは3年生といった段階からスタートするため、そこに到達していない段階で回答している学生にとっては、未知の世界であり、少し酷な質問になっているのかも知れない。いっぽう友人関連は意外と低く11位、割合では3.4%にすぎなかった。大学時代に一生の友人が出来ることも少なくないことではあるが、今回は質問が大学の授業に関するものであったため、そこまで記載する学生が少なかったものと想像する。

ではそういった授業のイメージはどこから創出され、学生たちのイメージに埋め込まれていくものなのであろうか。2つめの質問として、大学の授業のイメージを、どこで得たかという質問を行った。その結果を表3・2に示す。

表3・2 大学の授業イメージはどこから得たか 集計結果

そのイメージはどこから得たか？	回答数	割合	累積
-----------------	-----	----	----

1	ドラマ・映画	24	20.2%	20.2%
2	先輩	23	19.3%	39.5%
3	漫画・アニメ	12	10.1%	49.6%
4	高校の先生	11	9.2%	58.8%
	オープンキャンパス	11	9.2%	68.1%
6	テレビ	10	8.4%	76.5%
7	インターネット, SNS	8	6.7%	83.2%
8	兄・姉	5	4.2%	87.4%
	大学パンフレット・ビデオ	5	4.2%	91.6%
10	親	4	3.4%	95.0%
11	塾の先生	2	1.7%	96.6%
	大学説明会	2	1.7%	98.3%
13	広告	1	0.8%	99.2%
	小説	1	0.8%	100.0%

(コメント総数 119)

1 位と 2 位がほぼ同数ではあるが、ドラマ・映画、先輩から聞いたという意見となった。ドラマ・映画は作者の意図により創り出されたものであり、逆に先輩から聞いたというのは、直接の知り合いの人から聞いた意見である。そこでこの 14 件の回答を、以下の 4 つのグループに分類する。

- 1) 1 次イメージ：直接の知り合いからのイメージ
「先輩」「高校の先生」「兄・姉」「親」「塾の先生」
- 2) 2 次イメージ：大学側から直接・間接的に提供されたイメージ
「オープンキャンパス」「大学パンフレット・ビデオ」「大学説明会」「広告」
- 3) 3 次イメージ：意図的に作られたメディア等からのイメージ
「ドラマ・映画」「漫画・アニメ」「テレビ」「小説」
- 4) 複合イメージ：上記の提供先が複合されたイメージ
「インターネット, SNS」

複合イメージであるインターネットや SNS は、大学に関する情報を知った手段であり、1 次から 3 次までのどこからの情報の出所かはわからないために、別カテゴリーとした。この分類で分析を行うと、1 次イメージの割合は 37.8%、2 次イメージが 16.0%、3 次イメージが 39.5%、複合が 6.7%となる。したがって学生の大学のイメージというものは、実際に人づてに情報を得るよりも、メディアからの情報に影響を受けているということがわかった。しかしこれは、情報化時代の表れであるとは言えない。複合イメージにもあるように、インターネットや SNS からの情報はたいへん少ない。だが今回は質問が「どこからこの情報を得たか」と言うものであったために、どこからその情報を得たかを答えた学生以外に、その得た手段を答えた学生が若干名いたこととなった。この点は反省点であろう。いっぽうで 2 次イメージである、オープンキャンパスやパンフレットからという学生は、予想をしていたよりも少なかった。当然ながら高校生は、志望大学の大学案内等を資料請求し、それを見ているのではあるが、決定的なイメージの植え付けにはなっていないことを示すと考えられる。この点は大学広報にも活かすことが出来るかも知れない。最終的に高校生たちは、ドラマやテレビ、映画等で知ったイメージを元に、家族や先生などの知合いの意見を聞き、志望校等の大学パンフレットを見ながら、自分の中で大学のイメージを創り出してきているものと推察できる。

当然ながらこういったイメージでは、悪いイメージは全くもって払拭されているために、現実のところは見えないか、もしくは直接の知り合いから聞かされている程度に過ぎない。学生は希望を持って大学に入学してくるわけであるから、ある意味美化された最高に期待した状態で授業に臨む。そこにオリエンテーション等のガイダンスにより、予想外の厳しい現実の状況が入り込むわけであり、入学後は試行錯誤しつつ新たに出来た友人たちと話し合いながら、大学生生活をスタートさせていく。すなわち、不安や自分の抱いていたイメージとの乖離をそのまま引きずりつつ、大学生活がスタートしているものと考えられる。学生自身の中で環境に適応し、自らの置かれた状況の下でパフォーマンスを発揮し、勉学等に邁進することが出来れば良いが、そうでなく、時間とともに理想と現実とが大きく離れてしまっていた場合には、進路の変更を考えることも余儀なくされよう。そこで中退という道を選ぶ学生も少なくない。最近で

はこの乖離を少なくするために、高校と大学の一貫教育や、高校の授業の一部を大学の授業の一部とする方法、大学の授業を高校で模擬授業を行う、といった手法が採られている。効果の具体的なデータは存在しないが、高校の生徒にとっての大学の授業のイメージづくりとしては、意義のあるものでは無いかと推察する。またオープンキャンパスだけでなく、普段の大学の授業日に高校生が大学を見学するツアーや、大学生自身が高校生に直接、自らの大学を紹介する企画等も行われている。これらは高校生に対する大学の「正確な」イメージづくりに有効であり、ひいては大学に入学してからの退学者数を減少させる手段になり得るかも知れない。2節で説明した、文科省の推奨する「初年次教育」では、すでに時期的に手遅れである気がする。大学に対する正しいイメージは、大学入学前に確立させておく必要があることが、中退者の減少に対しては必要であると結論づけたい。

4. まとめと今後

これまで大学を中退する学生の原因は、主として経済的理由ばかりが取り上げられてきた。しかしながら経済的な理由以外にも理由はあると推考し、学生が高校時代までに得た大学のイメージと、入学後の現実とのそのギャップに一因があると考え、記述式アンケートによるデータを取得し、分析を行った。あらかじめ持っていた理想が高いために、現実が満たされず、失望することは日常生活でも良くあることである。その積み重ねが、退学につながる場合も見逃せない。結果として、異なる部分は大いにあることがわかった。またイメージはメディアから「良い面」ばかりが強調されて伝わっている現実も理解できた。この原因としては、高校の生徒が、大学のパンフレットやコマーシャル、模擬授業やオープンキャンパスによってイメージを創り上げたといった回答も含まれており、ある意味で我々大学関係者の責任もあろう。大学の教職員は、様々な場所で何年にもわたって大学の授業を見てきているが、入学した学生にとってはおおよそ一回性のものであり、客観的な立場で比較することが出来ない。まだ若く多感な年頃である学生にとっては、良いイメージばかりが埋め込まれてしまえば、そこからの脱却は難しく、友人等の話題を聞けば隣の芝生が青く見えてしまい、自らの劣等感が増してしまう可能性も少なくない。大学側とし

ても、偏向のない公平なデータを生徒に与え、生徒が自らに見合った大学選択の意思決定を行うことが出来れば、少しでも中退者を減少させることが出来るであろう。これは大学のキャリア教育でも同様であり、大学の学生が就職先を選択し、職に就いた後に離職しないようにさせる点においても活かせる考える。

今回は、すでに大学の授業を経験している学生にアンケートを実施した。今後は高校3年生の、大学未経験の生徒に聞いてみることで、より高精度なデータを取得したい。また質問形式として、どこからイメージを得たかの質問において、その「手段」ではなく、誰から・何から・どこから得たかということを確認に問いかける方法に変更し、曖昧な回答を避けるように工夫をしたい。

学生の中退は、学生本人にとって、前向きな場合だけとは言えず、幸せなことばかりではないであろう。このような分析結果を活かすことによって、少しでも中退者の増加に歯止めがかかることを、願ってやまない。

【参考文献】

- [1] 文部科学省、「学生の中退学や休学等の状況について」、
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/08/1352425_01.pdf, 2014 年。
- [2] 小林雅之他,「経済的理由による学生等の中退学の状況に関する実態把握・分析等及び学生等に対する経済的支援の在り方に関する調査研究」, 東京大学平成 27 年度文部科学省大学改革推進委託事業報告書, 2016 年。
- [3] 橋本智也,「大学からの中退学についての文献レビュー:日本の雑誌論文を中心に」, 平成 27 年度第 3 回 IR 実務担当者連絡会, 2016 年。
- [4] 岩田弘三,「大学における中退の実態とその防止に向けた取り組み:大学へのヒアリング調査をもとにした事例分析」, 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 第 8 号, 2018 年。

愛知文教大学におけるルーブリックへの取り組み

— 自己評価アンケート（外国語分野）の試行 —

愛知文教大学

西口 智也

1 はじめに

愛知文教大学（以下、「本学」と称する。）においてルーブリックへの取り組みが始まったのは、昨年度（2017年度）の本学カリキュラム委員会において、「ルーブリック」のためのワーキンググループ（以下、「2017WG」と呼称。）が立ち上がったからである。筆者（中国語系授業担当）がその2017WGの主担当として、同担当の教員2名（日本語教育系授業担当の松岡みゆき氏と、日本文化系授業担当の畠山大二郎氏）と協議を重ねながら、本論考で紹介する「ABUルーブリック自己評価アンケート」実施のための準備を開始した。[注1]

今年度（2018年度）に入ると、2017WGは、本学教務委員会内の「ポートフォリオ」担当と統合され、新たに「ポートフォリオ・ルーブリック」のためのワーキンググループ（以下、「2018WG」と呼称。）となった。筆者はその主担当となり、昨年度から担当の教員2名の他に、新たに3名の教員（キャリア教育系授業担当の小川現樹氏と、教育学系授業担当の竹中烈氏と、英語・心理学系授業担当の黒田敏数氏）が加わった。以後、この6名で本学オリジナルのルーブリックの作製と実施に取り組んでいくことになった。

2 ルーブリックとは

本学2017WGでは、まず、「ルーブリック」というものについて理解を深め、その

効果的な活用方法を模索していくことから取りかかった。

この「ルーブリック」については、公益財団法人日本高等教育評価機構の『平成30年度 大学機関別認証評価受審のてびき（9月版）』（2017.9）の「評価に関わる用語集」の中で次のように説明されている。

米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。コースや授業科目、課題（レポート）などの単位で設定することができる。国内においても、個別の授業科目における成績評価等で活用されているが、それに留まらず組織や機関のパフォーマンスを評価する手段とすることもでき、米国 AAC&U (Association of American Colleges & Universities) では複数機関間で共通に活用することが可能な指標の開発が進められている。

(pp146)

このように、ルーブリック式の評価方法は、「パフォーマンス等の定性的な評価」を可能とするものである。そこで2017WGでは、ルーブリック式の評価方法が、これまで本学では一部の教育学系科目以外では実施してこなかった「パフォーマンス等の定性的な評価」を、全学的に実現するための手立てとなり得るものであると判断し、その実現を目指していくことが確認された。

そこで、テストケースとして、担当教員による授業評価ではなく、学生たち自身に評価してもらう自己評価として、まず、著者の担当授業と関わりの深い「外国語分野」についてのルーブリック式の評価表を作成し、学生アンケートのかたちで、新年度に試験的に実施することが決まった。

3 第1回ループリック自己評価アンケート（外国語分野）の作製

今年度の4月、本学の全学生が出席することになっている春期オリエンテーション（4月4日）での実施に向けて、「第1回ABU ループリック自己評価アンケート」の調査用紙を、「外国語分野」に絞って作製した。【資料1】

同調査用紙（【資料1】）は、「英語」「中国語」「日本語」のうち、母語以外の言語、つまり対象者にとって第二言語となるものを選び（複数回答可）、各言語の習熟度を、「聴く力」「読む力」「書く力」「話す力」「対話力」の5項目について、CEFRの基準を参考にして作成した下記の【図表1】ループリック評価表（各項目、25点満点）の5段階のレベルからそれぞれ選択するかたちになっている。[注2]

【図表1】 第1回ループリック自己評価アンケート（外国語分野）評価表

評価(点数)	0点	1点	2点	3点	4点	5点
聴く力	全く聞き取れない。	簡単な単語程度であれば聞き取れる。	あいさつなど形が決まった文であれば聞き取れる。	日常的な内容の単純で短い表現であれば聞き取れる。	日常会話程度であれば要点を聞き取れる。	映画ストーリーを大体理解し、スピーチやニュース番組の大部分を聞き取れる。
読む力	全く読めない。	簡単な単語程度であれば読んで理解できる。	あいさつなど形が決まった文であれば読んで理解できる。	日常的な内容の単純で短い文章であれば読んで理解できる。	日常の内容であれば手紙などまとまった文章を読んで理解できる。	ニュースなどの新聞記事や小説などを読んで理解できる。
書く力	全く書けない。	簡単な単語程度であれば書くことができる。	あいさつなど形が決まった文であれば書くことができる。	日常的な内容の単純で短い文章であれば書くことができる。	日常の内容であれば手紙などまとまった文章を書くことができる。	レポートなど詳しく正確な文章を書くことができる。
話す力	全く話せない。	簡単な単語で自分の気持ちを話すことができる。	自己紹介など形が決まった内容であれば話すことができる。	日常的な話題について短い文章であれば話すことができる。	日常の内容であれば理由を説明しつつ自分の意見を話せる。	時事問題などについて自分の意見を詳しく正確に説明できる。
対話力	全く会話できない。	一言程度であれば母語話者とあいさつを交わすことができる。	相手の手助けがあれば母語話者に気持ちを伝えることができる。	日常的な話題であれば短い表現で母語話者と会話できる。	旅行先で必要なレベルであれば母語話者と日常的な会話ができる。	時事問題などについて意見を交換しつつ母語話者と会話できる。
TOEIC(L&R)		120以上	225以上	550以上	785以上	945以上
HSK(中国語)		1級	2級	3級	4級	5級・6級
日本語能力試験		N5	N4	N3	N2	N1
CEFR	A0	A1	A2	B1	B2	C1・C2

なお、同調査用紙では、「英語」「中国語」「日本語」以外の第二言語についても「その他の第二言語」として回答できるように、3言語分の解答欄を用意した。ちなみに、英語と日本語に加えて、中国語にも専用の解答欄を設けたのは、本学が中国語教育を重視し、中国語の授業を1・2年次の一般学生たちに必修科目として課しているからである。[注3]

4 第1回ルーブリック自己評価アンケート（外国語分野）の集計

前述の春期オリエンテーションで（4月4日）で同アンケートを実施後、回収された調査用紙は本学教務課にて「手入力」でExcelデータにしてくださった。感謝に耐えない。

なお、同データを集計するにあたっては、諸所の事情を考慮し、社会人学生と編入学生と卒業が延期となった学生、それから海外へ留学中の学生と提携校からの留学生たちについては、同アンケートの対象外とした。

【図表2】 第1回ルーブリック自己評価アンケートの対象者数と回答者数

		全体	1年次	2年次	3年次	4年次
全体		244	105	62	44	33
		305	111	77	65	52
		80.0%	94.6%	80.5%	67.7%	63.5%
属性	一般生	84	41	20	9	14
		98	42	21	15	20
		85.7%	97.6%	95.2%	60.0%	70.0%
	留学生	160	64	42	35	19
		207	69	56	50	32
		77.3%	92.8%	75.0%	70.0%	59.4%

※上段：回答者数 中段：対象者数 下段：回収率

上記の【図表2】のように、アンケートの対象学生数は全体で305名であり、調査用紙を回収できたのは244名分、つまり、ちょうど8割の回収率であった。

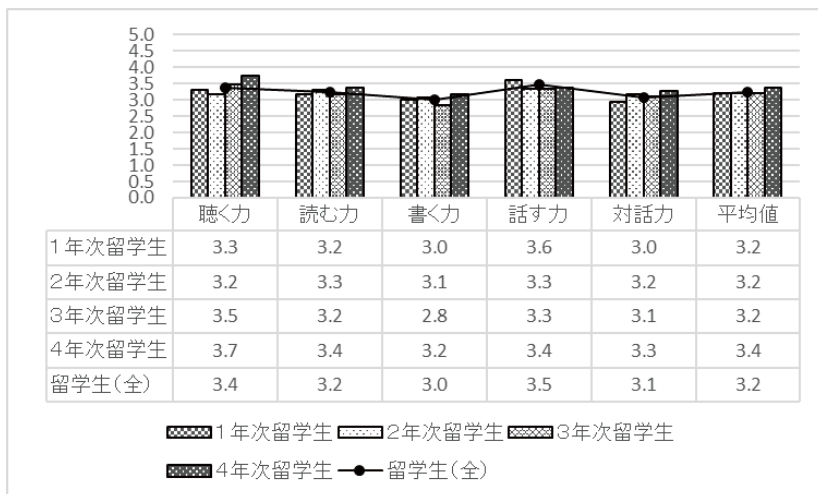
【図表3】 第1回ループリック自己評価アンケート対象者の属性と割合

		全体	1年次	2年次	3年次	4年次
全体		244	105	62	44	33
		100.0%	43.0%	25.4%	18.0%	13.5%
属性	一般生	84	41	20	9	14
		34.4%	16.8%	8.2%	3.7%	5.7%
	留学生	160	64	42	35	19
		65.6%	26.2%	17.2%	14.3%	7.8%

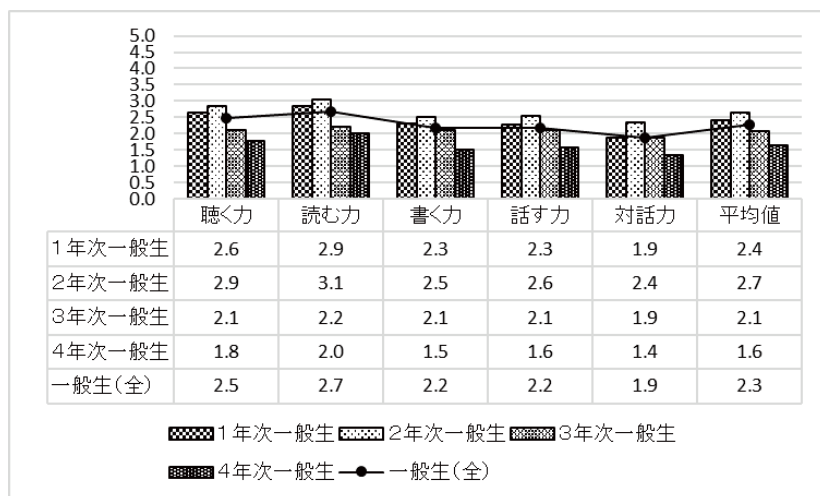
※上段：回答者数 下段：構成比（対全体）

上記の【図表3】は、調査用紙を回収できた学生数と、属性ごとの全学生に対する割合である。以下に掲載する5種の集計表はこれに基づいた数値となっている。

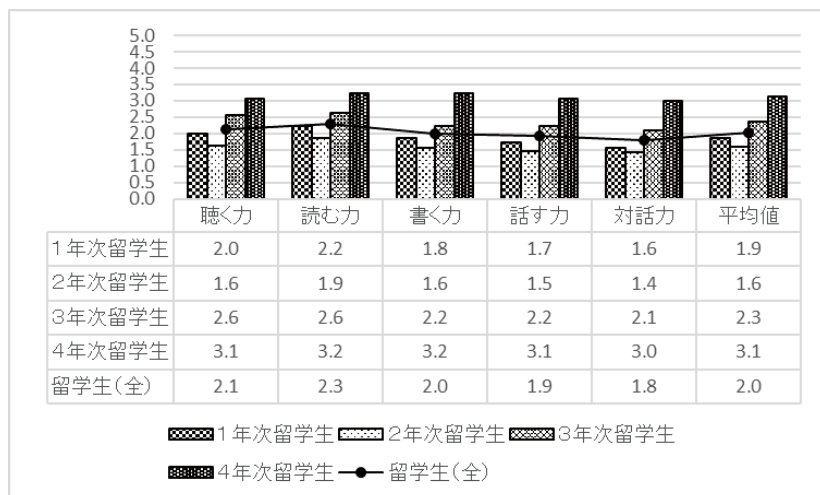
【図表4】 ループリック自己評価アンケート集計表（留学生：日本語）



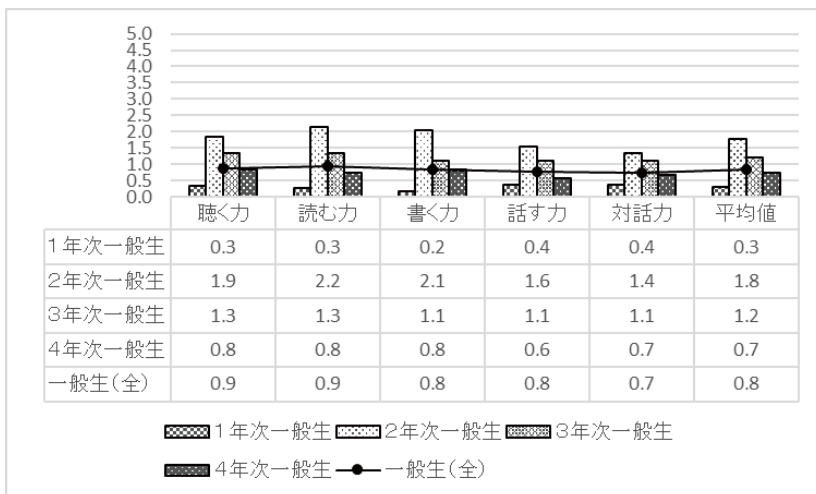
【図表 5】ルーブリック自己評価アンケート集計表（一般生：英語）



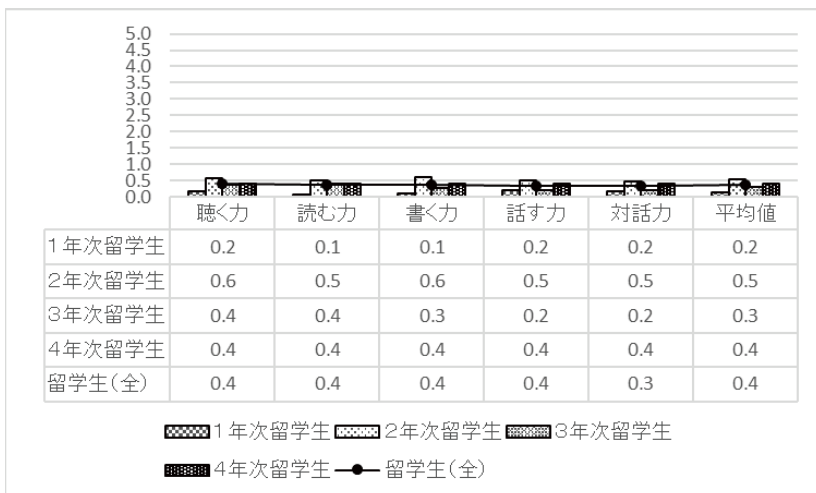
【図表 6】ルーブリック自己評価アンケート集計表（留学生：英語）



【図表7】ルーブリック自己評価アンケート集計表（一般生：中国語）



【図表8】ルーブリック自己評価アンケート集計表（留学生：中国語）



5 第1回ルーブリック自己評価アンケート（外国語分野）の考察

まず、【図表4】について。本学の留学生たちの日本語能力に対する自己評価が、1年生から4年生までほぼ横這いであることに気付く。同一学生たちの4年間にわたる記録ではないので一概に学年ごとの比較はできないが、本学に入学した留学生の多くは、日本語能力の向上をあまり実感できていないのかもしれない。

次に、【図表5】について。こちらも一概に比較できないが、一般生の英語力に対する自己評価は、2年生の平均値が最も高く、その後は下降している。これは、【図表6】で留学生の自己評価が2年生から4年生にかけて上昇しているのと対照的である。多くの留学生たちが、日本語よりも英語の学習に力を入れていることの現れであろうか。

続いて、【図表7】について。ほとんどの一般生たちにとって中国語は未習の言語であるため、2年生との自己評価の差が大きくなっている。しかし、2年次で中国語の必修授業が無くなって意欲が下降するためか、3、4年生たちの自己評価が低い。ただし、3年生については、同アンケート実施時に5名が海外留学中（中国語圏3名・英語圏2名）で未回答だった影響も大きいと思われる。

6 まとめ：今後の方針

このたびの「第1回 ABU ルーブリック自己評価アンケート（外国語分野）」は、あくまで試験的なものであったが、今後も定期的実施し、学生個人ごとにデータを蓄積していくことによって、本学オリジナルの「ポートフォリオ」ともなりえる。そうなれば、学生自身が自分の外国語能力を可視化し、学年ごとの学習目標を立てる上で役立つ。またさらには、我々教職員が学生たちの外国語能力をより的確に把握し、学習やキャリアの指導に生かせる可能性もある。これから引き続き2018WGのメンバーたちと協力しながら、外国語分野だけでなく、他の分野のルーブリック自己評価アンケートの作製にも着手し、順次実施していきたい。【注4】

【注】

- [1] 「ABU」とは、「Aichi Bunkyo University」の各語の頭文字で、「愛知文教大学」の略称。
- [2] HSKの日本公式ウェブサイト [https://www.hskj.jp/cefr/] (2018.9.28) に、「CEFR、とはヨーロッパ全体で、外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドラインです。英語ではTOEIC、TOEFLなどがこの指標を用いて評価することが可能です。HSKは2010年のリニューアルでCEFRと合致するように設計されたため、欧米各国の外国語テストとの互換性から難易度の比較がしやすくなりました。見方としては、レベルを「A 基礎段階の言語使用者」、「B 自立した言語使用者」、「C 熟達した言語使用者」に分け、各段階をさらに2つに区分しています。」と説明されている。
- [3] 本学では、その「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」にもとづき、「グローバル英語プログラム」および「教員養成プログラム」とあわせて、「中国語・中国文化プログラム」というかたちで、中国語教育が重視されている。その具体的な取り組みについては、拙稿「愛知文教大学の中国語教育—CCラウンジでの学習支援を中心に—」（『愛知文教大学論叢』第20号 2017.11）、「辻千春氏「中国語学修意欲の維持・継続と中国語運用能力養成のための小規模大学における‘能動的教育’の実勢例—3本の矢：カリキュラム＋『中国語ポートフォリオ』＋CCラウンジ（Chinese Communication Lounge）—」（『中国語教育学会第16回全国大会予稿集』2018.6）などがある。
- [4] ここでの「ポートフォリオ（Portfolio）」とは、「学修ポートフォリオ」のことで、公益財団法人日本高等教育評価機構『平成30年度 大学機関別認証評価受審のてびき（9月版）』（2017.9）の「評価に関わる用語集」の中で次のように説明されている。

学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図っていくことを目的とする。従来の到達度評価では測定できない個人能力の質的評価を行うことが意図されているとともに、教員や大学が、組織としての教育の成果を評価する場合にも利用される。

(pp138)

【参考文献】

- [1] 安藤輝次, 「ルーブリックの学習促進機能」, 『關西大學文學論集』 64(3), [2014. 12]
- [2] 芹澤高斉, 「淑徳大学におけるルーブリックの取組」, 『淑徳大学看護栄養学部紀要』 第8号, [2016, 3]
- [3] 濱名篤, 「個人パネルデータを活用した学生の成長の可視化—学習支援型 IR コンソーシアムによる関西国際大学の取り組み—」, 『IDE 現代の高等教育』 No. 598, [2018. 2]

【資料1】

2018年度 第1回 ルーブリック自己評価アンケート（外国語分野）

学籍番号 [] 名前 []

【母語】 [日本語・英語・中国語・他の言語（ ）] ※※で囲む。複数回答可。

【選択肢】 ※この共通の選択肢を読んで、それぞれの外国語について、下の【回答欄】に点数を記入していただく。

評価(点数)	0点	1点	2点	3点	4点	5点
聴く力	全く聞き取れない。	簡単な単語程度であれば聞き取れる。	あいさつなど形が決まった文であれば聞き取れる。	日常的な内容の単語で短い文であれば要点を聞き取れる。	日常会話程度であれば要点を聞き取れる。	映画のストーリーや大団円、スピーチやニュース番組の大部分を聞き取れる。
読む力	全く読めない。	簡単な単語程度であれば読んで理解できる。	あいさつなど形が決まった文であれば読んで理解できる。	日常的な内容の単語で短い文書であれば読んで理解できる。	日常的な内容であれば手紙などまとまった文章を読んで理解できる。	ニュースなどの新聞記事や小説などを読んで理解できる。
書く力	全く書けない。	簡単な単語程度であれば書くことができる。	あいさつなど形が決まった文であれば書くことができる。	日常的な内容の単語で短い文書であれば書くことができる。	日常的な内容であれば手紙などまとまった文章を書くことができる。	レポートなど詳しく正確な文章を書くことができる。
話す力	全く話せない。	簡単な単語で自分の気持ちを話すことができる。	自己紹介など形が決まった文であれば話すことができる。	日常的な話題について短い文書であれば話すことができる。	日常的な内容であれば理由を説明しつつ自分の意見を述べる。	時事問題などについて自分の意見を詳しく正確に説明できる。
対話力	全く会話ができない。	一言程度であれば会話ができ、あいさつを交わすことができる。	相手の手助けがあれば簡単な会話ができる。	日常的な話題であれば短い表現で母語話者と会話し、必要な単語を伝えることができる。	旅行先で必要なレベルであれば母語話者と会話し、必要な単語を伝えることができる。	時事問題などについて意見を交換しつつ母語話者と会話し、必要な単語を伝えることができる。
TOEIC(L&R)		120以上	225以上	550以上	785以上	945以上
HSK(中国語)		1級	2級	3級	4級	5級・6級
日本語能力試験		N5	N4	N3	N2	N1
CEFR	A0	A1	A2	B1	B2	C1・C2

【回答欄】 ※母語については回答不要。英語と中国語と日本語以外に学んだことのある外国語については、()に追加して回答してください。

	英語	中国語	日本語	()語	()語	()語
聴く力	0点	0点	0点	0点	0点	0点
読む力	0点	0点	0点	0点	0点	0点
書く力	0点	0点	0点	0点	0点	0点
話す力	0点	0点	0点	0点	0点	0点
対話力	0点	0点	0点	0点	0点	0点
(合計点)	0点	0点	0点	0点	0点	0点

【検定試験】 ※これまでに受験した外国語能力検定試験の種類と、スコア(点数)や合格した級について書いてください。

【感想・意見】 ※この自己評価アンケートについて、あなたの感想や意見を、自由に書いてください。

康有為の留学教育思想

Kang Youwei's thought of studying abroad

馬 燕

はじめに

近代中国の著名な改革者である康有為は、戊戌維新を指導している際に、最初に痛感したことは人材不足問題である。彼は伝統的な封建教育体制と教育内容では、変法維新に必要な人材を育成することは不可能だと深く認識し、変法維新を順調に実行するため、革新人材を育成すべきだと考え、1898年6月1日の上奏文「請派游学日本折（請派游学日本折）」の中で、「私は今、変法を行おうとしているが、規則はまだ整っていない。諸学に人材がいない。ものごとをやろうと思うが、そのやり方が見つからない。人材を派遣し、留学させないと、変革の役に立たない。（我今欲変法而章程未具，諸学无人，虽欲举事，无由措理，非派才俊出洋游学，不足以供变政之用。）」^①と、自分の教育改革主張を打ち出した。康有為は改革、封建的旧教育の廃止、新しい教育事業を興して維新人材を育成することを、戊戌維新運動の最も重要な施策と内容であると見なし、これを実施できるよう終始尽力した。西洋と日本の新式教育が、戊戌変法時期および後の中国で盛んに興っていた史実について、康有為の功績を忘れることはできない。

1. 康有為の留学教育思想の特徴

「託古改制（托古改制）」と「倣洋改制（仿洋改制）」は、康有為の維新変法思想の二つの源である。その中の「倣洋改制」は、「日本を法とする（以日为法）」、「ロシアを師とする（以俄为师）」、「フランスを戒とする（以法为戒）」、「ポーランドを鑒とする（以波兰为鉴）」と具体的に4つの面に分けられる。中国が日本明治維新の道を歩み、ピョートル大帝の改革についての決心と勇氣に習い、フランスのような流血革命を避け、ポーランドのような守旧体制のため亡国になった歴史教訓を汲み取ることを、彼は期待していたのである。

康有為は青年時代に伝統的儒教のほかにも、西洋の学問も学んだため、世界の大勢と各国の歴史を知っていた。十九世紀九十年代の日清戦争は中国に巨大な災難をもたらしたと同時に、中華民族の覚醒も刺激した。遠望のある政治家と知識人たちは、世界を認識すること、歴史の潮流に順応すること、または変法維新をすることを、中国の存亡と緊密に結び付けて考えるようになっていた。康有為はその代表的な人物の一人である。彼は世界に目を向け、各国の歴史と政治を比較研究し、現在の世界が列強による競争の世界であり、「雄を争って長を競い、強くならなければ弱くなる。大きくならなければ小さくなる。存しなければ亡ぶ。中立になれるわけがない。(争雄竞长, 不能强则弱, 不能大则小, 不能存则亡, 无中立之理。)⁽²⁾」のだから、競争の中で生存を図るしかないと強調した。また、彼はインド、ミャンマー、ベトナムなどアジアの国は、皆「旧を守って変化せず、君主が自分を尊び、民意と分離してしまった国(皆守旧不变, 君自尊, 与民隔绝之国也。)⁽³⁾」であるため、西洋列強に簡単に分割されたという現実注目して、旧を守ると亡国することは避けられないと指摘し、さらにこれを前轍の鑑とすべきだと忠告した。また、彼は欧米各国と日本が、資本主義革命或いは改革を通じて富強の道を歩んだ事実を高く評価して、これらをモデルにすべきだと考え、日本に学び、立憲君主制の資本主義政治体制を確立すべきであると唱道した。従って、康有為は現在の世界が列国競争の世界になっているため、救亡と変法の他に道はない、「変われるなら、領土の保全ができる。変わらなければ、国は滅びる。すべて変われるなら、強くなる。少ししか変わらないなら、亡国という結果は依然として変わらない。(能变则全, 不变则亡; 全变则强, 小变仍亡。)⁽⁴⁾」と明確に結論付けた。

康有為が指導者として推進した維新運動の実質は、中国内で上層から下層へと改革を進め、西洋に学び資本主義を発展させることである。その学び方には、国内での学びと、海外に赴いて学びの二種類がある。海外に赴いて学ぶというのは留学教育を行うことである。康有為の留学教育思想は彼自身の維新思想から生まれたものであるとも言える。したがって、彼の維新運動時期の留学教育思想には次のような二つの特徴が見られる。

(1) 貴族や大臣から官僚を選抜して海外遊歴に派遣する

康有為が貴族や大臣から人員を選抜して海外遊歴に派遣しようと考えたのは、彼が指導者として推進している維新運動が上層から下層への改革であるためであり、当時の当局者の権勢を借りて自分の政治主張を押し広め、自分の政治目的を実現しようとしたからである。康有為は過去の政治競争の経験により、高齢かつ頑固な守旧的元老派には期待できないと認識し、中央政府に少壮派を入れることに希望を託した。この点については、次の光緒皇帝との会話の中にも言及が見られる。

「康有為は次のように申し上げた。『陛下の今のお力でしたら、変化可能なことを変化させられるだけで、すべてを変化させることはできないでしょうが、要点を絞って計画すれば、中国を救うに十分です。現在の大臣たちは、皆老齢であり、守旧態勢で、外国のことが分かりません。陛下が彼らに頼って変法をなされようとするならば、それは恰も木にから魚を求めるようなものです。』
光緒皇帝は深く同感して言われた。『彼らは皆一生懸命に仕事しようとししないのだ。』

康有為が申し上げた。『大臣たちは一生懸命に仕事をしようとししないわけではありません。いかんせん彼らは年功昇格に力を使い果たし、高い地位に上り詰めた時には、すでに精力が衰弱してしまっております。また、職を兼ねることもあり、実に余裕がなく、読書するすべがありません。仕方がないのです。ですから、聖旨を奉じた学堂の創設と商務の興隆に煩わされておりますが、彼らは年少の時にそれを学んでないため、実に方法論を知らないのです。陛下が変法しようとするなら、下級官吏を任用するしかございません。登用推薦の幅を広げて人材を集め、才能があるかどうかを調べ、陛下自ら抜擢して、爵位を与えるほど破格的に任用するべきでございます。(後略)』

光緒皇帝は頷いて『その通りであるな。』と仰られた。(康有为说：“就皇上现在之权，行可变之事，虽不能尽变，而扼要以图，亦足以救中国矣。惟方今大臣，皆老耄守旧，不通外国之故，皇上欲倚以变法，犹缘木以求鱼也。”光緒帝深有同感地说：“伊等皆不留心办事。”康有为于是上奏道：“大臣等非不留心也，奈以资格

迂转，至大位时，精力已衰，又多兼差，实无暇，无从读书，实无如何。故累奉旨办学堂，办商务，彼等少年所学无之，实不知所办也。皇上欲变法，惟有擢用小臣，广其登荐，予以召对，察其才否，皇上亲拔之，不吝爵赏，破格擢用。（后略）”光緒帝点头称：“然。”^⑤」

康有為は、この目的を実現するための方策として、留学教育によれば、新思想、新知識、新態度を備えた少壮派を育成できるだろうと期待していた。彼は、日本とロシアの改革を成功させた原因は、王公貴族、大臣から皇帝まで皆自ら外国に旅立ち、見聞を大いに広めただけでなく、考え方も大きく変化して、帰国後に改革に専念したにあると考えていた。一方、中国の改革推進が困難をきわめている理由は、高位高官たちの因襲にとらわれ進歩的でないことや、盲目的な尊大さや、世界情勢を知らないことなどに原因がある、ということを明確に指摘した。したがって、彼は著名な「公車上書」において、官吏を選抜して海外に派遣し、見聞を広めさせ、外交人材の養成のための「使才館」を設立することを提案しただけでなく、「日本変政考」の中でも、「今の外国への留学を派遣する事業を、頓挫させてしまつてはいけない。反対に、学問するのに適した年齢の大夫を派遣すべきである。翰林部官吏、道府州県の官吏候補から、上は血縁関係の近い同族の親王、郡王、王子、公爵、將軍に至るまで、皆外国に学びに行かせ、それぞれ諸科目を学ばせ、帰国後政務を執るようにさせれば、人材は無尽蔵である。（中略）現状の大臣を使わざるを得ないならば、年齢や精力がやや強く、才能や志向がややある者を選び、皆に外国への留学を命じるべきである。或いは親王や重臣に自分の学識を広めるようにするように命じ、学問が成り立った上で帰国させれば、格段に効果があるだろう。（吾今出洋游学之事，亦必不能已，但必宜派通学妙年之士大夫，若翰林部曹、候补道府州县，上及近支亲郡王、贝勒、贝子、公、将军，皆出学外国，分习诸科，则归来执政，人才不可胜用矣。（中略）今之大臣不能不用其年力稍强、稍有才志者，宜皆命出洋游学，或多命亲王重臣，俾广其学识，学成而归，尤易见效。）^⑥」と、自分の見地を述べている。1898年6月、康有為は上奏文「請派近支王公游歷折（請派近支王公游历折）」の中で、「日本の変法維新は、熾仁親王、有栖川親王、小宮丸親王を西洋外遊に派

遣して、分担して諸学を学ばせたため、帰国後に推進した変政が著しい効果を収めた。タイの変法もまた親王を西洋に遊歴させ、昨年はタイ王自らも遊歴したため、最近では政治が大きく変革され、西洋人がそれを恐れて、脅迫することができなくなった。（日本変法維新、派炽仁亲王、有栖川亲王、小宮丸亲王、出游泰西，分习诸学，故归而变政，克有成效。暹罗变法，亦使其亲王游历泰西，去年暹王且躬自游历，故近政治丕变，西人畏之，不敢逼胁。）⁹⁾と、日本とタイの親王海外派遣の事例を挙げ、自分の観点の論証としている。

清朝政府の中にも海外留学を主張した官僚がいた。最も影響力を持っていたのは当時の湖広総督張之洞⁹⁾である。彼は「人材が国外に派遣されると、すなわち国家は強くなる。これは目下の急務である。（人才出则国家强，是为目前至要至急之事。）

⁹⁾」と深く認識していた。1898年、張之洞は有名な『勸学篇(劝学篇)』を著し、「中体西用」（中国の制度を本として、西洋の技術を活用すること）を前提とした教育近代化の具体策を提示した。彼はその中で、留学の効用について「留学先で過ごす1年間は、5年間西洋書籍を読むことに勝る。（中略）外国の学校に入学して過ごす1年間は、中国の学校で3年間の勉強することに勝る（出洋一年胜于读西书五年，（中略）入外国学堂一年胜中国学堂三年）¹⁰⁾」と、留学の利点を説いた後、対象となる留学生の資格について、李鴻章が推進したアメリカ留学の反省を踏まえて、「留学生の対象は、幼い子供より知識人を優先し、庶民・官僚より貴族を優先する（游学之益，幼童不如通人，庶僚不如亲贵）¹¹⁾」と述べ、さらに「日本は小さい国であるが、なぜ発展できたのか。伊藤、山縣、榎木、陸奥などは、皆20年ほど前、欧米に留学した学生である。彼らは日本が西洋に脅かされることを憤りを感じ、百人あまりを率いて、ドイツ、フランス、イギリスなどの国々に行って、政治、工業、商業、あるいは水陸兵法を学んだ。修業後帰国し、国家がこれらの人材を活用し、政事が一変したのだ。日本は東洋で重要な役割を果たした。さらに、ロシアの前ピョートル皇帝は、国の強くないことに憤りを感じ、自らイギリス、オランダ両国の造船所を訪れ、一人の大工として十年間造船技術を見習った。（中略）帰国後は、さまざまな事を大きく変革させ、今は念願していたような世界一の大国になった。こればかりではなく、タイはフランスに長く垂涎されていたが、タイ国王はこのこと

に憤慨し、国内でためらうことなく変法し、すべてを始めからやり直した。さらに、自分の嫡子をイギリス留学に行かせ、海軍を学びさせた。(中略) タイ国王が自ら西洋の文化や西洋の学問に精通し、各国との交流を増加させ、タイは考えられたような滅亡には至らなかった。(日本小国耳、何興之暴也？伊藤、山县、榎本、陆奥诸人、皆二十年前之出洋学生也、愤其国为西洋所胁、率其徒百余人分诣德、法、英诸国、或学政治工商、或学水陆兵法、学成而归、用为将相、政事一变、雄视东方。不特此也、俄之前主彼得、愤彼国之不强、亲到英吉利、荷兰两国船厂、为工役十年、(中略) 归国之后、诸事丕变、今日遂为四海第一大国。不特此也、暹罗久为法国涎伺、(中略) 暹王感愤、国内毅然变法、一切更始；遣其世子游英国、学水师。(中略) 暹王亦自通西文西学、各国敬礼有加、暹罗遂以不亡。)⁽¹²⁾」と、日本、ロシア、タイの海外留学派遣の事例を挙げ、留学生派遣の必要性を強調した。

その後、侍郎の榮恵が捧呈した親王の海外遊歴派遣を要請する上奏文が清政府に重視され、6月11日に宗室王公を選抜して海外遊歴に派遣するという内容の詔書が出たのである。

(2) 留学先は日本を中心に置く

康有為が指導者として推進した維新運動は、日本をモデルとして、明治維新の道を歩み、中国で立憲君主制の資本主義政治体制を確立しようを目指していたため、留学先については、康有為はまず日本に目を向け、日本と中国の国情を比較して、光緒皇帝への上奏をした。「請廣譯日本書派游学折(請广译日本书派游学折)」で「日本は、昔は閉鎖した国でした。しかし、変法も留学派遣も迅速に行いました。その目的は西洋の政治、工芸、文学などの知識を習得することにあります。西洋の書物も即座に翻訳しましたが、それは国の発展に寄与させるためでした。そのため、わが国より発展したのです。我々は自らを救うためには、他に方法はありません。日本と同様に変法をしたり、留学生を派遣したりすべきです。そのように、欧米の政治、工芸、文学などの知識を習得でき、諸国の書物を広く翻訳して、わが国の発展に役立てさせることができます。そうすれば、わが国の広大さと、人口の多さによって、国家の発展は日本より何倍も速く達成できます。(中略) 昔、日本は変法

の初期、欧米に1万数千人の留学生を派遣しました。帰国後、一国の政務を執る人もいましたし、さまざまな業種の専門家になった人もおり、効果が顕著でした。これこそが臣が留学派遣を願う理由であります。(日本昔亦闭关也、而早变法、早派游学、以学诸欧之政治工艺文学知识、早译其书、而善其治、是以有今日之强而胜我也。吾今自救之图、岂有异术哉?亦亟变法、亟派游学、以学欧美之政治工艺文学知识、大译其书以善其治、则以吾国之大、人民之多、其易致治强可倍速过于日本也。

(中略)昔日本变法之始、派游学生于欧、美、至于万数千人、归而执一国之政、为百业之师、其成效也。此臣所以请派游学也。) ⁽¹³⁾」と、日本の留学生派遣政策の成功を絶賛し、日本への「留学派遣(派游学)」こそが人材育成の近道であると進言した。

また、康有為は『日本变政考(日本变政考)』の序で、「(前略) 亡から存になったものにシヤムがある。小から大になったものにロシアがある。弱から強になったものに日本がある。これらは皆变法維新を行い、君主がよく民と通じあった国である。その効果はてき面で、文明も進んでいる。わが国と最も近いという点では、日本に及ぶものはないだろう。(中略) (日本は) 参議局・対策所・元老院を開いて国家経略の道を論じさせ、高官を多く泰西に留学させ、西洋人を顧問に招いて、泰西の書をつぶさに翻訳し、大学から小学校まで設けた。こうして維新の気がみなぎり、国中が奮起したのである。(中略) ヨーロッパが五百年追い求めてきたものを、日本は二十年で成功させた。その効果の速さは、地球上かつてなかったものである。(中略) 中国の变法がこれを鑑とするなら、旧来の政治・風俗も(日本と)同じで、変革の条理も変わらないのであるから、先後の順序を臨機応変し、全体にしても一部にしても、もれなく実行すれば効果が現れるであろう。(自亡而存者、暹罗是也。自小而大者、俄罗斯是也。自弱而强者、日本是也。是皆变法开新、君主能与民通之国也。其效最速、其文最备、与我最近者、莫如日本。(中略) 开参议局、对策所、元老院以论道经邦、大派卿士游学泰西、而召西人为顾问、尽译泰西之书、广开大小之学、于是气象维新、举国奋跃矣。(中略) 泰西以五百年讲求之者、日本以二十余年成之。治效之速、盖地球所未有也。(中略) 若中国变法、取而鉴之、守旧之政俗俱同、开新之条理不异、其先后次第、或缓或急、或全或偏、举而行之、可以立效。)」 ⁽¹⁴⁾

と、日本に学ぶことの利点について紹介した。康有為は日本の明治維新が西洋から学んで成功し、富国強兵を実現した。中国も同様に西洋に学び、改革をすれば成功できる。さらに、日本は西洋に学んだ際に、西洋の政治制度、文化思想の真偽を緻密に選別し、精髓を取り出して、改造かつ融合した。日中両国は国情が似ているのだから、直接に日本の改革富強の経験を学び、日本が輸入かつ消化した西洋文化を吸収すべきだと主張した。また、模索する時間と試みの代価減少のためにも、直接西洋に学ぶ必要はなく、日本に学べばよいと考えた。「臣は日本の事情を長く詳しく考察し、前車の覆るは危険に至ると見て、戒めとすることができた。もしフランスの有効性を取り入れるとならば、国を強権で治めるのは極めて容易である。欧米は、ほぼ三十年間かけて調整して管理体制を確立した。中国の広大な土地と多くの人口なら、近くにある日本方式を取り入れれば、三年間で雄大な計画を達成し、五年間で条理を備え、八年間で効果を上げ、十年間で支配権の構えを定められる。臣は皇帝から知遇の御恩を受け、中国富強のための大計を画策して、恩返しするにはこれ以上のものはない。皇帝が臣の言葉を取り入れてくださるなら、中国を強く治めることは、日ならずして実現すると期待できるはずだ。(臣考日本之事至久且詳，睹前车之覆至险可鉴。若采法其成效，治强又至易也。大抵欧、美，以三十年摩成治体。若以中国之广土众民，近采日本，三年而宏规成，五年而条理备，八年而成效举，十年而霸图定矣。臣荷皇上非常之知，筹为中国富强之计，未有过此。皇上若采臣言，中国之治强，可计日而待也。)⁽⁴⁵⁾」として、日本に学ぶことは中国改革の必ず通らなければならない道であり、成功への近道でもあると力説した。

張之洞も同じような立場で、日本を留学先にする利点について、「留学する国と言えば、西洋より東洋の方がいい。一、距離が近く、費用の節約ができ、多くの人数を派遣できる。一、中国に近く、調査、研究が容易である。一、日本語は中国語と似ているため、理解しやすい。一、西洋の学問はかなり難しい。しかし、日本人はすでに西洋の学問を修得している。中国と日本との事情、風俗は似ているため、倣いやすい。よって、半分の苦勞で倍の成果をあげることができる。その上で、なお自らもっと高いレベルを求めたいと望むなら、さらに、西洋に赴くべきである。

(至游学之国，西洋不如东洋：一、路近省费，可多遣；一、去华近，易考察；一、

东文近于中文，易通晓；一、西学甚繁，凡西学不切要者，东人已删节而酌改之。中东情势，风俗相近，易仿行，事半功倍，无过于此。若自欲求精求备，再赴西洋，有何不可。」⁽¹⁶⁾と、詳細に説明した。

当時、日本を留学先として選択した理由について、狭間直樹は、これに教員不足という中国の実態を加えて、「留学生派遣の本格的な開始は、従って日清戦争後の変法運動期をまたねばならなかった。この時には、欧米諸国とともに日本も派遣対象にされるのだが、距離が近く、文字が同じという便宜があり、経費も安い。日本留学が少なくとも量的には圧倒的な比重を占めることになる。(中略) 西太后新政では学堂制度の確立は最も重要な看板の一つだったが、言うまでもなく教師が圧倒的に不足していた。応急の策として留学が、それも日本への留学が推進された」⁽¹⁷⁾とまとめている。

清朝政府内部で日本への留学教育を積極的に推進していた時期、受け入れ側である日本政府の動きも見ることができる。1898年4、5月の間、駐華公使の矢野文雄は、日本政府は200名の留学生を受け入れ、経費を提供しようとする案を総理衙門に提出した。光緒皇帝は矢野公使の提案に対して、「現在、貴国の駐華公使矢野文雄は、中国に着任後、日中間の外交問題に遭遇し、あらゆる事情を斟酌して、すべて解決してくれた。(彼の態度は) 公平であり、すでに友好性を表している。先に総理各国事務衙門へ返信し、貴国政府は中国の人材育成に関心を持ち、中国は学生を選抜し、貴国の学堂に派遣し、各種の学問を学ばせることを望むと詳細に伝えた。大皇帝は喜びと憂いを分かち合うという友情に感服し、感謝する。朕はすでに総理各国事務の王大臣に伝え、貴国の駐京使臣とその派遣の規則を相談させ、誠実に選抜して派遣するよう命じた。大皇帝の厚意に感謝する。(現在貴国駐京使臣矢野文雄、到華以来、凡遇两国交涉之事，无不准情酌理，归于公平，已征邻好。曩复贻书总理各国事务衙门，备述贵国政府关心中国需才孔亟，愿中国选派学生前赴贵国学堂肄习各种学问，尤佩大皇帝休戚相关之谊，曷胜感谢。朕已谕令总理各国事务王大臣，与贵国驻京使臣商订章程，认真选派，以副大皇帝盛意。）」⁽¹⁸⁾と、日本の留学生を受け入れようとの好意に対して、感謝の気持ちを表し、留学生を厳選して派遣しようという答えを、国書として日本へ出した。康有為はこの情報を聞き、非常に興奮

し、6月1日、上奏文「請派游学日本折（請派游学日本折）」の中で、日本留学は「政治、風俗、文字が同じため、学問しやすい。旅費、飲食代金が安い、出費が少なくて済む。（政治文字同則学之易，舟車飲食賤則費无多。）⁽¹⁹⁾」などの利点があるため、「臣は日本の変法、学制変革については、確かに成果がみられたと考えている。中国が留学生派遣を容易にしようとするならば、ぜひとも日本から（留学事業を）始めるべきである。（臣以为日本变法立学，确有成效，中华欲游学易成，必自日本始。）⁽²⁰⁾」と公言して、「総署に迅速に日本留学の規定を討議するよう命令を下達して、日本からの経費提供を受けることを許可していただきたい。留学者については、貢生の中で聡明で才能のある、三十未満かつ中学レベルの知識に通曉している者を選び、首都で志願させ、譯署から許可証を与えよう。海外にいる場合は、政治学を学んでいる者に許可証を与えよう。（飭下总署速议游学日本章程，准受其供给经费；其游学之士，请选举贡生监之聪明有才，年末三十已通中学者，在京师听人报名，由译署给照，在外听学政给照。）⁽²¹⁾」と切に願っていた。

1898年8月2日に、光緒帝は詔書を下し、「各省の総督、巡撫に対し、学堂の中の聡明な学生で、向上心のある（各省督抚就学堂中挑选聪颖学生。有志上进。）者を選抜して、日本留学に派遣するよう命令を公布した⁽²²⁾。これは清末の日本留学ブームの前触れとなった。

2. 康有為の留学教育思想の実践

清政府の命令に伴い、各省の地方政府は動き始めた。1898年（光緒24年8月11日）、湖広総督張之洞は日本の先進的技術、特に軍事力について学ぶべきだと考え、北塩道⁽²³⁾に、「日本の軍学校は学問の修得に熱心で、日増しに高まっている。さらに、それぞれの学校ではあらゆる西洋の学問を教授している。かつ日本と中国とは同文であり、修得しやすい。現在110人を派遣し、日本へ留学させることを立案したが、学生50人は軍事学堂に入れ、将校を育成し、兵士50人を教導團に入れ、下士官を育成する。学生10人を農業、商務、工芸学堂に入れ、社会に役に立つようにする。経理学や軍医学も学習すべきである。すなわち、軍学校で習得させるべきなのだ。（查日本武备学堂最为精心讲求，蒸蒸日上，此外各学堂与西学门类无不兼

賅、且与中国同文、学习较易。兹拟派学生一百一十人游学日本、以学生五十人入武备学堂学习以储将佐、以弁勇五十人入教导团学习以储弁目、以学生十人入农务、商务、工艺学堂学习以裨民事。其经理科、军医科亦应学习、即附入武备之内。」⁽²⁴⁾と、軍事技術を中心として、様々な専門分野を修得させるように指示を出し、学生を日本留学に派遣した。張之洞に続いて北洋大臣、南洋大臣及び浙江求是書院なども相次いで学生を日本に派遣した。1899年まで、留日学生の人数は100名以上にまで増加し、その中では、日本陸軍の予備校である成城学校で軍事を学んでいる学生が一番多かった。しかし、国庫不足のため、完全な政府からの留学生派遣が困難になり、清政府は私費留学にも力を入れ始めた。1903年、清政府は私費留学生の場合、親が申し込んだ後、省の学務処の試験さえ合格すれば、公文書を受取って出国できるだけでなく、事務担当者の難題吹っ掛けやゆすりなどを禁止するという命令を下達した。外国の大学に受かった私費留学生は資格の変更ができ、官費留学生となることもできるようになった。また、私費留学生は、経費の継続供給が不可能となった場合や、病氣入院が必要な場合、国が事情を考慮して補助してもよい、という内容の追加規定も下達した。さらに、清政府は在職中の官員と王公貴族の子弟に「自ら旅費を用意して、外国へ留学し（自备资斧，出洋留学）」⁽²⁵⁾でも、「帰国後、特に破格に奨励して、直ちに登用するべきである（回国后尤宜破格奖励，立予擢用）」⁽²⁶⁾と激励した。このような官費留学と私費留学を並行して推進することにより、日本への留学ブームの発展を促進した。

狭間直樹は、留学生の人数について、1896年13人、1899年200人以上、1901年280人、1902年約500人、1903年約1,000人、1904年約1,300人、1905年8,000人以上と記している⁽²⁷⁾。1905年当時、早稲田大学清国留学生部教務主任であった青柳篤恒も「都下、清国留学生の現在数は将に八千ならむとすと、科举全廃、学堂不足、他に立身出世の途全く杜絶する今日此際、其来航するもの倍蓰して滔々水の低きに就くが如けん」⁽²⁸⁾と述べている。1896年から1919年までの来日中国人留学生の人数について、王曉秋が日本の外務省外交資料館所蔵の日本外務省保存資料『在本邦清国留学生関係雑纂第一』と実藤恵秀の『中国人日本留学史』など資料を参考にして、作成した「1896年—1919年中国留日学生人数統計表」⁽²⁹⁾を見ればそ

の変化がはっきりと分かる。

年	実業統計	外務省保存資料統計	王曉秋訂正	王曉秋参考資料出所
1896	13			
1897	9			
1898	18		55	『張文襄公治蜀記』など
1899	207			
1900	—			
1901	280		274	『中国留学生新年会記事』
1902	500		573	『清国留学生会館第一次報告』
1903	1000		1300	楊福『奏康学務兼管情形』
1904	1300		2406	『清国留学生会館第五次報告』
1905	8000			
1906	8000	7283		
1907	7000	6797		
1908	4000	5216		
1909	4000	5266		
1910	—	3979		
1911	—	3328		
1912	1400	1437		
1913	2000	—		
1914	5000	3796		
1915	—	3111		
1916	4000	2790		
1917	—	2891		
1918	3000	3724		
1919	2500	3455		

この統計表によると、1905年には日本留学生の最盛期を迎え、1896年当初の13

名から 8000 人を超えた。しかし、同年の「留学生取締規則」の公布により、1906 年から 1911 年まで、留日学生の人数が逐年減少していった。この後、1912 民国成立以後、再び増加に転じた。

中国の志を持つ青年たちが康有為ら有識者の呼びかけに応え、革命の真理と富国強兵の方法を学ぶため、日本という「学習現場」に駆けつけた。彼らはいったい日本のどのような学校に入学して、何を専攻して学んだのであろうか。王晓秋が日本の外務省外交資料館所蔵の日本外務省保存資料『在本邦清国留学生関係雑纂第一・陸海軍学生以外ノ部』などの資料を参考にして作成した統計資料「1907 年日本各学校中国留日学生在籍人数統計表」⁽³⁰⁾により、1907 年を例として、比較的有名な学校を選出して見てみよう。

学校名	学生数(名)	学校名	学生数(名)	学校名	学生数(名)
東京大学	35	宏文学院	911	実践女学校	47
京都大学	10	経緯学堂	542	高等主文美術女校	19
早稲田大学	820	東斌学堂	321	女子美術学校	14
法政大学	1125	振武学校	286	長崎活水女校	17
明治大学	454	成成学校	110	東京音楽院	12
日本大学	109	東京同文書院	145	東京警察学校	213
中央大学	104	研数学館	89	東亜鉄道学校	165
慶応大学	11	正則英語学校	24	岩倉鉄道学校	153
東洋大学	5	正則予備学校	25	日本体育会体操学校	80
東京高等師範学校	44	国民英学会	22	東京鉄道学堂	64
東京高等工業学校	73	大成学堂	17	東京物理学校	45
東京高等商業学校	41	独逸語専修学校	5	同仁医業学校	35
東京外国語学校	15	札幌農科大学	19	第一高等学校	31
東京美術学校	4	盛岡高等農林学校	9	第三高等学校	13
東京音楽学校	9	大阪高等工業学校	23	福岡工業学校	10

この統計から、中国留日学生が入学した日本の学校と学習状況の特徴を見い出す

ことができる。十九世紀に、清政府が欧米に派遣した留学生はほとんどが理工系と軍事を専攻していたが、二十世紀初めの中国留日学生は幅広い専攻を学び、政治、法律、文学、歴史、外国語、師範から理工、農業、医薬、軍事、商業、さらには音楽、美術、体育まで、すべて揃っている。その中でも、文系と軍事専攻の学生が多数を占め、特に政治、法律、陸軍が最も人気であった。これは留日学生の学習への幅広い興味と活発的な思惟を表しているだけではなく、さらに当時の時代趨勢もあったと考えられる。中国の愛国青年たちは外国の社会、政治、経済と文化教育制度に関する知識を勉強する機会を切望し、救国救民の道を探し求めていたのである。

戊戌変法失敗後、康有為や梁啓超、徐勤など維新の志士が相次いで日本に亡命しただけでなく、ほぼ同じ時期に、孫文など各地に亡命した革命者や政治家も日本に集まって来た。維新派にしても革命派にしても、自分の活動拠点を国内から海外に移した。当時の日本は中国亡命者の集まり居住する場所となり、日本人は彼らのことを「亡命客」と総称した。留日学生の人数増加に伴い、康有為をはじめとする保皇派も、孫文をはじめとする革命党も、留学生を味方に引き入れ、自分の組織の基礎にしようと考え、争奪が始まった。最初、留日学生の中には「特に保皇立憲傾向の者が多い（猶以傾向保皇立宪者为多）」⁽³¹⁾という傾向が見られたが、祖国の民族危機と革命情勢の発展につれ、さらに彼らが日本で西洋資産階級の民主革命思想の影響と実際的な闘争教育を受けたこともあり、多くの留日学生がしたいに愛国、改良から革命の道へと足を踏み出すように転換していった。

留日学生たちは各種の愛国運動への参加をきっかけとして革命の道を歩き始め、日本で新聞や雑誌を創刊し、書籍を翻訳して出版したりして、新文化と新思想を積極的に中国の国民に紹介し、宣伝していった。同時に資産階級の民主学説を使用し、多方面から中国の封建専制の罪を攻撃し、清政府に反抗し革命する理論や方針を探索した。一方、中国人民の思想解放を促進して、辛亥革命の思想的基礎を築くことにも繋がっていった。1903年の拒俄運動は、さらに大勢の愛国留学生たちを革命の道へと推し進めた。義和団事変で出兵したロシア軍が東北地方に居座り侵略行為に及んでいることに憤慨して、正義の血を沸き立たせた留学生たちは、東京で「拒俄義勇軍」を結成し、訓練をしながら、いつでも帰国して抗俄戦闘に参加できるよう

準備していた。清政府はこの運動を革命派による策動と受け止め、東京の拒俄義勇軍を解散させ、上海や北京で開催された反俄集会も解散させた。これを知った留学生は、もはや清朝に未来はないと感じ、より革命運動に参加するようになっていった⁽³²⁾。留日学生たちは自ら帝国主義と封建主義に反抗する革命実践に参加して、その中の大勢の者が辛亥革命の中堅的指導者にもなった。孫文が日本で結成した同盟会は、留日学生を中核として発足した。同盟会および革命を宣伝して武装蜂起を起こした者たちの中心となったのは、ほとんどが留日学生だった。その中でも、最も有名な同盟会の指導者である黄興、革命宣伝家である鄒容と陳天華、革命家である秋瑾と徐錫麟などは、全員が早期の留日学生である。

当時の日本留学教育は中国に重要な影響を与えた。康有為は維新変法、立憲君主制に必要な人材を育成するため、留学生の派遣を積極的に主張した。一方、清政府が日本留学政策を実施した目的は、西洋技術を身に付けた留学生を育成して、清朝の封建統治の維持に奉仕させることであった。ところが、留学生たちは中国社会に思いにもよらない影響をもたらした。1911年の武昌蜂起前後、多くの留日学生は帰国して辛亥革命に身を投じた。1915年に袁世凱の帝政移行に反抗する闘争の中で、李大釗は中国日本留学学生総会を代表して「警告全国父老書(警告全国父老书)」を起草し⁽³³⁾、日本から帰国した留学生の蔡鍔は護国軍を結成して、袁世凱を武力によって討伐した。1915年以後、日本から帰国した留学生たちは新文化運動を発動した。

「新青年」編集部の中核人物である陳独秀、李大釗、魯迅などは全員が日本に留学した経験を持ち、日本の民主主義の影響を受けていた。1918年、日本にいる中国人留学生が「中日共同防敵協定」に対する反対闘争を発起し、多くの留学生が帰国して帝国主義と北洋軍閥を反抗する「五・四運動」に身を投じていった。1919年5月4日、一部の留学生は天安門デモ及びその後の闘争に参加した。これに応じて5月7日、日本にいる中国人留学生も東京でデモを起こした。1921年、陳独秀、李大釗、李達、李漢俊、周佛海、周恩來、董必武などを始めとする日本でマルクス主義の影響を受けた留日学生は、中国で中国共産党の建党と早期の活動に参加した。また、国民党と国民政府に勤めていた党政府要人、軍事指導者中にも、蒋介石、汪精衛、胡漢民、戴季陶、閻錫山、何応欽、白崇禧など多数の日本留学経験者がいた。

二十世紀初頭の十何年間に、中国から日本へと留学した人々は少なくとも何万人もいた。その人数の多さ、規模の大きさ、専攻した学問の幅の広さ、活動頻度の高さは、世界各国留学史の中でも非常に珍しいといえよう。二十世紀始めの留日ブームは、日中文化交流を促進しただけでなく、近代中国の革命運動、政治、経済、軍事、文化、思想、科学の発展にも大きな影響を与えた。さらに留日学生の中に、多くの政治家、軍事家、文学家、教育家、学者も現れたのである。

おわりに

康有為の留学教育思想と実践は、彼の政治思想と活動と緊密につながっている。康有為の留学教育思想は開明かつ創新、大胆かつ向上心があり、彼が主張した留学派遣制度は、当時の中国の人材育成のための近道であることは、歴史上検証された。

二十世紀の始め、大勢の中国人留学生在日本に駆け込んだ。彼らは中国民主革命の発展、社会の進歩及び日中両国の友好と交流の促進に力を尽くし、中国近現代史の発展に大いに貢献した。同盟会の創立から辛亥革命、袁世凱専制政治への反対運動、五四運動及び中国共産党の設立などの重要な舞台にも、留日学生たちが活躍した足跡がはっきり残されている。留日学生の革命活動は康有為がデザインした留学派遣の道と目的からは離れてしまったが、彼の清末留学運動発展への貢献を決して忘れてはいけない。康有為は中国近代の資産階級教育思潮の啓蒙者とデザイナーであると言っても過言であるまい。

注

- (1) 湯志鈞編「請派游学日本折」、『康有為政論集』上、1981、中華書局、p. 250
- (2) 馬洪林・蘆正言編注「日本変政考」序、『康有為集』序跋卷、2006、珠海出版社、p. 155
- (3) 同上
- (4) 馬洪林・蘆正言編注「上清帝第六書」、『康有為集』政論卷・上冊、2006、珠海出版社、p. 117
- (5) 康有為『康南海自編年譜（外二種）』、1992、中華書局、pp. 42-43

- (6) 黄明同、吴熙釗主編『康有為早期遺稿述評』、1988、中山大学出版社、p. 132、p. 166
- (7) 湯志鈞編「請派近支王公遊歷折」、『康有為政論集』上、1981、中華書局、p. 252
- (8) 張之洞(1837-1909)は、清末の政治家。湖広総督・軍機大臣などを歴任。曾国藩、李鴻章、左宗棠と並んで「四大名臣」とも称され、軍備の近代化、京漢鉄道の敷設、教育改革、留学生派遣による人材育成、実学振興などに努め、洋務派官僚として最も重要な役割を果たした。また、中国から日本への最初の留学の立案者として、近代化過程における留学生政策と日中両国の文化交流において極めて大きな功績を残した。
- (9) 趙德馨主編『張之洞全集』第六卷、2008、武漢出版社、p. 214
- (10) 陳学恂・田正平編『中国近代教育史資料匯編・留学教育』、1991、上海教育出版社、p. 44
- (11) 同上
- (12) 同注(10)、p. 45
- (13) 湯志鈞編「請廣譯日本書派游学折」、『康有為政論集』上、1981、中華書局、p. 302
- (14) 同注(2)、pp. 155-156
- (15) 康有為「日本変政考」序、『康有為全集』第四集、1998、中国人民大学出版社、p. 105
- (16) 同注(10)、p. 45
- (17) 狭間直樹『中国社会主义の黎明』、1976、岩波書店（岩波新書）、p. 39
- (18) 『清光緒朝中日交渉史料』、1970、文海出版社、p. 994
- (19) 同注(1)
- (20) 同注(1)
- (21) 同注(1)、p. 251
- (22) (清)官修『徳宗景皇帝実録』巻423、p. 1
- (23) 北塩道、清朝官吏の肩書きである。
- (24) 同注(9)、p. 159
- (25) 張之洞等「請奨励職官游歴游学片」、『中国近代教育史資料』上冊、1961、人民

教育出版社、pp. 190-191

(26) 同注(25)

(27) 同注(17)

(28) 青柳篤恒「再び支那留学生問題について（続）」、1905 年（明治 38 年）11 月 13 日付『東京朝日新聞』、1905、（日本図書センターの縮刷版参照）

(29) 王曉秋『近代中日文化交流史』、1992、中華書局、pp. 355-356

(30) 同上、p. 358

(31) 胡漢民『胡漢民自伝』、1987、伝記文学出版社、p. 13

(32) 菊池秀明『中国の歴史 10』、2005、講談社、p. 135

(33) 吳漢全「留学日本与李大釗早期思想的發展」、『徐州師範大学学报』、2000（4）、p. 12

〔付記〕

本稿は、2015～2019 年度科学研究費助成金基盤研究（C）「東アジア近代化の地域論的比較思想研究 ―新出の康有為自筆資料に見る 21 世紀的課題―」（課題番号 15K02036）の研究成果の一部である。研究の機会を与えてくださった代表者の平野和彦先生と顧問の中村聡先生に厚く御礼申し上げます。

研究室ノート（本学専任教員 abc 順 2017 年 12 月～2018 年 11 月）

①論著 ②翻訳 ③研究発表 ④社会活動 ⑤教育改善に関わる業績

江口直光

①

1. 論文「映画『ニーベルンゲン』とワーグナー」（単著、査読あり）、日本ワーグナー協会編『年刊ワーグナーシュンポジション 2018』（アルテスパブリッシング、2018 年 7 月 25 日）所収

④社会活動

1. 出張授業「EU とは何か」（愛知県立尾北高等学校、2018 年 2 月 8 日）
2. 出張授業「ドイツ語入門」「ドイツのクリスマス」（愛知県立豊田東高等学校、2018 年 11 月 12 日）

⑤教育改革に関わる実績

1. 愛知文教大学人文学部長としてカリキュラム委員会委員長を務め、ディプロマ・ポリシーの改正と学習到達目標の明確化に取り組む。

遠藤 康

③研究発表

1. 「古典ヨーガとハタ・ヨーガ」日本南アジア学会設立 30 周年記念連続シンポジウム仙台大会“南アジアにおける表象と身体”における発表
2018 年 5 月 26 日東北大学川内キャンパス

④社会活動

1. 東海印度学仏教学会理事・幹事
2. 公益財団法人中村元東方研究所東方学院中部校講師（「サンスクリット語初級」担当）

⑤教育改善に関わる業績

1. 愛知文教大学人文学部自己点検評価委員会委員として認証評価後の改善作業に参加。

2. 愛知文教大学大学院国際文化研究科長として大学院学生指導資料の改善を担当。

畠山 大二郎

①

1. 高橋良久・畠山大二郎「ICT を活用した絵巻物による古文指導法—古文に親しませるために—」『教育研究』第8号 平成30年(2018)2月28日
2. 「源氏物語巻別古注集成第35帖若菜下十」『國學院大學栃木短期大学紀要』(國學院大學栃木短期大学)第52号 平成30年(2018)3月10日 林田孝和・國學院大學物語文学研究会編 補訂担当 97～121頁

③

1. 「国宝『源氏物語絵巻』における装束」國學院大學國文學會一月例会(於・國學院大學渋谷キャンパス) 2018年1月20日

④

1. 「平安の女性装束(2)—謎の装束「細長」—」朝日カルチャーセンター(於・横浜教室) 2017年12月16日
2. 「源氏物語絵巻の方法—物語を象〈カタド〉るということ—」芸術を巡る物語(於・アート倶楽部カルチェ・ラタン(愛知県名古屋市)) 2018年1月14日
3. 「大奥の衣装」NHK カルチャー(於・NHK 文化センターさいたまアリーナ教室) 2018年3月16日
4. 「平安の男性装束—光源氏の直衣(のうし)姿—」朝日カルチャーセンター(於・横浜教室) 2018年3月30日
5. 「浮舟の装束—生地という観点から—」写本で読む源氏物語(於・川崎市総合自治会館) 2018年8月6日
6. 「平安の男性装束—光源氏の夏の直衣姿—」朝日カルチャーセンター(於・横浜教室) 2018年9月8日

7. 「直衣姿の頭中将」 國學院大學オープンカレッジ「週末の『源氏物語』講座（夕顔篇 3）」（於・國學院大學渋谷キャンパス）2018 年 9 月 22 日
8. 「平安の女性装束～女性の正装・裳唐衣～」 朝日カルチャーセンター（於・横浜教室）2018 年 11 月 3 日
9. 見て触れて知る『源氏物語』―「女君の扇」と装束体験―①「女君の持つ扇 一扇の本当の意味―」 小牧市民文化財団大学連携講座（於・小牧市公民館）2018 年 11 月 11 日
10. 服飾美学会 監事
11. 全国大学国語国文学会 編集委員
12. こまき市民文化財団 理事
13. 特定非営利活動法人〈源氏物語電子資料館〉副代表理事

早川 渡

①

1. 「アプリ開発とスマートスピーカーについて」（『愛知文教大学論叢』第 21 卷，2018 年 11 月）

金丸 千雪

①

1. 「エリザベス・ギヤスケルと大英帝国：『女だけの町』から『ルース』まで」（『愛知文教大学論叢』第 21 卷、2018 年 11 月）

勝股行雄

①

1. 「国際理解への取り組み」『愛知文教大学論叢』第 20 卷，2018 年 3 月

④

1. 「現代世界の中の英語」（出張講義，瀬戸北高校，2018 年 3 月 19 日）
2. 愛知県商業高校スピーチコンテスト審査員（於一宮商業高校，2018 年

10月20日)

3. 愛知県立学校評議員 (2018年4月1日～)

小林正樹

①

1. 『課題の告知時期に関する教員の意味決定』, 小林正樹, 愛知文教大学比較文化研究・愛知文教大学, 査読有, 第15巻, 2018年.
2. 『大学の中退学に関するデータ分析ー学生が持つ授業イメージからのアプローチ』, 小林正樹, 愛知文教大学論叢・愛知文教大学, 査読無, 第21巻, 2018年.
3. 『学生の自発型 L-learning の提案～授業におけるオラリティとリテラシ, 対面授業と ICT 利用のバランスに関する考察』, 小林正樹, 龍谷大学経営学論集・龍谷大学経営学会, 査読有, 第58巻1号, 2018年.
4. 『ICT 教育におけるバランスと L-learning の提案』, 小林正樹, 愛知文教大学教育研究・愛知文教大学, 査読有, 第8巻, 2018年.

③

1. 『学生自発型 L-learning のための ICT 活用試行』, 私立大学情報教育協会・平成30年度教育改革 ICT 戦略大会, アルカディア市ヶ谷, 2018年9月.
2. 『大人数授業時における学生自発型 LIVE 授業～ manaba course の効果的な利用』, 龍谷大学経営学会経営情報教育研究部会, 龍谷大学深草キャンパス, 2018年1月.

④

1. 『高校生のための意思決定論入門』, 伊那西高等学校出張授業, 2018年11月.

⑤

1. 『龍谷大学 2018 年度自己応募研究プロジェクト「大人数授業時におけ

る学生自発型 LIVE 授業へ向けた manaba course の活用』』採択.

黒田 敏数

①

1. 「Baseline response rates affect resistance to change」『Journal of the Experimental Analysis of Behavior』第 109 巻, 2018 年
2. 「Response acquisition by zebrafish (*Danio rerio*) with delayed reinforcement」『Journal of the Experimental Analysis of Behavior』第 109 巻, 2018 年
3. 「Relative effects of reinforcement and punishment on human choice」『European Journal of Behavior Analysis』第 19 巻, 2018 年
4. 「Behavioral control by the response-reinforcer correlation」『Journal of the Experimental Analysis of Behavior』第 110 巻, 2018 年
5. 「A system for the real-time tracking of operant behavior as an application of 3D camera」『Journal of the Experimental Analysis of Behavior』印刷中

③研究発表

1. 「Differential reinforcement of other behavior: An experimental analysis of adventitious reinforcement」Autism Conference, the 12th annual meeting, 2018 年 2 月
2. 「実験制御機器の IoT 化」日本行動分析学会若手会春の学校、2018 年 3 月
3. 「A system for real-time 3D tracking of operant behavior」Society for Quantitative Analyses of Behavior, the 41st annual meeting, 2018 年 5 月
4. 「Punishment of zebrafish (*Danio rerio*) approach behavior with the motion picture of their predator」Association for Behavior Analysis

International, the 44th annual meeting, 2018 年 5 月

5. 「Baseline reinforcement rate increases both resistance to extinction and resurgence of operant behavior in zebrafish」
Association for Behavior Analysis International, the 44th annual meeting, 2018 年 5 月
6. 「ゼブラフィッシュにおける軽い電気ショックの罰効果」日本行動分析学会第 36 回年次大会、2018 年 8 月
7. 「現実世界で行動の持続をどう制御するか？」日本行動分析学会第 36 回年次大会、2018 年 8 月

④

1. 京都大学霊長類研究所および公益財団法人日本モンキーセンター（愛知県犬山市）とのデグー（*Degus Octodon*）についての連携研究、2016 年 1 月～現在
2. 日本行動分析学会若手会委員 2017 年 4 月～現在

馬燕

①

1. 「康有为の留学教育思想」（『愛知文教大学比較文化研究』第 15 号、2018.11）

②

1. 「現代教育における康有為教育思想の伝承」（共訳、『愛知文教大学教育研究』第 8 号、2018.3）
2. 「康有為の留学教育思想」（『愛知文教大学論叢』第 21 号、2018.11）

⑥

1. 2015～2019 年度科学研究費助成金基盤研究（C）「東アジア近代化の地域論的比較思想研究 —新出の康有為自筆資料に見る 21 世紀的課題—」、課題番号 15K02036、研究分担者

松岡みゆき

①

1. 『『あ』の中核的機能とその外延的事象について』『名古屋大学日本語・日本文化論集』第 25 号、pp. 37-57、名古屋大学国際言語センター

中島 淑子

④

1. 平成 30 年 1 月 19 日、四日市にて行われた「社会科の初志をつらぬく
会-個を育てる教師のつどい」の東海研究集会の A 分科会の研究協力者として出席した。

小川 現樹

④

1. 2017 年 12 月 岐阜市 市立小学校「キャリアの授業」外部講師
2. 2017 年 12 月～2018 年 2 月
岐阜県中小企業診断士協会 平成 29 年度経営指導員向け小規模事業者支援研修 講師
福井県中小企業診断士協会 平成 29 年度経営指導員向け小規模事業者支援研修 講師
3. 2017 年 12 月～ 厚生労働省 平成 29.30 年度高校生就職ガイダンス 講師
4. 2018 年 4 月～ 岐阜市特別職職員（水防）
5. 2018 年 8 月 岐阜労働局 平成 30 年度若年者地域連携事業 講師
6. 2018 年度 中部学生就職連絡協議会連合会 特別会員

Phillip Riccobono

①

1. Riccobono, P.S. (2018). *PragCast*: Introducing the Podcast of Pragmatics SIG.

Pragmatics Matters, (53), 4-6.

2. Riccobono, P.S. (2018). Practicality Check: Utilizing the Eclectic Approach Versus Analysis of Various Approaches to ELT. *Aichi Bunkyo University*, 8, 31-35.
3. Riccobono, P.S. (2017). Project sportscaster: A reading aloud activity using media assisted language learning to assess Korean English learners intonation of sports announcer talk. *STEM Journal*, 18(4), 181-208.
4. Riccobono, P. S. (2017). The Impact of Instructional Design Strategies as a Conduit to Curiosity for Korean University EFL Students. *Studies In English Education*, 22(1), 143-191.

③

1. Corpora Construction: Executing Balance and Representativeness. Osaka JALT Tech Day +, Osaka, Japan, September 29, 2018.
2. Building a Corpus for Baseball English. American Association of Corpus Linguistics, Atlanta, Georgia USA, September 21, 2018.
3. Towards English for Baseball Purposes. Japan Center for Michigan Universities 2018 Symposium, Shiga, Japan, May 26, 2018.
4. Smartphones and their Efficacy on Learning Reading, Writing, Speaking and Listening. Osaka JALT Back to School 2018, Osaka, Japan, May 12, 2018.
5. KakaoTalk: Examining University Students' Attitudes Toward Using Mail During a Problem Based Learning Activity. Thailand TESOL 2018, Chiang Mai, Thailand, January 27, 2018.

西口 智也

①

1. 論文「高等学校国語科の漢文学習における押韻と平仄を活用した漢詩指導の可能性」(『愛知文教大学 教育研究』第8号、2018年2月)

2. 論文「愛知文教大学におけるルーブリックへの取り組み ― 自己評価アンケート（外国語分野）の試行 ―」（『愛知文教大学論叢』第 21 巻、2018 年 11 月）

④

1. 出張授業「中国語で自己紹介をしてみよう」（於：愛知県立稲沢高等学校、2018 年 1 月 25 日）
2. 出張授業「中華料理を注文してみよう」（於：愛知県立稲沢高等学校、2018 年 1 月 25 日）
3. 出張授業「中国語による漢詩の音読」（於：愛知県立南陽高等学校、2018 年 2 月 9 日）
4. 出張授業「中国語入門～漢詩を中国語で音読してみよう～」 （於：愛知県立岩倉総合高等学校、2018 年 5 月 16 日）
5. 出張授業「注音符号で学び直す中国語発音」（於：愛知県立南陽高等学校、2018 年 9 月 6 日）
6. 出張授業「台湾中国語で自・日本聞一多学会 理事
7. 全国漢文教育学会 評議員己紹介」（於：愛知県立中川商業高等学校、2018 年 9 月 11 日）
8. 日本聞一多学会 理事（継続）
9. 全国漢文教育学会 評議員（継続）

佐藤 良太

①

1. 「泉鏡花『外科室』―〈社会〉と〈恋愛〉の間」（愛知文教大学『比較文化研究』第 15 巻、2018 年 11 月）

④

1. 「森鴎外『舞姫』と芥川龍之介『蜘蛛の糸』―苦悩する〈自我〉」（高
大連携：伊那西高等学校 2018 年 10 月 18 日）

2. 「漱石・鴎外の〈ラブレター〉」(学校法人上田学園 上田西高等学校
2018年11月6日)
3. 佛教大学総合研究所査読委員(2018年10月)
4. 日本キリスト教文学会関西支部運営委員(2014年7月～至現在)
5. 阪神近代文学会『阪神近代文学』編集委員(2015年7月～至現在)

高橋 良久

①

1. 「ICTを活用した絵巻物による古文指導 ―古文に親しませるために―」(『愛知文教大学教育研究』第8号 2018年2月) 高橋良久・畠山大
二郎共著
2. 「古文教授方法論③——補助符号の使用とレイアウトの工夫による古文
学習」(『愛知文教大学論叢』第21号 2018年11月)

④

1. 第63回青少年感想文全国コンクール中央審査員

竹中 烈

①

1. 「後期近代社会におけるフリースクール運動―「教育機会確保法」の
成立に着目して」(『愛知文教大学論叢』20巻)

③

1. 日本教育社会学会第70回大会口頭発表「フリースクール的な価値を基
にした不登校支援の実際」(平成30年9月4日：佛教大学)

④

1. 小牧市社会教育委員(副会長)(2016年4月1日～)
2. 小牧市市民活動促進委員(2017年4月1日～)
3. 教員免許更新講習講師(愛知文教大学)

富田 健弘

④社会活動

1. 小牧市国際交流協会 理事 (2015 年 5 月～)
2. 小牧市文化財啓発事業調査研究受託委員会 委員 (2014 年 5 月～)
3. 羽島市社会福祉法人万灯会評議員選任・解任委員会外部委員 (2017 年 4 月～)
4. 社会福祉法人養徳福祉会ハチスチルドレンズセンター外部委員 (2017 年 4 月～)
5. ぎふ羽島ふるさと福祉村 村長 (2018 年 4 月～)

Troy Miller

③

1. TESOL 2018 International Convention, “University L2 Learners Recommend Their Favorite Online Learning Sources and Smartphone Applications” March 2018, Chicago.

辻 千春

①

1. 「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (6) —朝鮮人美術家による日本の創作版画の修得とその展開について—」(『名古屋大学博物館報告』No.33, 41-59pp, 2018. 3. 31)

③

1. 第 16 回中国語教育学会 (於：早稲田大学) ポスター発表 (2018. 6. 3)
テーマ：『中国語ポートフォリオ』+カリキュラム+CC ラウンジ
(Chinese Communication Lounge)」—愛知文教大学中国語教育改革プロジェクト：中国語学修意欲の維持・継続と中国語運用能力養成のための
‘能動的教育’の実践例として」

④

1. 2015-2017 年度科学研究費補助金基盤研究(C) (2015. 4. 1-2018. 3. 31)
「空白の美術史、植民地期朝鮮における創作版画の展開についての研究」
(課題番号 15K02181、研究代表者)
2. 文部科学省 SPH 事業「コミュニケーション能力向上のための中国語
会話指導法の研究委託による名古屋市立商業高等学校における中国語会
話指導 (2017. 4-2018. 1)
3. 名古屋大学博物館第 37 回企画展 (2018. 2. 6-5. 12)「春を迎える一年画
に込められた願いと意図」の展示協力及び指導
4. 愛知県小牧警察署国際化問題アドバイザー

内田 吉哉

①

1. 論文「大阪市史編纂所所蔵の牧村史陽氏撮影写真について—資料的価値の検討とデジタルアーカイブ化の手法—」(『大阪の歴史』第 87 号、
大阪市史編纂所、2018 年 10 月)

④

1. 高大連携出張授業「『尾張名所図会』で読む小牧の歴史」、2018 年 11
月 8 日、於・愛知県立小牧高等学校
2. 講演「昭和の都市文化を考える —写真・絵葉書のデジタルアーカイ
ブから—」、川西市生涯学習短期大学文化遺産学科、2018 年 11 月 10 日
(土)、於・アステ市民プラザ (兵庫県川西市)

(<https://www.coc.kyoto-u.ac.jp/>)

- (4) 名古屋学院大学COO事業「地域の質」を高める「地」域連携・「知」識還元型まち育て事業」における「歴史観光まちづくりプロジェクト」については以下のURLに詳しい。

<https://www.ngu.jp/and-n/history-tourism/town-planning/>

- (5) 名古屋学院大学シラバス(二〇一八年度)による。

- (6) 国土地理院「地理院地図(電子国土Web)」のURLは以下の通り。<https://maps.gsi.go.jp/>

近年、大学が果たすべき役割として社会貢献・地域連携の必要性が掲げられ、そのアプローチの一つとして大学所在地の地域史・地域文化に関する教育・研究が取り上げられている。しかしながら、地域の歴史や文化を網羅する教育プログラムでは、カバーすべき分野が多岐にわたるため、その授業構成は複数の講師によるオムニバス形式にならざるを得ない。そのため、個々の各論的内容を総括する教育的工夫が必要となる。

また本学に限らず、大学の所在地と受講生の居住地とが一致することは少ないことが予測される。一方で歴史学は地理的要素と不可分の関係にあり、その傾向は地域史・地域文化において一層顕著となる。そのため、「土地勘のない学生」に対して教育を行う際には、地理的情報に関する知識の不足を補う工夫が必要であると考えられる。

これらの問題点に対して、本論では二〇一八年度の「郷土の歴史と文化」科目において試みた、地理的情報を補足する総括の内容を紹介した。「郷土の歴史と文化」科目は、その授業内容の多くを外部講師による各論で構成するため、毎年度の授業構成は流動的になりがちではある。しかし今年度試みたように、今後也可能な限り機会をとらえて総括的な授業内容をはさみ、学生に対する授業目的を明確に示す教育的工夫に取り組みたい。

注

- (1) 愛知文教大学シラバス(二〇一八年度)による。
- (2) 愛知文教大学シラバス(二〇一八年度)による。
- (3) 京都大学COC事業「KYOTO未来創造拠点整備事業―社会変革期を担う人材育成」

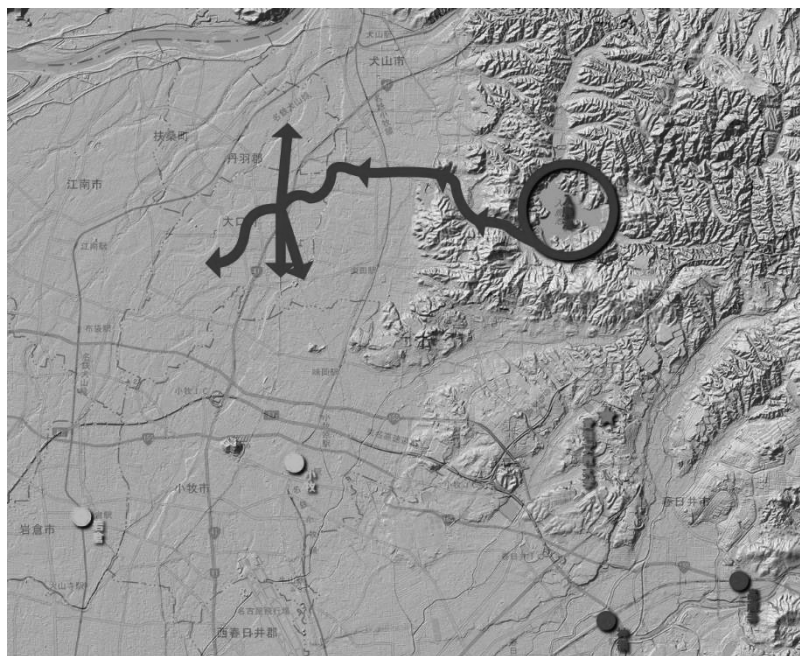


図9 入鹿池とその氾濫経路（「地理院地図（電子国土Web）」による）

砦の位置を示したものが【図8】となる。

最後に、文献史学的分野で取り上げられたのが、尾張地域の農業において広く水利に用いられてきた入鹿池に関する古文書・古記録である。入鹿池の所在地は、厳密には犬山市に属するが、小牧市の多くがその水利範囲となっているため、小牧の地域史において果たす役割は大きい。とりわけ明治元年（一八六八）に発生した「入鹿切れ」と呼ばれる水害では、入鹿池の氾濫によって小牧市内にも大きな被害があった。授業においてこの入鹿切れの被害について取り上げた回があったためその反乱経路を地図上で示したものが【図9】である。

5. 小結

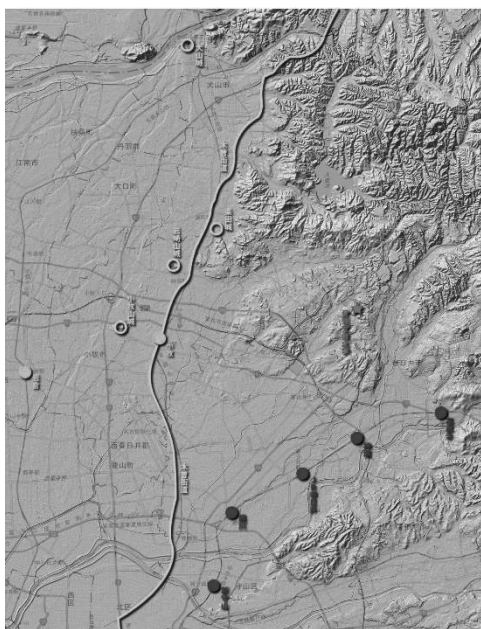


図8 小牧市内の街道と城跡

(「地理院地図 (電子国土 Web)」による)

これらの史跡の所在状況を、地形の高低差を強調した地図上でマッピングしたものが【図6】である。地図上で示すことによって、古代の窯跡が丘陵地に、寺院が山岳部に、あるいは城郭が地形を利用した平山城として設けられたものであることが確認できる。また、愛知文教大学の所在地および、多くの学生が通学に利用する高蔵寺駅との位置関係から、普段の通学で目にするのではない小牧市域にこれらの史跡が存在していることも理解できよう。

次に、民俗学的分野において取り上げられた史跡だが、御嶽信仰・大師信仰・観音信仰と、いずれも小牧市内における民間信仰に関するものとなっている。これらは市内における寺院または祠がその調査対象となるが、それぞ

れの点在状況を記した地図が【図7】となる。

各史跡の所在地に際立った特徴はないが、二〇一八年度「郷土の歴史と文化」受講生に小牧市在住者が少ないことから、市内における分布状況を図示することで講義の理解の補助になると考えられる。

地誌的な内容を扱う際に取り上げられたのは、木曾街道と小牧・長久手の戦いである。小牧市内を南北に走る木曾街道の位置と、小牧・長久手の戦いにおいて使用された城郭・

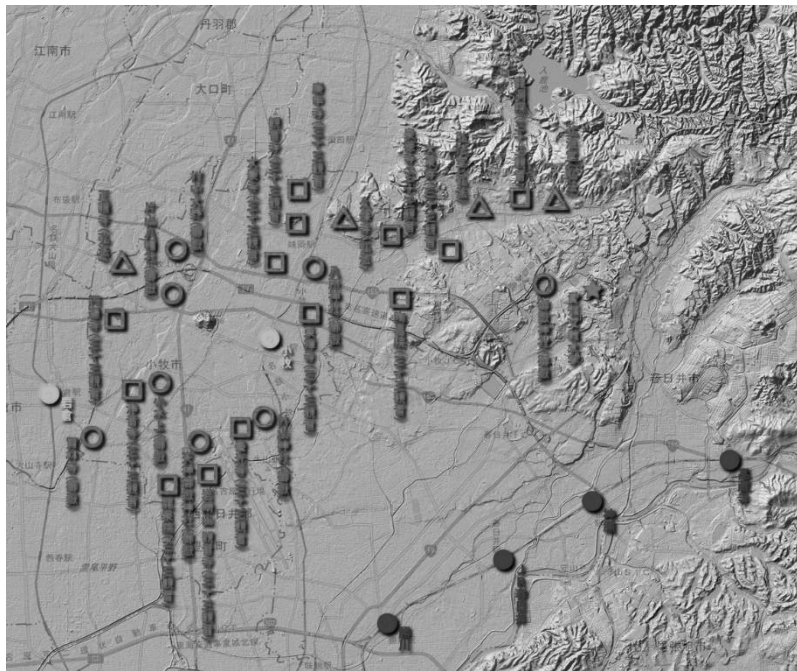


図7 小牧市内の民間信仰（「地理院地図（電子国土 Web）」による）

め、そのための新しい本拠地として築かれたのが小牧山城である。その築城は永禄六年（一五六三）のこととされるが、織田信長はそのわずか四年後の永禄一〇年（一五六七）には美濃を平定して本拠地を岐阜城に移したため、以後は廃城となった。本拠地としての使用期間が短かったこと、築城の目的が美濃攻略のための前進基地的な性格が濃厚であったことから、小牧山城は従来、一時的な城塞程度のものであるとの認識が強かった。ところが近年の発掘調査により、本格的に石垣を築いた城郭であることが判明し、織豊期の城郭史を塗り替える可能性のある城として一躍注目を集めている。小牧山城は、市内平坦部に突出した小牧山の地形を利用して築城されている。

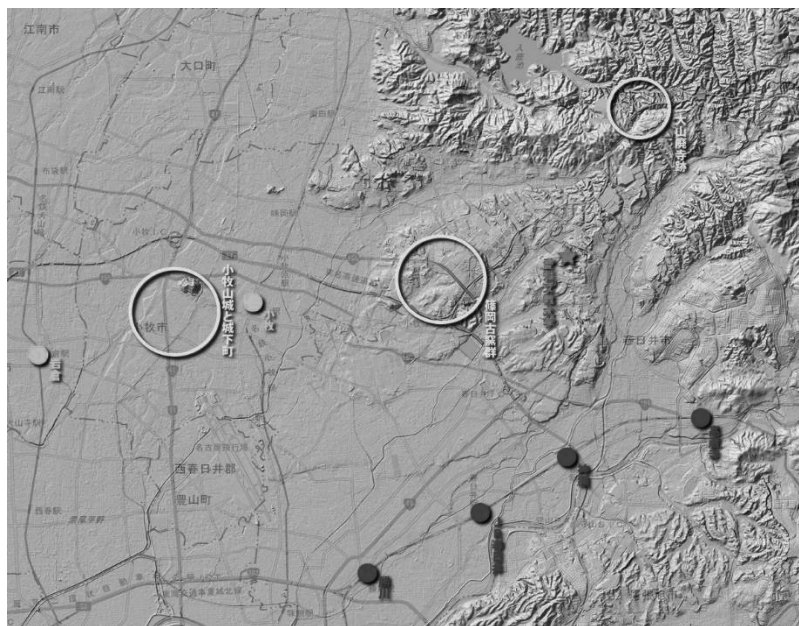


図6 小牧市内の考古遺跡（「地理院地図（電子国土 Web）」による）

篠岡古窯跡群は、古代に使用された須恵器・陶器の生産地であるが、製陶に関しては丘陵地の斜面を利用して窯が形成されている。そのため、小牧市内の平坦地ではなく東部の丘陵地帯、現在の桃花台ニュータウン近辺に遺跡が存在している。発見についても、一九七〇年代に桃花台ニュータウン開発のために土地造成をおこなった際に出土したという経緯を持っている。

大山廃寺跡は、七世紀に創建されたとされる古代寺院の跡である。一五世紀に廃絶したとされるが、その立地は小牧市の北東部にあたる山中にあり、古代寺院のあり方をよくあらわしているといえる。

小牧山城は、かつて織田信長の居城として使用されていた城跡である。尾張国を統一した織田信長が、次の目標を尾張の北にある美濃に定

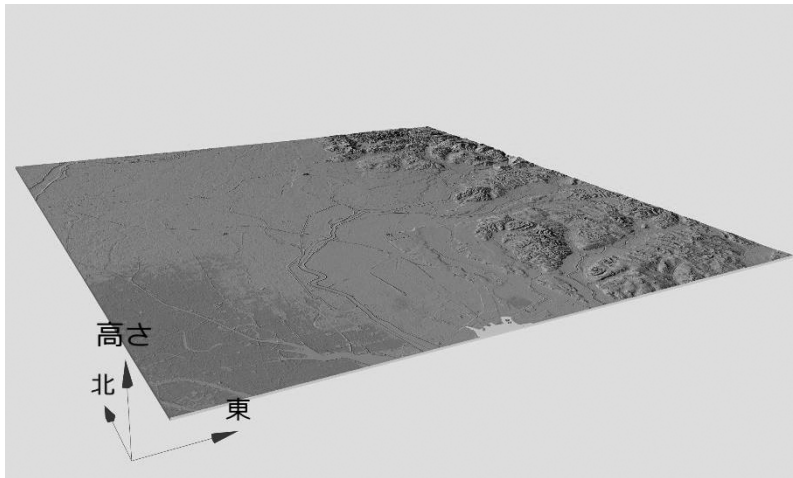


図5 「地理院地図（電子国土Web）」による「3D表示

力することも可能である。3D化した地図は方向・角度を自在に調整することができ、またその表示結果を画像ファイルとして出力することもできる【図5】。今回のように山・丘・台地等の高低差を重視する目的の場合には、3D化した地図はきわめて有効であるといえる。以下、考古学・民俗学・地誌・文献史学それぞれの分野において紹介された小牧市内の史跡について、「地理院地図（電子国土Web）」上に史跡をマッピングした画像を提示しながら、二〇一八年度の「郷土の歴史と文化」で行った試みについて紹介する。

（3）「郷土の歴史と文化」の総括としての地理情報の確認
まず、考古学的分野において取り上げられた史跡について、地図上で確認したものが【図6】である。この分野において取り上げられた史跡は、篠岡古窯跡群・大山廃寺跡・小牧山城であるが、これらはいずれも自然地形に大いに依存して成立したものである。

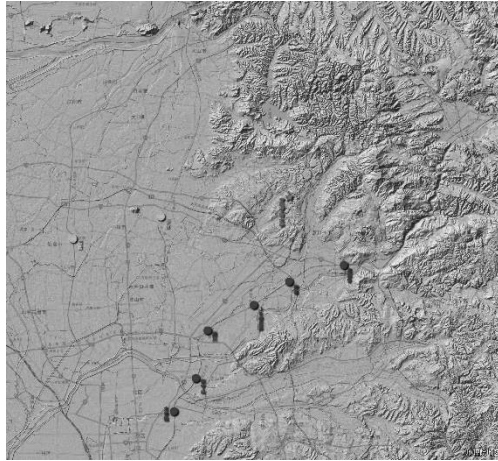


図4 「地理院地図（電子国土 Web）」小牧市
付近（国土地理院）

理解させるために、②の「起伏を示した地図」を使用し、現在の地図と重ねて小牧市域を表示した。さらに愛知文教大学の所在地と、主要鉄道駅的位置をマッピングし、「天保国絵図尾張国」との対比によって古地図と現代地図の差異を示した【図4】。

国土地理院「地理院地図（電子国土 Web）」は、ブラウザ上で表示した地図データを3Dグラフィックとして出

- ②起伏を示した地図（色別標高図、陰影起伏図、アナグリフ等一〇種）
 - ③土地の特徴を示した地図（活断層図、土地条件図、湖沼データ、植生データ等一一種）
 - ④地図の更新情報や提供地域等
 - ⑤基準点・測地観測
 - ⑥地震、台風・豪雨等、火山
 - ⑦指定緊急避難場所
 - ⑧地理教育の道具箱
 - ⑨他機関の情報
 - ⑩ベクトルタイル提供実権
- これらの提供データのうち、自然地形と史跡の位置関係を

寺社等については、現在の地図上で位置を確認する必要がある。ここで一つ問題となるのは、城郭や寺社などでは山・丘・台地等の自然地形を利用した立地であるケースが少なくないことである。そのため、土地の高低差を視覚的に確認しやすい地図が望ましい。

そこで、今回の試みでは、国土地理院がインターネット上で公開している「地理院地図（電子国土Web）」を利用した^{6）}。これは国土地理院の「電子国土基本図」をベースとして、その上に様々な地理情報を重層的に表示することが可能なサービスである。二〇一八年現在、提供される地理情報には次のようなものがある。

①年代別の空中写真・衛星画像写真（一九三六年頃から最新状況まで一〇段階）

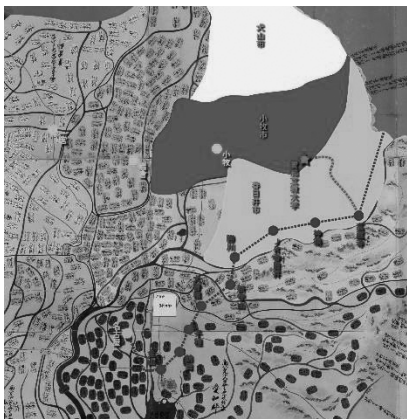


図3 「天保国絵図尾張国」に現在の情報をマッピングした例（部分、国立公文書館蔵）

意識させることをめざした。なお、こうした前近代の古地図の多くは、現在の地図とは作図方法や測量の精度が大幅に異なるため、現代地図をそのまま重ね合わせての比較を行うことは不可能である。そのため、本図では古地図に記載される村落の位置から現在の地理における鉄道駅的位置を推定した。

（2）国土地理院「地理院地図（電子国土Web）」の活用
一方で、「郷土の歴史と文化」の講義内で登場した史跡・

(1) 「天保国絵図尾張国」における現代の地理情報の確認

歴史的事象を地図に落とし込んで解説する上で、現代の地図と古地図を併用する必要がある。今回の「郷土の歴史と文化」科目における試みでは、まず前近代の愛知県西部（尾張国）をあらわす地図として、天保年間（一八三〇～一八四五）に作成された「天保国絵図尾張国」（国立公文書館所蔵）を利用した【図2】。「天保国絵図」は、江戸幕府の命により作成された、旧分国ごとの絵図である。江戸時代を通じて、慶長・正保・元禄・天保の四次にわたって全国規模での作図が命じられたが、「天保国絵図」はその最後の事業にあたる。近世絵図の中では新しい時期のものであるため、古代の遺跡である篠岡古窯跡や、中世末期に廃絶した寺院の遺跡である大山廃寺跡、織豊期の

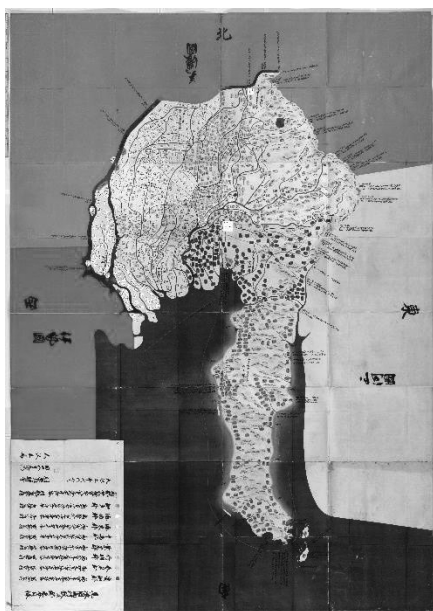


図2 「天保国絵図尾張国」

（国立公文書館蔵）

合戦である小牧・長久手の戦い等について解説するには適当ではないが、大学の所在地や各鉄道駅、スクールバスの走行路など、現代の地理情報を古地図に当てはめて確認する目的においては有効であると考えた【図3】。愛知文教大学が所在する小牧市付近を中心に、大学への通学ルートに関連する鉄道駅等のポイントをマッピングし、受講生に現在の地理と歴史的な地理情報との共通点および相違点を

を含まざるを得ない。そもそも歴史学そのものが、必ず地理的要素が付随するものであるともいえる。仮に歴史学における研究テーマを「政治史」・「文化史」・「経済史」・「科学技術史」等に細分化したとして、その個々の研究内容は常に「どここの場所（国・地域・都市等）」という条件がつきまとうことになる。

そのため、大学において歴史学を学ぶことができる学部では、歴史学と地理学をあわせて一つの学科として編成するケースもある。現在、歴史学と地理学を一つの学科として編成している大学は、明治大学（文学部史学地理学科）・国士舘大学（文学部史学・地理学科）・愛知大学（文学部人文社会学科 歴史・地理学コース）・中部大学（人文学部歴史地理学科）などがある。

4. 「郷土の歴史と文化」科目における地理的情報の補足

そこで二〇一八年度の「郷土の歴史と文化」春期における「小牧の歴史と文化」では、第一五回目の授業にて各分野の授業の総括をおこない、大学において所在地の地域史を学ぶ意義および、小牧市の地域史に関する地理的情報の補足を講義することで、学生の理解度向上を試みた。

大学における所在地の地域史を学ぶ意義については、本稿第二章に述べた内容を授業においても講義したが、地理的情報の補足については、各講師の講義内容別に地図を作成し、大学および通学に利用する駅との位置関係を図示しながら分野ごとの総括をおこなった。以下にその具体例を紹介する。

といえよう。

3. 歴史学の講義における地理的要素

さて、そこで愛知文教大学「郷土の歴史と文化」のカリキュラム構成であるが、春期に小牧市の歴史と文化を学ぶことになっており、歴史学の分野ごとに四名の講師を招いてそれぞれ三回から四回の講義をおこなう形式で進められる。各分野の構成は、考古学・民俗学・地誌・文献史学に分けられる。いずれも小牧市内の地域史を対象とし、考古学では市内に存在する篠岡古窯跡群・大山廃寺跡・小牧山城の考古発掘、民俗学では御嶽信仰・大師信仰（弘法大師）・観音信仰（尾張三十三観音霊場）、地誌では木曾街道・小牧長久手の戦い・小牧山と岩崎山、文献史学では小牧市内にある入鹿池と木津用水に関する歴史を、関連する古文書から学ぶという内容になっている。

ところが、ここで問題となるのが、これらの講義内容で扱われる地域と小牧市内における本学の所在地との乖離である。本学学生の多くはスクールバスを利用して通学することになるが、スクールバスの路線で最も利用者が多いのはJR中央線・高蔵寺駅（春日井市）からの便であり、その走行ルートもほぼ春日井市内となっている。先述したように「郷土の歴史と文化」の受講生の出身・居住地も多くは小牧市以外となっているため、学生には小牧市について、いわゆる「土地勘」がない者が多数である。このため、授業において小牧市内の特定の地区を指す用語が出た際に、土地勘のなさが学習を困難にする要因となることが予想される。

大学において、特定の地域の歴史・文化についての科目を設定する場合、その内容はどうしても地理学的な要素



図1 「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」ウェブサイト

産業等を対象としたフィールドワークや、「歴史観光まちづくり」と題した授業がある。「歴史観光まちづくり」科目では、地域の歴史的な文化遺産を観光産業に活用できる地域資源として位置づけ、まちづくりに貢献する人材を育成することを目的としている⁽⁵⁾。

このように、大学に社会貢献が求められるようになって以降、多くの日本の大学では、所在地近辺の地域課題への取り組みが行われることになった。地域課題の解決の方策を探るなかで、地域の魅力を再発見することが求められ、そのアプローチの一つとして、地域の歴史と文化の学術的検証が取り上げられたのである。

大学における社会貢献を、まちづくり・地域振興を中心として考えたときに、地域に歴史的に蓄積されてきた文化遺産は、観光を中心とする地域資源として有望であると目される。日本政府においても、国土交通省の外局のひとつである観光庁が、二〇一七年に「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」を設置し、意欲のある地域の取組を官民一体で支援する体制を打ち出した【図1】。大学における社会貢献の役割を、教育・研究成果の地域への還元としてとらえた場合、人文系の学部学科を持つ大学においては、地域史・地域文化は有力なアプローチの一つである

推進できる人材の育成に取り組み、インターンシップ等の教育プログラム・研究会やシンポジウム等の実践プログラムを展開している。さらに静岡大学では、COC+事業「静大発“ふじのくに”創生プラン」として、地域資源を活用して新たな豊かさを生み出せる人材の育成を目標に掲げている。とりわけ静岡大学では、静岡県が人口流出数全国ワースト二位であることを最大の地域課題と位置づけ、キャリアデザインやインターンシップ等の活動を通じて若年層人口の流出を食い止め、地域への定着を促進することを重視した活動をおこなっている。

なお、国立大学がおこなう大学COC事業の中で、注目を集めた事例としては、京都大学の「KYOTO未来創造拠点整備事業―社会変革期を担う人材育成」（通称…COCOLO域）がある。地域との連携を重視する大学COC事業では、その担い手は主として地域との結びつきの強い地方国立大学であり、大都市圏にある国立大学が参画することは少なかった。それだけに京都大学が、所在地である京都の地域課題に取り組む姿勢を見せたことは、COC事業としては珍しい事例であつたといえる。京都大学自身も、大学COC事業のウェブサイトの中で「なぜ京大がCOC事業を？」と題して、日本中から学生を集める全国型大学である京都大学が、あえて所在地の地域課題に取り組むことの趣旨を説明している⁽³⁾。

東海圏の私立大学の事例では、中部大学、名古屋学院大学、四日市大学等で大学COC事業あるいはCOC+事業として、地域連携を軸とした社会貢献活動を展開している。このうち名古屋学院大学では、大学COC事業「地域の質」を高める「地」域連携・「知」識還元型まち育て事業における地域づくり研究において、アプローチのひとつに歴史観光をテーマとした取り組みをおこなっている⁽⁴⁾。その活動内容としては、地域の神社や城郭、伝統

このうち、傍線部①と②についてはそれぞれ、従来から高等教育機関が担ってきた教育と研究の役割について規定するものである。傍線部③は、高等教育機関における教育と研究の成果を社会に還元することを規定しており、これが大学における地域連携を推進する必要性の根拠となっている。

大学の教育・研究成果をもとにした社会貢献のための指針として、総務省によって二〇一〇年二月から「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク」が設立され、また二〇一二年度からは「域学連携」地域づくり実証研究事業」が実施された。さらに文部科学省からは、域学連携を推進する事業として、「地（知）の拠点整備事業」（通称…大学COC事業）が二〇一三年度から、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（通称…COC+）が実施されている。政府によるこうした指針のもと、国内の各大学で、域学連携をめざす事業が展開された。以下にその事例をいくつか紹介する。

東海圏の大学では、まず岐阜大学・三重大学・静岡大学等の国立大学による活動がある。それぞれ文部科学省による大学COC事業あるいはCOC+事業として採択されたものである。岐阜大学では、域学連携に対応する組織として地域協学センターが置かれ、その活動目的として、「次世代地域リーダーの育成」（教育）・「地域志向学の推進」（研究）・「多様な人びとが集い議論する『場』（ぎふフューチャーセンター）の形成」（社会貢献）が掲げられる。COC+事業としては、「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」として、岐阜の次世代地域リーダーの育成を目的とする活動を展開している。また三重大学では、COC+事業「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」において、地域課題に対して多面的な視点から地域イノベーションを

住・出身となっており、そのため成績評価のために学生に課したレポートからは、歴史学や伝統文化についての知識を学ぶことについての楽しさは感じているものの、「なぜ大学所在地の歴史と文化を学ぶのか」というテーマ設定の意義についての理解は高くないという印象を受けた。

そこで本稿では、「郷土の歴史と文化」の春期に行われる「小牧の歴史と文化」について、大学のカリキュラムで地域の歴史と文化を学ぶ意義を確認し、その効果的な教育手法についての考察をおこなう。具体的には、まず国内の大学において歴史学をベースとした社会貢献・地域連携の実例を検討し、さらに本学で二〇一八年度に実施した「小牧の歴史と文化」の講義において試みた、地域の歴史と文化に関する学生の理解度を向上させる取り組みについて考察を加える。

2. 大学における社会貢献と地域連携

現在、日本の多くの大学で、大学と地域の連携を意識した取り組みが行われている。大学における地域連携の必要性が重視されることになったのは、二〇〇六年に施行された教育基本法改正によるところが大きい。改正された教育基本法では、第七条（大学）において、高等教育機関が果たすべき役割について記されている。

「教育基本法 第七条（大学）」

大学は、学術の中心として、^①高い教養と専門的能力を培うとともに、^②深く審理を探究して新たな知見を創造し、^③これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。（傍線部は内田）

地域史教育における地理情報の補足に関する試論

内田吉哉

1. はじめに

愛知文教大学におけるカリキュラムのうち、日本文化の理解を目的とする基礎教養科目として、「郷土の歴史と文化」が開講されている。この科目は、授業の概要と目的として、以下の三つが設定されている⁽¹⁾。

①郷土の歴史、文化を学ぶ。

②郷土の歴史、文化を知り、郷土に対しての理解を深める。

③歴史、文化の複数の分野の講義により学習する。

また、学習到達目標として、「郷土の歴史、文化の理解を深め、歴史、文化の継承についての問題意識を持つことができるようになる」ことを設定している⁽²⁾。この科目は春秋と秋期でそれぞれ扱う地域を区別し、春秋に「小牧の歴史と文化」、秋期に「犬山の歴史と文化」という副題・テーマが設定される。

しかし、本学の学生の居住地・出身地は必ずしも小牧市・犬山市ではないため、学生にとっては、これらの地域史や文化を、「郷土」という言葉を冠した科目として学ぶことについて、どれほどの理解がなされているのか、定かではない。二〇一八年度春秋における「郷土の歴史と文化」では、「小牧の歴史と文化」という副題が設定されているものの、受講生二二名のうち小牧市在住者は三名にとどまる状況であった。受講生の大多数は小牧市以外の在

〔注〕(1) 大類雅敏「釈迢空のダツシユ」『そこに句読点を打て!』(一九七六年九月栄光出版)

(2) 浜名理香「やさしく、たのしく、うつくしく」『角川 短歌』(二〇一四年二月号 角川書店)

(3) 注(2)に同じ。

(4) この啄木の三行書きについて、釈迢空(折口信夫)は、「啄木は歌を三行に書いてある——実は三行は無理で、四行が本道だ」と否定的であったと宮柊二『白秋・迢空』(一九八四年八月 河出書房新社) 一三四頁にある。

(5) 原田清「あとがきにかえて」『會津八一 鹿鳴集評釈』(一九九八年三月 東京堂出版)

使用テキスト

釈迢空『和歌文学大系 30 海やまのあひだ・鹿鳴集』(二〇〇五年三月 明治書院)・芥川龍之介『日本近代文学大系第38巻 芥川龍之介』(一九〇年 角川書店)・小川 国夫『小川国夫全集 2』(一九九二年八月 小沢書店)・松村正直、やすたけまり『角川短歌』(二〇一四年二月

号 角川書店)・まどみちお『文藝別冊 まどみちお』(二〇〇〇年十一月 河出書房新社)・草野心平『美しい日本の詩歌 15 草野心平詩集 蛙

のうた』(二〇〇五年三月 岩崎書店)・石川啄木『和歌文学大系 77 一握の砂・黄昏に・収獲』(二〇〇四年四月 明治書院)・會津八一『會津

八一 鹿鳴集評釈』(一九九八年三月 東京堂出版)・大松達知『角川短歌』(二〇一四年二月号 角川書店)・佐藤春夫『定本佐藤春夫全集

第4巻』(一九九八年五月 臨川書店)・諏訪哲史『りすん』(二〇〇八年四月 講談社)・徒然草、源氏物語、宇治拾遺物語は『日本古典文学全

集』(小学館)

といふ声のしければ、

——あな、侘し、

と思ひて、

——今一度起こせかし！

と、思ひ寝に聞けば、ひしひしとただ食ひに食ふ音のしければ、

——？

すべなくて、

——……、……？

無期の後に、

——！

「ゑい！！」

といらへたりければ、僧たち笑ふ事限りなし。

『宇治拾遺物語』(巻一の一二)

ここでは、心内部分をダッシュで示した。その上で、そこにある期待やら焦りやら戸惑いなどの心情を、さらには、ことばにできないでいると想像できる部分を補助記号を用いて表してみた。もちろん、これは一つのサンプルではないが、こうしたことを学習者にさせ、その意図を説明させるのである。この方法であれば、単に、心内部分の抜き出しよりも、児の心情により良く寄り添うことができるのではないだろうか。ただ、古文の本文に補助記号を用いるには抵抗感があるかもしれないが、古文学習の教室においては、一つの方法として充分に有効な方法と思うのである。

これも今は昔、比叡の山に兎ありけり。僧立たち宵のつれづれに、

「いざ、搔餅せん」

といひけるを、この兎心寄せに聞きけり。

——さりとて、し出さん待ちて、寝ざらんもわるかりなん、

と思ひて、片方に寄りて、寝たる由にて、出で来るを待ちけるに、すでにし出したるさまにて、ひしめき合ひたり。

この兎、

——定めて驚かさんずらん、

と待ち居たるに、僧の、

「物申し候はん。驚かせ給へ」

といふを、

——嬉し！

とは思へども、

——……ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふ、……

とて、

——今一声呼ばれていらへん、

と、念じて寝たる程に、

「や、……な起こし奉りそ。幼き人は寝入り給ひにけり」

また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。
雨など降るも、をかし。

(第一段)

この意図を萩谷は凡例において、「類相的章段においては、連想の継続と転換、前後の対応等の文脈に従って、あたかも散文詩を見るかのような千鳥組みにして、文章の構造を明示した」と述べている。活字本の古文の示し方としては新鮮な感じを与える試みである。

五 古文学習における補助符号の使用とレイアウトの工夫

古文嫌いをなくすにはどうしたらよいか。古文に対する抵抗感をなくすにはどうしたらよいか。本稿では、それに応える一つの試みとして、古文にも、補助符号を使用したりレイアウトを工夫したりすることを提案したのである。

補助符号の使用やレイアウトの工夫は、むやみに、好き勝手にはできない。これを行うには、なにより文の構造や内容を理解していなければならない。そうでなければ、そうした意図が伝わらない。ここまで長々と実例をあげてきたのは、この点を示すためである。

古文学習にこうした補助符号の使用やレイアウトの工夫が有効に活用できると思われる教材が、高等学校の古文の入門教材として多くに採用される「児の空寝」である。ここでは、この話の面白さを理解するために、児の心内部分を抜き出す課題が設けられていることが多い。その際、補助符号やレイアウトを工夫して心情を表してみるのである。

「あ——」

「あ——！」

諏訪哲史『りすん』

四 古文の本文

このように、現代の文芸作品では、表記やレイアウトの工夫がなされるが、活字化され出版されている中古・中世の作品には、当然のことながら、こうした工夫はなされていない。作者自身がそう示していないからである。一般的に触れる古文の文章の表記には、異同を示すために（－）や……が用いられることがあるが、本文そのものに校訂者が施すのは、句読点と補助記号の「－」と段落を示すための一字下げである。

こうした中であって、レイアウトの工夫がなされているのが、萩谷朴が校注を担当した新潮日本古典集成の『枕草子』である。

春は、あけぼの。

やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、

紫だちたる雲の、細くたまびきたる。

夏は、夜。

月のころは、さらなり。

闇もなほ。

蛍のおほく飛びちがひたる、

カパ！

馬へ乗った憲兵さんがとほる——まはり道をして娘の家の前をとほる。

カパ！

カパ！

カパ！

蹄の音をきいて窓へかけ出すのは妹娘だ。

佐藤春夫「春の物語」

馬に乗った憲兵が近づき、やがて遠ざかることを擬声語の配置で表現した。次の例は、「あー」という叫びの配置のしかたで、感情が高まっていくさま表している。

「あれみのーざちよまー」

「ざれちよーま、ふー」

「あー」

「あー」

「あー」

「あー」

「あー」

「あー」

「あー」

作者の會津八一は、かな表記は初期の作品からということだが、分かち書きは、昭和二十六年（一九五二）の『會津八一全歌集』ではじめて試み、その意図を、『會津八一全歌集』の例言で次のように述べているという。⁽⁵⁾

従来著者が行ひ来りし如く、仮名のみにて歌を綴りながら、一字一字の間隔を均一にせば、欧亜諸国の文章よりも、遙かに読み下しにくきものとなるべき氣附きたれば、この全歌集に於ては、單語の識別に便ならしむるよう、その間隔を加減し、活字の組み方に変革を断行したり。

次の例は、補助記号の使用もそうであるが、それに加え、なにより、分かち書きであることによつて、いや、分かち書きであるからこそ、作品を躍動感あるものとすると同時に、読み手に臨場感も与えているのではないだろうか。

おー！ おめでたう！ と言われる その おー！ がおめでたう！ よりうれしくうれし

大松達知『ゆりかごのうた』

一方、小説にも、こうしたレイアウトが工夫された例が探せる。

カパ！

カパ！

春殖しゅんしよく

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

また、短歌においてのレイアウトといえ、石川啄木の三行書きも有名である。

不^{こず}来^{かた}方のお城の草に寝ころびて

空に吸われし

十五の心

いかるがのさとのをとめはよもすがら
きぬはた おれり あき ちかみ かも

次の、まどみちおの詩は音読でも鑑賞できるものであるが、このように示した意図は明確である。

ぶんちん

しるひとぞ
しるだろう
しごと
しないのが
しぜんに
しごとという
ししそんなへの
しびあなしきたりを
しんじつしんじ
しろくじちゅう
しーんと
している

ぶんちんの働きの重しとしての役割をより感じさせるために山の形にしたのは一目瞭然であるが、それだけでなく、どの行も「し」で始まることで行頭に注意が行き、思わず「し」を目で追ってしまふ。結果、稜線を目でなぞるのである。さらに、「し」の文字は、押さえつけているような形に見えないだろうか。「し」の文字自体も

「アリス式海岸」だからぎざぎざの道は見えないところへつづく

やすたけまり『ミドリツキノワ』

この歌についても、浜田理香の解説がある。⁽³⁾

「」に入れて、まず「アリス式海岸」に注目させる。ここでピンと来なくても、一首よめば「リアス式海岸」をわざと言い違ったものと分かる。漢字と違って、カタカナは音しか持たないので、この手の取り違いは日常的に起こる。

学校で「リアス式海岸」を初めて習うころ、もうすでに「アリス」のことは知っていたかもしれない。「アリス」は紙に書かれた物語だが、「リアス」だって、子どもにとっては紙に描かれた地図や写真にしかすぎない。リアス式の海岸線のぎざぎざをノートに写していると、鉛筆の線は突然途切れ、そこから道は不思議の国へと続く。アリス式不条理。幼さに仮託して言いたいことが作者にはある。

三 文章のレイアウトについて

実用的な文章においては、そのレイアウトの基本は、書き出しは一字下げるとか、段落を設けるとか、というものである。しかし、文芸作品においては、実用的な文章におけるそうした決まり縛られず、様々な工夫がなされる。特に、詩においては、文字や語句を、作者が、独自の、独特の配置を行う。もちろん、これは作者の表現へのこだわりがそうさせるのである。

「二十秒で十二個できる製品は一日何個できるでしょうか」

松村正直『午前3時を過ぎて』

右の短歌を浜名理香は、次のように解説をしている。⁽²⁾

一分間に三十六個だから一時間では……というところまで考え、ため息をついて、やめた。どうせ、たくさんできるに決まっている。工場の生産ラインの効率か何かの計算だろう。

つい、つられて計算を始めてしまったのは、一首全体が「」に入った会話文になっているし、丁寧語も使われているので、作者ではない誰かが、読者である私に直接語りかけてきたように思われたからだ。もし「」がなかったら、あるいは耳だけで聞いて「」を目で見えていなかったら、作者が自らに向けたつぶやきとして、あるいは作者が聞いた声や言葉として受け止め、その時の作者の感情に共感しようとするだけだったかもしれない。

この解説文には、リーダー(……)が用いられているが、これは、ダッシュとほぼ同じ使われ方をするようであるが、この箇所のように、以下を省略する場合、また、いい差しや言葉に詰まり無言であるような場合は、リーダーで表す方が一般的のようである。

さらに、「」は、会話であることを表す以外には、引用や強調や重要さを表すためにも使われる。次の例は、「」の使用が強調だけにとどまらず、作品に広がりを持たせ、作品を深みあるものになっている。先の短歌と同様に、補助符号を効果的に用いた例である。

また、このダッシュを次のように使用するものもある。

その人は、コンクリートの上にまだらに出来た水溜まりを避けながら、浩の方へ歩み寄って来た。
そして

—— イタリア語は話すかね、とイタリア語で聞いた。

—— 出来ない、と彼は答えた。

—— 英語は話すかね、と今度は英語で聞いた。

小川国夫「海峡と火山」

これは会話であることを示す符号として用いられている例である。会話や発言は一般的にはカギ括弧（「」）で示される。

「ああ、夫子が、——古今無双の射の名人たる夫子が、弓を忘れ果てられたとや？　ああ、弓といふ名も、その使ひ途も！」
中島敦「名人伝」

右の会話文では、ダッシュの他に、（？）（！）の補助記号が用いられている。（？）（！）は、英文でも、論文などの固い文章には用いられないが、日本においても同様で、説明文や論説文には用いられない。しかし、右のように小説や随筆の会話文にはよく用いられ、日本語の表記に馴染んだものである。

また、次のような使われ方は、発言であることがかなめであり、「」が会話であることを表す働きを効果的に用いた例になろう。

句読点は、一般的には文章を書くときに用いるものと思われているであろう。したがって、短歌に用いられると、驚きであると同時にある種の新鮮さを感じる。

葛の花 踏みしだかれて、色あたらし。この山道を行きし人あり

釈迦空の短歌である。釈迦空自身は、短歌に句読点を用いるのは、自身の呼吸、思想の休止、内在している拍子の開示、調子の休止などを表現するためだとい^いう。句読点が、積極的に、表現に関わっているわけである。

二 補助符号について

こうした句読点以外にも、日本語の表記に用いられる符号がある。いわゆる、補助符号と呼ばれるものである。例えばダツシュ（——）もその一つである。

鴉は、勿論、門の上にある死人の肉を、啄みに来るのである。——尤も今日は、刻限が遅いせぬか、一羽も見えない。

芥川龍之介「羅生門」

高等学校の小説教材として有名な芥川龍之介の「羅生門」には、この箇所以外に、もう三箇所、つまり、「羅生門」には、四箇所にダツシュが用いられている。こうしたダツシュについて、それぞれの働きや意味を考えることが、学習課題とされる。

古文教授方法論③ — 補助符号の使用とレイアウトの工夫による古文学習 —

高橋良久

一 句読点について

「句読点」とは、狭義には、文の終わりに付ける句点（。）と文の中で用いる読点（、）をいう。このうち読点は、その打ち方にはルールがなく、したがって、教育現場においても、その使用の仕方は、読む人が読みやすいようにつける、という程度の指導がなされるくらいではないだろうか。ただし、そうであっても、読点は、内容を正確に伝えるために重要な役割を担っていることの学習がなされることがある。この場合、よく出される文がある。

- 1 ここではきものをお脱ぎください。
- 2 二重ふたえにしてくびにかける数珠。
- 3 刑事は血まみれになって逃げる犯人を追いかけた。

これらは、二義に解釈される文である。それを読点を用いることで一義にするわけである。ただし、1・2については、漢字を用いれば二義に解釈されることはない。1ならば、「着物」か「履き物」、2ならば、「手首」か「首」と表記すればよいわけである。したがって、3においてこそ、読点が威力を発揮する。血まみれなのが刑事なのか犯人なのかは読点で決まる。「刑事は血まみれになって、」であれば刑事が、「刑事は、血まみれになって」であれば犯人が血まみれとなる。

透垣…透垣、黒塗羅文

簾…縁なし

畳…すべて高麗縁（小紋）

障子…押障子（縹窠紋縁、風景画）、襖障子（縹窠紋縁、風景画、銀金具）

女房…桂姿（桂三領（表山吹地立涌文裏縹、表山吹裏縹二領）、単衣（薄朽葉地繁菱文））

弁の尼…桂姿（桂四領（表白裏白四領）、単衣（青地繁菱文）、緋長袴）

女房…桂姿（桂一領（表縹裏白）、単衣（縹地繁菱文））

浮舟…桂姿（桂三領（表白地小葵文裏山吹、表白裏山吹二領）、単衣（青地繁菱文）、緋長袴）

女房…桂姿（桂二領（表山吹裏青、表山吹裏青）、単衣（白地繁菱文））

几帳…白地唐花遠菱文紗、黒遠菱野筋、黒塗台、銀金具

燈台…高燈台

*本発表は、若手研究(B)「平安・鎌倉時代の絵巻物における宮廷装束の基礎的研究」(17K18225)の成果によるものである。

「東屋一」

女房…裳姿か（桂三領（表青地菱繫文裏青、表白裏青二領）、単衣（紅））

女房…裳姿（裳（表朽葉地三重襷文裏山吹遠菱文、表裏共に青縹綾地窠に霞文引腰、引腰に青縹綾の飾り紐を付ける、縹小腰）、桂二領（表白地唐花丸文裏紅、表白裏紅）、単衣（青地遠菱文紗）、緋長袴）、檜扇（遠山繪、青縹綾の飾り紐）

障子…押障子（縹窠紋縁、風景画）、襖障子（縹窠紋縁、風景画、銀金具）

几帳…表薄蘇芳裾濃地秋草飛鳥摺文、青縹綾野筋、黒塗台、銀金具

右近…裳姿か（桂三領（表山吹地菱繫文裏紅、表山吹裏朽葉、表山吹裏青）、単衣（紅地繁菱文）、冊子
置…縹縹縁と高麗縁（小紋）の変形

浮舟…桂姿（桂一領（表青地小葵文裏白）、単衣（朽葉地繁菱文）、緋長袴）、冊子三冊、卷子本一卷

御簾…窠紋、帽額（窠に臥蝶紋、内巻き）

中の君…桂姿（桂二領（表白地四方繫文裏縹、表白裏縹）、単衣（白地繁菱文）、敷物

女房…裳姿（裳（青地三重襷文、表山吹地窠に霞文裏薄朽葉腰、引腰に薄朽葉の飾り紐を付ける）、桂二領（表白地藻勝見文裏縹、表白裏縹）、単衣（白地繁菱文））

「東屋二」

薰…烏帽子直衣姿（烏帽子、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫（縹地唐花丸文）、単（白）、下袴（紅）、蝙蝠扇（濃蘇芳、砂子）

唐傘…白

三重襲唐衣（表縹地唐草文中陪深縹裏白地繁菱文）、表着（表白地菱繫文裏深縹）、桂三領（表裏同色の山吹、表裏同色の朽葉、表裏同色の紅）、単衣（白地唐花繁菱紗）、緋長袴）、蝙蝠扇（蘇芳、砂子）

女房…裳唐衣姿（裳（青地三重襷文紗、表白地飛鳥文裏山吹引腰、引腰に青の飾り紐を付ける、白小腰）、唐衣（表薄朽葉地四方繫文裏山吹地繁菱文）、表着（表縹地唐花丸文裏縹）、桂四領（表裏同色の紅、表薄青裏白三領）、単衣（蘇芳地繁菱紗）、緋長袴）、蝙蝠扇（青、砂子、片張り）

女房…裳唐衣姿（裳（薄朽葉地三重襷文、表青綾引腰、青縹綾小腰）、唐衣（表白地菱繫文裏白地山吹唐花繁菱文）、表着（表青地菱繫文裏紅）、桂三領（表白裏縹三領）、単衣（蘇芳地唐花繁菱）、緋長袴）、蝙蝠扇（薄朽葉、砂子、紅葉図か）

女房…裳唐衣姿か（唐衣（表縹地菱繫文裏白地青繁菱文）、表着（表薄朽葉地亀甲花菱文裏縹）、桂四領か（表裏同色の白四領）、単衣（白地青唐花繁菱紗）、蝙蝠扇（蘇芳、砂子、片張り）

「宿木三」

御簾…窠紋、帽額（窠に臥蝶紋、内巻き）

畳…すべて高麗縁（小紋）

障子…襖障子（縹窠紋縁、風景画、銀金具）、押障子（縹窠紋縁、風景画）

中の君…桂姿（桂五領（表白地裏山吹五領）、単衣（青地遠菱文）、脇息（螺鈿か蒔絵）

几帳…白地、黒野筋

匂宮…烏帽子直衣姿（烏帽子、夏直衣（縹地三重襷文紗）、衣（白二領）、単か（白）、下袴（紅））

女房…裳唐衣姿（裳（白地海賦摺文、表白地窠に霞文裏白引腰、白小腰）、唐衣（表白地亀甲花菱文裏青繁菱文）、表着（蘇芳地唐草文）、桂四領（表裏同色の朽葉、表裏同色の山吹、表裏同色の青二領）、単衣（薄朽葉地遠菱）、緋長袴）

二階厨子…蒔絵、金金具、箏の琴、蒔絵箱二合、冊子二冊、卷物二卷（青表紙）

「宿木二」

畳…縹縹縁の上に龍鬢筵を敷く

几帳…表縹裾濃地秋草摺文、赤青綵鳥文野筋

勾宮…桂姿（桂二領（表裏同色の白二領）、単衣（白））

六の君…小桂姿（小桂（表白（四方繫文か）））地唐花丸文二陪織物裏山吹）、桂四領（表青亀甲文地唐花丸文二陪織物紗裏縹、表裏同色の濃蘇芳三領）、単衣（濃蘇芳地花繁菱文）、蝙蝠扇（白、八本骨）

几帳二基…表縹裾濃地秋草摺文、赤青綵鳥文野筋、黒塗台、銀金具

屏風…六曲半双（縹窠紋縁、銀金具、裏黒地葡萄立涌文）

畳…高麗縁（小紋）

女房…裳唐衣姿（裳（縹地三重襷文紗、表白地窠に霞文裏白引腰、引腰に白の飾り紐を付ける、山吹小腰）、三重

襲唐衣（表青地唐花丸文中陪白裏紅地繁菱文）、表着（表山吹地唐花丸文裏青）、桂四領（表裏同色の薄朽葉、表裏同色の紅、表裏同色の薄朽葉、表裏同色の山吹）、単衣（薄青地唐花繁菱紗）、緋長袴）、蝙蝠扇（縹、月）

女房…裳唐衣姿（裳（青地三重襷文紗、表山吹地窠に霞文裏薄朽葉引腰、引腰に青の飾り紐を付ける、白小腰）、

中の君…桂姿（桂七領（表青地白立涌文裏青、表裏同色の紅、表山吹裏白三領（匂か）表裏同色の白二領）、単衣

（青地繁菱文）、緋長袴）

弁の尼…桂に袈裟姿（袈裟、桂三領（表縹地平絹裏山吹三領）、単衣（縹地繁菱文）、萱草色長袴）、数珠
几帳…表白地三色摺朽木型、黒野筋、黒塗台、銀金具

「宿木二」

二階棚…蒔絵（秋草飛鳥文）、金金具、火取香炉（蒔絵）、泔坏（蒔絵）、打乱箱、敷物（山吹地錦、唐組の伏組と
総角結び）

薰…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（横菱））、冬直衣（表白地唐花丸文））

碁…碁盤、碁笥、碁笥の蓋、碁石

今上帝…桂姿（桂五領（表白裏紅、表裏同色の白四領）、単衣（白）、緋長袴）

畳…高麗縁（小紋）の上に縹縹縁を敷く

障子…副障子（縹窠紋縁、水辺飛鳥図）

厨子か…秋草蒔絵

大床子…縹縹縁、金金具

几帳二基…白地二色摺朽木型、黒野筋、黒塗台

障子…襖障子（縹窠紋縁、風景画）

女房…裳唐衣姿（唐衣（山吹地菱繋文裏青地繁菱文）、表着（表白地小葵文）、桂四領（表裏同色紅梅二領、表裏

同色浅黄二領）、単衣（青地繁菱文）、緋長袴）、檜扇

暈…すべて高麗縁（小紋）

中の君…桂姿（桂六領（表白地立涌文裏白、表裏同色の黄三領、表裏同色の薄青、表裏同色の青）、単衣（紅地遠

菱文紗）、緋長袴）、琵琶、琵琶の撥

女童…相姿（相五領（表青地小葵文裏青、表裏同色の薄青、表裏同色の黄、表裏同色の朽葉、表裏同色の紅）、単

衣（朽葉地繁菱文紗）、緋長袴）、蝙蝠扇（骨六本、蘇芳、砂子）

女房…桂姿（桂五領（表白地唐花丸文裏白、表裏同色の白四領）、単衣（青地繁菱文）、緋長袴）

大君…桂姿（桂四領か（表紅地裏紅、表裏同色の薄紅、表裏同色の白二領）、単衣（白）、小袖か）箏の琴、蝙蝠

扇（縹、砂子）

几帳…薄朽葉地三重襷文、水辺飛鳥文（摺りか描き絵か不明）、青縹緋鳥文野筋

「早蕨」

女房…桂姿（桂三領（表銀地藻勝見文裏紅、表銀裏朽葉、表銀裏青）、単衣（紅地繁菱文）、元結、表白裏青の生

地

女房…桂姿（桂七領（表蘇芳地四方繫文裏蘇芳、表白裏銀三領、表銀裏白三領）、単衣（銀地繁菱文）

障子…押障子（縹窠紋縁、秋草図）

女房…桂姿（桂五領（表山吹地小葵文裏朽葉、表山吹裏朽葉四領）、単衣（青地繁菱文）、表裏同色の白生地

几帳…五幅（四尺几帳）、表白地裏白、黒野筋、黒塗台、銀金具

女房…桂姿（桂六領（表白地唐花丸文裏縹、表白裏縹五領）、単衣（紅地繁菱文）、緋長袴）

広蓋…黒塗、巻絹（菱繫文、小葵、唐花丸文、四方繫文か）

小葵文裏朽葉、表山吹裏朽葉五領)、単衣(青地遠菱文)、緋長袴)、檜扇(遠山絵、青縹紵の飾り紐)

女房…裳姿(裳(表白地海賦摺文裏白平絹、表白地霞文裏白引腰、引腰に白の飾り紐を付ける)、桂七領(表蘇芳

地立涌文裏蘇芳、表裏同色の薄蘇芳、表裏同色のより薄い蘇芳、表裏同色の白三領)、単衣(白地遠菱文、

緋長袴)、檜扇(青縹紵の飾り紐)

女房…裳姿(裳(表白地霞文裏朽葉腰(大腰・引腰)、表白地霞文裏白引腰、引腰に朽葉の飾り紐を付ける)、桂

七領(表白地唐花丸文裏縹、表白裏縹六領)、単衣(紅地遠菱文)、緋長袴)、檜扇

暈…すべて高麗緑(小紋)

玉鬘の大君…桂姿(桂六領(表白地桜花文裏縹、表裏同色の朽葉二領、表裏同色の薄朽葉、表裏同色の山吹二領)、

単衣(青地繁菱文)

碁…碁盤、碁笥、碁石

玉鬘の中の君…桂姿(桂六領(表白地梅花文裏白、表裏同色の白五領)、単衣(白地薄紅梅遠菱文)、緋長袴)

几帳…表白地一色摺朽木型、黒野筋、黒塗台、銀金具

女房か…裳姿か(桂五領(表縹地四方繫文裏縹か、表白裏縹四領)、単衣(縹地遠菱文)、萱草色長袴)

「橘姫」

薫…冠直衣姿(冠(有紋、垂纓(縦菱))、夏直衣(縹地三重襷文紗)、指貫(縹地四方繫文)、衣(表山吹地立涌

文裏青、直衣の中で脱ぐ着用法)、単(白、帯(紅)、下袴(紅) 蝙蝠扇(赤、砂子)

透垣…竹透垣、竹羅文

簾…縁なし

御簾…窠紋、帽額（窠に臥蝶紋）

几帳…表白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋

女房…桂姿（桂五領か（表薄朽葉地白立涌文裏朽葉、表薄朽葉裏朽葉四領か）、単衣（青地遠菱文）

薰…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（横菱））、冬直衣（表白地唐花丸文）、指貫（縹地唐花丸文））

几帳…表白地三色摺朽木型、黒野筋、黒塗台、綻びあり

女房…桂姿（桂一〇領（表薄朽葉地梅花文裏薄朽葉、表薄朽葉裏朽葉、表薄紅梅裏紅二領、表薄青裏青二領、表

山吹裏薄朽葉二領、表薄紅梅裏紅梅二領）、単衣（紅）

女房…桂姿（桂六領（表白地桜花文裏縹、表白裏縹五領）、単衣（紅）

女房…桂姿（桂五領（表白地桜花文裏縹、表白裏縹四領）、単衣（紅）

女房…桂姿（桂五領（表紅地裏白か、表山吹裏白、表黄裏白、表裏同色の白二領）、単衣（白地遠菱文）

女房…桂姿（桂六領（表白地小葵文裏縹、表白裏縹五領）、単衣（白）

女房…桂姿（桂六領（表白地桜花文裏縹、表白裏縹五領）、単衣（紅、緋長袴）

女房…桂姿（桂五領（表山吹地菱繫文裏薄朽葉、表山吹裏薄朽葉四領）、単衣（青地遠菱文）、緋長袴）

几帳…表白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋、黒塗台、銀金具、綻びあり

「竹河二」

藏人少将…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、冬直衣（表白地唐花丸文）

御簾…窠紋、帽額（窠に臥蝶紋）

女房…裳姿（裳（白地海賦摺文裏白平絹、表白地霞文裏縹引腰、引腰に縹の飾り紐を付ける）、桂六領（表山吹地

屏風…六曲半双（縹窠紋縁、風景画、銀金具）

畳…すべて高麗縁（小紋）

雲居雁…単衣姿（単衣（白紗）、緋長袴）

夕霧…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫（縹地唐花丸文）、単（白）、下袴（紅）

厨子棚二基…高脚、黒塗、水辺飛鳥文蒔絵、銀金具

障子…襖障子（縹窠紋縁、風景画）

「御法」

畳…すべて高麗縁（小紋）

御簾…窠紋縁、内巻き、鉤、内側に赤い紐を付す、帽額（窠に臥蝶紋）

紫の上…桂姿（衾三領（表裏同色の白）、桂五領（表白地唐花丸文裏白、表裏同色の白四領）、単衣（山吹（金）

地遠菱文）、緋長袴）、脇息（紫檀か、唐花丸文に鳥蝶文（蒔絵か螺鈿）

明石中宮…桂姿（桂四領（表裏同色の紅、表裏同色の朽葉、表裏同色の黄、表裏同色の薄青）単衣（白地遠菱文

紗）

几帳二基…五幅（四尺几帳）、表薄墨裏白、黒野筋紗、黒塗台、金金具

光源氏…烏帽子直衣姿（烏帽子、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫（縹地亀甲文）、単（白、帯（紅）、下袴（紅）

赤地日丸蝙蝠扇

「竹河」

光源氏…直衣姿（夏直衣（縹地三重襷文紗）、単（白））

障子…押障子（縹窠紋縁、風景画）

几帳…白地、黒野筋、黒塗台

「鈴虫二」

畳…すべて高麗縁（小紋）

夕霧…直衣布袴姿（冠（有紋、垂纓）、夏直衣（縹地三重襷文紗）、下襲（蘇芳横菱遠文）、横笛

公達…直衣布袴姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、下襲（蘇芳横菱遠文））

光源氏…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫（縹地四方繫文）、単（白）、下袴（白））

公達…直衣布袴姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、下襲（蘇芳横菱遠文）、笏

冷泉院…引直衣姿（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫か（縹地亀甲文）、単（白））↓袴

の文様は画家の想像か

螢兵部卿宮…直衣布袴姿か（冠（有紋、垂纓（縦菱））、夏直衣（縹地三重襷文紗）、下襲か（蘇芳か））

「夕霧」

障子…襖障子（縹窠紋縁、風景画、銀金具）、押障子（縹窠紋縁、風景画）

女房…裳姿（裳（薄朽葉地三重襷文、白引腰、白小腰）、桂一領（表薄縹唐花丸文裏縹、緋長袴）

女房…裳姿か（桂（薄紅梅地立涌文）、蝙蝠扇

女房…裳姿（裳（白）、桂二領（表裏同色の萌黄二領）、単衣（白地遠菱文）、緋長袴）

女房…裳姿（裳（朽葉地白唐草文、青縹綾引腰、紗か）、桂三領（白地小葵文裏薄朽葉）、単衣（青地遠菱文）、緋長袴）

女房…桂姿か（桂三領（表裏同色の白）、単衣（縹地遠菱文（四つ目菱）、緋長袴）、銀盤、散米の米

雲居雁…桂姿（桂（表白地縹花菱亀甲文裏縹（紗か）、表裏同色の縹二領）、単衣（紅、緋長袴）、耳挟み

燈台…高燈台、萌黄油単

夕霧…桂姿（烏帽子、桂（表白唐草華文）、下袴（紅））

壁代…五幅、白地三重襷、黒地三重襷野筋

障子…襖障子（縹窠紋縁、風景画（唐絵か））

「鈴虫」

垣…透垣、黒塗羅文

閑伽…閑伽棚、曲物閑伽坏

尼…桂に袈裟姿（白袈裟、桂二領（表薄縹地唐花丸文裏縹、表薄縹裏縹）、単衣（青）、袴（縹）、尼削ぎ↓女性
が縹系の袴を着用することがあるのか不明

御簾…窠紋縁、外巻きか、帽額（窠に臥蝶紋）、画面下の御簾には内側に赤い紐を付す

畳…高麗縁（小紋）

女房か女三の宮か…裳姿（裳（薄朽葉地三重襷文、縹綾霞文引腰）、桂五領か（表白地小葵文裏紅、表白裏紅二領、表裏同色の青二領（三領か）、単衣（白地遠菱文）、緋長袴）

「柏木三」

几帳二基…白地三色摺朽木型、黒野筋、黒塗台、銀金具

御簾…窠紋緑、帽額（窠に臥蝶紋）

女房…裳唐衣姿（裳（白、白引腰）、唐衣（白地梅花文）、表着（蘇芳）、桂八領（表紅梅裏紅二領、表裏同色の縹

二領、表山吹裏紅二領、表裏同色の青二領）、単衣（紅地遠菱文）、緋長袴）

高坏六本…丸高坏、坏部朱塗、脚部黒塗

光源氏…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓）、冬直衣（表白地唐花丸文）、単か（白）、指貫（縹地白唐花丸文）、下袴（紅、

指貫の裾から覗かせる）

薰…産着（白）

女房…裳唐衣姿（裳（白、表青地金窠に霞文裏青引腰）、唐衣（表裏同色の縹地梅花文）、表着（蘇芳）、桂七領（表

裏同色の紅二領、表黄裏白二領、表裏同色の白三領）、単衣（白地遠菱文）、緋長袴、檜扇

女房…裳唐衣姿（裳（表白裏紅引腰か）、唐衣（表青地金桜花文裏縹）、表着（表白地桜花文裏縹）、桂六領（表蘇

芳裏紅（打衣か）、表白裏縹五領）、単衣（紅地遠菱文）、緋長袴、檜扇

御簾…窠紋緑、外巻き

帳台か…白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒紅野筋

「横笛」

御簾…窠紋緑、帽額（窠に臥蝶紋）、外巻きか↓復元模写では内巻き

障子…襖障子（縹窠紋緑、風景画）

御簾…窠紋縁、内巻き、鉤（内側）、帽額（窠に臥蝶紋）

几帳…薄朽葉地三重襷文、水辺飛鳥文（摺りか描き絵か不明）、青縹綵鳥文野筋、青縹綵蜷結び、黒塗台、銀金具、
綻びあり

夕霧…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（燕尾形、縦菱））、冬直衣（表白地唐花丸文）、中着三領（表山吹裏紅）、指貫
（縹地白唐花丸文、裾括りの緒を垂らす）、下着か下袴（紅、指貫の裾から覗かせる））

柏木…桂姿（鳥帽子、衾（直垂型、表白梅花文裏紅地遠菱文）、白桂三領（表白地小葵文）白桂三領（白平絹）
壁代…五幅、白地桜花文、水辺飛鳥文（摺りか描き絵か不明）、縹朽葉綵鳥文野筋、裏縹平絹

几帳…五幅（四尺几帳）、表白地二色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋、白蜷結び、黒塗台、銀金具、綻びあり

女房…裳姿（裳（白地縹三重襷文、表山吹地叢文裏朽葉平絹引腰、引腰に山吹の飾り紐を付ける）、桂六領（白地
唐花丸文、表裏同色の白五領）、単衣（白地遠菱文）

女房…裳姿か（桂八領（上から表白地立涌文裏黄二領、表白裏縹二領、表黄裏白二領、表薄青裏白二領）、単衣（紅
地遠菱文）

女房…裳姿（裳（白地縹三重襷文、表青地窠に叢文裏青平絹引腰、引腰に山吹の飾り紐を付ける）、桂五領（上か
ら表裏同色の蘇芳地小葵文、薄蘇芳、より薄い蘇芳、白、白）、単衣（白地遠菱文）、緋長袴）

女房…裳姿か（桂五領（上から表黄地小葵文裏朽葉）、単衣（青地遠菱文）

女房…裳姿（裳（白地縹三重襷文、膝前に青の小紐を諸鉤で結ぶ）、桂七領（表白地四方繫文裏縹）、単衣（紅）、
緋長袴）

几帳…表白地二色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋

白、表山吹裏白)、単衣(白地遠菱文)

朱雀院：鈍色袈裟姿(袈裟、鈍色、衣三領(表裏同色の白)、指貫(白)、下着か下袴(紅、指貫の裾から覗かせる)、数珠、白茵)

几帳：表白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋、白蜷結び

光源氏：烏帽子直衣姿(烏帽子、冬直衣(表白地唐花丸文)) ↓ 烏帽子を平礼烏帽子のように描くのは誤り

几帳：四幅(三尺几帳)、折枝飛鳥文(摺りか描き絵か不明)、裏平絹朽葉裾濃、青縹綵鳥文野筋、青縹綵蜷結び、

黒塗台(蒔絵か螺鈿の鳥)、銀金具、綻びなし

畳：縹縹縁

几帳：五幅(四尺几帳)、表薄朽葉地三重襷文、水辺飛鳥文(摺りか描き絵か不明)、裏朽葉平絹、青縹綵鳥文野

筋、青縹綵蜷結び、黒塗台、銀金具、綻びあり

女三の宮：桂姿(桂五領(表白地立涌文裏白、表裏同色の白三領、表白地裏山吹)、単衣(白地遠菱文)、緋長袴)

帳台：浜床(銀金具、烏蝶折枝文)、帳(白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒紅野筋) 畳(縹縹縁)

「柏木二」

畳：すべて高麗縁(小紋)

机：朱塗、銀金具

卷子本：紺表紙、銀砂子

障子：襖障子(縹窠紋縁、風景画、銀金具)

屏風：六曲半双(縹窠紋縁、風景画、銀金具)

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（縹平絹）、単（紅平絹）、指貫（縹）、行膝（縹）、弓箭（塗弓、胡録））

雑役…直垂姿（侍烏帽子、直垂（浅葱地格子文）、袴（白地遠菱文）、脚絆（縹）、草鞋）

雑役四人…簀笠

「柏木」

几帳…表白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋、白蜷結び、黒塗台、銀金具

女房…裳唐衣姿か（唐衣（表白地四方繫文（一条家四方繫とも）裏薄朽葉地烏梅文）、表着（山吹地梅花文）、桂

五領（表黄裏白、表浅黄裏白、表薄朽葉裏白、表濃朽葉裏白、表紅裏白）、単衣（青地遠菱文）、緋長袴）

女房…裳唐衣姿（裳（白地三重襷、白地窠に叢文引腰、引腰に縹の飾り紐を付ける）、三重襲唐衣（表山吹地唐花

丸文（又木形）薄朽葉地烏蝶文）、表着（黄地梅花文）、桂六領（表白裏青）、単衣（紅地遠菱、緋長袴）、

檜扇（松原の絵、青縹綵の飾り紐）

女房…裳唐衣姿か（唐衣（表朽葉地水辺飛鳥文裏白地繁菱文）、表着（紅）、桂五領（表朽葉裏白、表薄朽葉裏白、

表山吹裏白、表薄山吹裏白、表黄裏白）、単衣（青地遠菱文）

几帳…五幅（四尺几帳）、表薄朽葉地三重襷文、水辺飛鳥文（摺りか描き絵か不明）、裏朽葉平絹、青縹綵烏文野

筋、青縹綵蜷結び、黒塗台、銀金具、結びあり

几帳…表白地三色摺朽木型、裏白平絹、黒野筋、白蜷結び、黒塗台（蒔絵か螺鈿の鳥）、銀金具

畳…高麗縁（小紋）薄縁を畳んだものか↓現在、高麗縁小紋（九条紋）には格子丸の外側に格子を入れるが、本

絵巻には一貫して入っていない

女房…裳唐衣姿か（唐衣（表濃朽葉地藻勝見文裏薄朽葉地烏蝶文）、表着（薄縹）、桂三領（表紅裏白、表朽葉裏

従者…狩衣姿（萎烏帽子か、狩衣（縹平絹）、単（紅平絹））

従者…狩衣姿（烏帽子、弓箭（塗弓、胡籙）、狩衣（朽葉色平絹、押折）、単（縹平絹）指貫（白平絹））

牛車…八葉車（大八葉車、物見）↓絵の具剥落激しく、絵師の判断によるものか

牛飼童…水干か（茶）

従者…狩衣姿（狩衣（薄茶平絹）、単（白））

従者…狩衣姿（平礼烏帽子か、狩衣（青紗無紋、白袖括）、単（白生絹）、指貫（縹））

従者…狩衣姿（平礼烏帽子か、狩衣（山吹紗、白袖括）、単（青生絹）、指貫（青））

牛飼童…水干姿（水干（白）、単（山吹）、草鞋）

牛車…出車（小八葉車、青下簾、出衣（青、薄青、白、黄、朽葉、紅、青単衣））

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（白）、単（白））

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（浅黄）、単（白））

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（朽葉））↓平成復元模写では肩が空いていないが、誤りか

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（縹平絹）、単（紅））

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（薄朽葉）、単（白））

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（縹平絹）、単（紅目染）、弓箭（塗弓、胡籙））

牛車…八葉車（半蔀車か、小八葉車）

従者…狩衣姿（烏帽子、狩衣（縹地黄目染）、単（紅）、弓箭（塗弓、胡籙））

従者…直垂か（侍烏帽子、直垂（縞か））↓低い身分の者は横縞が多い

従者…直垂か（侍烏帽子、直垂（縹））

【国宝『源氏物語絵巻』服飾関連絵引】

「若紫」↓X線写真を参考にした

光源氏…冠直衣姿（冠（有紋、垂纓（燕尾形））、冬直衣（表白地唐花丸文）、指貫）

「蓬生」

末摘花邸の女房…桂姿（桂（白））

御簾…退色した窠紋緑

几帳か…白、黒野筋

女房か…桂姿（桂（白無地））

惟光…狩衣姿（平礼烏帽子、狩衣（青地唐草文紗・白袖括）、当帯（縹）、指貫（縹地平絹か）、単（白地唐草文）、
鞭）

光源氏…烏帽子直衣姿（烏帽子、夏直衣（縹地三重襷文紗）、指貫（縹地亀甲文紗）、下袴（紅）、単（白）、浅沓

↓平成復元模写における指貫の文様は画家の想像か

従者…袖口のみ、唐傘

「関屋」全体に絵の具の剥落が激しく、復元模写の際、どこまで調査に依ったのかは不明

傘持…狩衣姿（侍烏帽子、狩衣（襷文）、唐傘）

従者…狩衣姿（菱烏帽子か、狩衣（茶平絹）、単（白平絹））

の形態がみられる。これらの古様は、現代の調製になるものとは大きく異なるものであり、その違いを明らかにすることによって、中世または古代の生活の実態に迫ることができるだろう。

本稿では、復元模写で得られた情報も含めて、国宝『源氏物語絵巻』の各段を一つ一つ詳細に検討し、国宝『源氏物語絵巻』に描かれている装束のデータベースを作成したものである。

【国宝『源氏物語絵巻』の現存状況】

現在二十画面の絵が確認されており、現存状況は以下の通り。

- ・徳川美術館（名古屋市中）：絵十五面と詞書二八面（蓬生、関屋、絵合（詞書のみ）、柏木（三段）、横笛、竹河（二段）、橋姫、早蕨、宿木（三段）、東屋（二段））
- ・五島美術館（東京都世田谷区）：絵四面と詞書九面（鈴虫（二段）、夕霧、御法）
- ・東京国立博物館（東京都台東区）：絵一面（若紫断簡）

【凡例】

1. ○○地△△文：○は色名を、△は文様名をさす
2. 一重仕立ての「ひとへ」の漢字表記：男性用の場合「単」、女性用の場合「単衣」
3. 青：グリーン

国宝『源氏物語絵巻』装束データベース

畠山大二郎

【はじめに】

本稿は、国宝『源氏物語絵巻』に描かれている服飾関連のデータベースを作成することにより、今後の文学研究や服飾研究に生かすための基礎的な資料作成を目的としたものである。

国宝『源氏物語絵巻』（徳川美術館蔵、五島美術館蔵、他所蔵）は、平安時代末期成立と目され、一九五二年に国宝指定となっている。国宝『源氏物語絵巻』に関する研究は、従来さまざまに調査や研究が進められているものの、成立や技法に関わるものが多く、描かれた装束そのものについてはまだ考察の余地が残されていると思われる。

一五年ほど前に行われた大規模な復元模写プロジェクトでは、装束の解明が大きく進んだ。しかし、平成の復元模写以降、目立った研究報告などは見られないように思う。国宝『源氏物語絵巻』の絵画部分全段を精査することによって、女房装束の色目や文様など、新たな知見を得られるものと思われる。あわせて、古典文学の注釈に記載されていることの検討も可能となるだろう。例えば、古典文学の「かさね色目」の注釈には、しばしば近世以降の説が記されており、「かさね色目」そのものを再考しなければならないと考えている。

古典語「装束」の意味合いは広く、室礼や車の装飾に対しても「装束」の語を用いているため、今回は装束のみならず、室礼に用いられる調度品にも注目する。例えば、国宝『源氏物語絵巻』に描かれる几帳や畳には古様

ISSN 1344 - 4433

愛知文教大学論叢 第21巻
Aichi Bunkyo University Review Vol.21

2018年11月30日発行

発 行 者	愛知文教大学
〒485-8565	愛知県小牧市大草5969-3
	電 話 0568-78-2211
	F A X 0568-78-2240
代 表 者	富 田 健 弘
編 集 者	愛知文教大学学術委員会

有限会社 一粒社 印刷・製本

AICHI BUNKYOU UNIVERSITY REVIEW

Vol. 21

2018

Aichi Bunkyo University , Komaki , Aichi , Japan

CONTENTS

〈Articles〉

Elizabeth Gaskell and Empire

—From *Cranford* to *Ruth*—

Chiyuki Kanamaru 1

Application development and Smart Speaker

Wataru Hayakawa 19

Data analysis about students who drop out of a university

—The reserch appraoah from students' image of class—

Masaki Kobayashi 31

Approach to Rubric at Aichi Bunkyo University

—Trial of self_evaluation quetionnaire(foreign language field)—

Tomoya Nishiguchi 41

Kang You wei's thought of studying abroad

Ma Yan 53

Research Record

71

~~~~~  
A study on supplement of geographic information  
in regional history education

~~~~~  
Yoshiya Uchida 三
五(102)

The Methology of Japan Classics Teaching

~~~~~  
Yoshihisa Takahashi 二  
一(116)

Costume database of National Treasure

“Genji Monogatari Emaki”

~~~~~  
Daijiroh Hatakeyama 一(136)
~~~~~